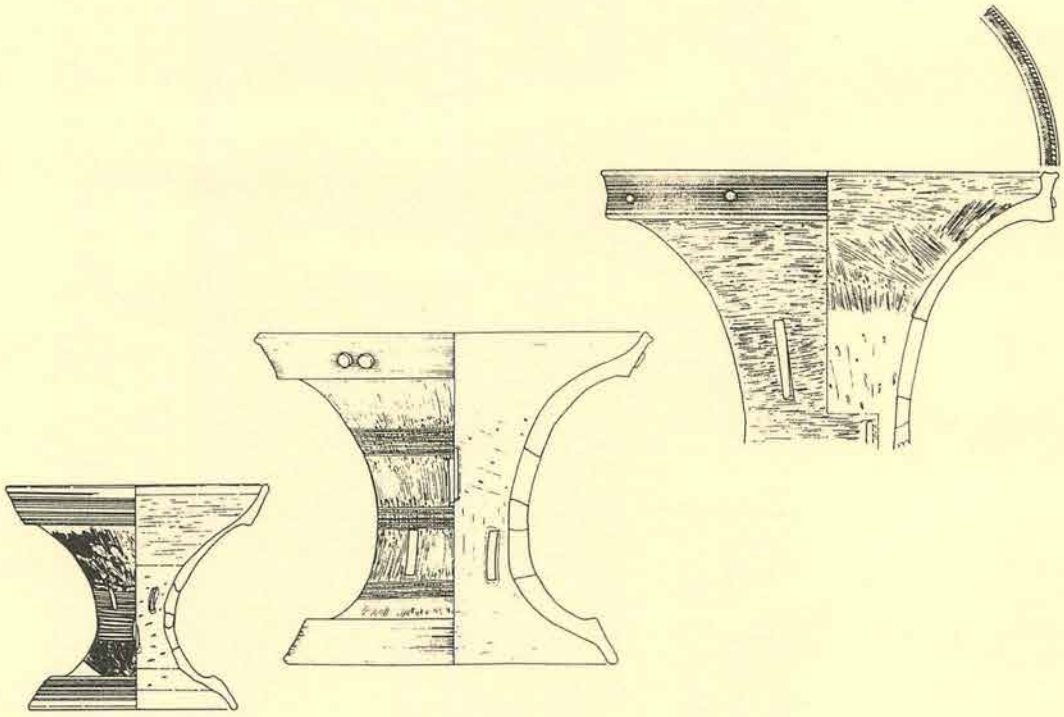
猫　橋　遺　跡

水田営農活性化排水対策特別事業（片山津本町地区）
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書



1 9 9 7

石川県立埋蔵文化財センター

猫　橋　遺　跡

水田営農活性化排水対策特別事業（片山津本町地区）
に係る埋蔵文化財発掘調査報告書

1997

石川県立埋蔵文化財センター

1・2号住居跡

4号住居跡（北から）

巻頭図版3

調査区全景（北から）

巻頭図版4

9号溝木製品出土状況

例　　言

1　本書は、石川県加賀市片山津町地内に位置する猫橋遺跡の発掘調査報告書である。

2　発掘調査は水田営農活性化排水対策特別事業（片山津本町地区）に係るもので、石川県農林水産部農地整備課（当時、耕地建設課）、加賀農林総合事務所（当時、大聖寺土地改良事務所）の依頼を受け、石川県立埋蔵文化財センターが実施した。発掘調査に係る費用は同課が負担した。

3　現地調査は200㎡を対象として平成6年11月21日から同年12月28日まで実施した。

4　現地作業では土屋宣雄（㈳石川県埋蔵文化財保存協会主任調査員、当時石川県立埋蔵文化財センター主事）、端　猛（石川県立埋蔵文化財センター主事）の協力を得ている。また、次の方々に調査作業員として参加していただいた。記して深謝の意を表す。
伊藤常次郎　江畑勇作　大坂正男　北出良二　島田　進　高橋正通　出口　勇　村田浩之
宮田重一　和田正憲

5　出土品整理は平成8年度に㈳石川県埋蔵文化財保存協会に委託して実施した他、石器の実測・トレースを直営とし、伊藤康子、竹田倫子がこれにあたった。

6　現地調査および本書の編集・執筆は、本田秀生（石川県立埋蔵文化財センター主任主事）が担当した。また、写真撮影と挿図・図版・観察表・計測表の作成は越田純子、山本澄美子、池村ひとみが行った。

7　木製品については東北大学理学部教授鈴木三男氏に樹種同定を依頼した。

8　現地作業から報告書刊行に至るまでに下記の方々からの助言、教示、協力を得ている。記して深謝の意を表す。
浜崎悟司　川畑　誠　柿田祐司　田嶋正和　宮下幸夫　福海貴子　工楽善通　光谷拓実　川端敦子
伊藤常次郎　加賀市教育委員会　県農林水産部農地整備課　加賀農林総合事務所　東出組

9　本報告の挿図中の方位は座標北（第Ⅶ系）を用い、断面図の水準線の数値は海抜高である。

10　本調査の出土遺物、記録資料等は、一括して石川県立埋蔵文化財センターが保管している。

目　　次

第１章　遺跡の位置と周辺の遺跡……1
　第１節　遺跡の位置……1
　第２節　周辺の遺跡……1
第２章　調査に至る経緯と経過……4
　第１節　調査に至る経緯……4
　第２節　調査経過……4
第３章　遺構と遺物……6
　第１節　住居跡・竪穴状遺構・土坑……6
　第２節　溝……11
　第３節　その他の遺物……13
第４章　まとめ……48

挿図目次

第１図　猫橋遺跡と周辺の遺跡……2
第２図　猫橋遺跡調査区全体図……7
第３図　１～４号住居跡・１号竪穴状遺構・２号土坑実測図…8
第４図　Ｐ－２・７・14礎板実測図……9
第５図　Ｐ－８～12礎板実測図……10
第６図　１・９・10号溝・１号土坑実測図…12
第７図　１号溝出土土器実測図〔壺１〕……14
第８図　１号溝出土土器実測図〔壺２〕……15
第９図　１号溝出土土器実測図〔壺３〕……16
第10図　１号溝出土土器実測図〔甕１〕……17
第11図　１号溝出土土器実測図〔甕２〕……18
第12図　１号溝出土土器実測図〔甕３〕……19
第13図　１号溝出土土器実測図〔甕４〕……20
第14図　１号溝出土土器実測図〔甕５〕……21
第15図　１号溝出土土器実測図〔壺・甕底部１〕…22
第16図　１号溝出土土器実測図〔壺・甕底部２〕…23
第17図　１号溝出土土器実測図〔高坏１〕……24
第18図　１号溝出土土器実測図〔高坏２・器台１〕……25
第19図　１号溝出土土器実測図〔器台２〕……26
第20図　１号溝出土土器実測図〔その他〕……27
第21図　９号溝出土土器実測図……28
第22図　10号溝・包含層出土土器実測図……29
第23図　猫橋遺跡立ち会い調査（昭和62年）出土土器実測図……30
第24図　１・９号溝出土木製品実測図……31
第25図　１号溝出土木製品実測図……32
第26図　９号溝出土木製品実測図……33
第27図　１・９号溝出土木製品……34
第28図　１・９号溝出土木製品実測図・鉄製品実測図……35
第29図　出土石器実測図〔１〕……36
第30図　出土石器実測図〔２〕……37
第31図　出土石器実測図〔３〕……38
第32図　昭和38年調査と本報告調査区……49

図　版　目　次

巻頭図版１　調査区全景
巻頭図版２　９号溝内木製品出土状況
巻頭図版３　１・２号住居跡
巻頭図版４　４号住居跡

図版１　調査区全景
図版２　３号住居跡焼土
図版３　Ｐ－15
図版４　Ｐ－１
図版５　１号土坑
図版６　２号土坑
図版７　Ｐ－20
図版８　２号住居跡
図版９　Ｐ－14
図版10　Ｐ－７
図版11　１号竪穴状遺構
図版12　Ｐ－２
図版13　南区調査風景
図版14　１号溝調査風景
図版15　１号溝内杉皮出土状況
図版16　１号構内土器出土状況
図版17　１号溝内炭化米出土状況
図版18　１号溝内木製品出土状況
図版19　北区調査風景
図版20　４号住居跡
図版21　４号住居跡
図版22　Ｐ－８
図版23　Ｐ－９
図版24　Ｐ－11
図版25　９号溝
図版26　９号溝内木製品出土状況
図版27　９号溝内弓出土状況
図版28　９号溝内梯子出土状況
図版29　Ｐ－22
図版30　９号溝内槽出土状況
図版31　10号溝
図版32　９号溝内梯子出土状況
図版33　１号溝出土土器（壺）
図版34　１号溝出土土器（壺）
図版35　１号溝出土土器（甕）
図版36　１号溝出土土器（甕）
図版37　１号溝出土土器（甕）
図版38　１号溝出土土器（甕壺・甕底部）
図版39　１号溝出土土器（壺・甕底部）
図版40　１号溝出土土器（高坏）
図版41　１号溝出土土器（高坏・器台）
図版42　１号溝出土土器（器台）
図版43　１号溝出土土器（その他）
・９号溝出土土器
図版44　９・10号溝・包含層出土土器
図版45　立ち会い調査（昭和62年）出土土器
図版46　出土土器
図版47　柱穴礎板
図版48　出土木製品他
図版49　出土木製品
図版50　出土木製品
図版51　出土木製品
図版52　昭和36年頃の猫橋遺跡周辺

表　目　次

表１　１号溝出土土器観察表(壺)……39
表２　１号溝出土土器観察表(甕)……40
表３　１号溝出土土器観察表(壺・甕底部)…42
表４　１号溝出土土器観察表(高坏)……43
表５　１号溝出土土器観察表(器台)……44
表６　１号溝出土土器観察表(その他)……44
表７　９号溝出土土器観察表……45
表８　10号溝・包含層出土土器観察表……45
表９　立ち会い調査出土土器観察表……46
表10　出土石器計測表……46
表11　礎板計測表……47
表12　出土木製品計測表……47
表13　出土鉄器計測表……47

第１章　遺跡の位置と環境

第１節　遺跡の位置

猫橋遺跡は、石川県加賀市片山津町、合河町、八日市町に跨る大きな遺跡である。加賀市は山中町と共に石川県の西南端に位置し、隣県福井県と接している。加賀市の中央部は、山中町から続く江沼丘陵、海岸部の洪積台地である橋立丘陵、そして、小松市との境にある月津台地に囲まれた、通称江沼盆地と呼ばれる平野である。ここには大日山を源とする大聖寺川、動橋川が、盆地の東西を流れている。山中町から北に流れる大聖寺川は、橋立丘陵にぶつかると、流れを西に向け丘陵の南西縁を進み、福井県境の海岸部で日本海に流れ込む。一方、盆地の東を蛇行しつつ北に流れる動橋川は平野の出口に横たわる柴山潟に流れ込む。柴山潟の湖水は新堀川が出来るまで大聖寺川とは逆の方に向い、今江潟をたどり梯川に合流し、日本海に注いでいた。

江沼盆地には、この二大河川とは別に丘陵地の流れを集める小河川がいくつかみられる。八日市川もこれらの内の一本で、上流部は保賀町あたりの細い流れで目立たない。それが、上河崎町あたりで東に折れると川幅が広がり、橋立台地の南縁を東流する。台地の途切れたあたりから方向を再び北に変え、動橋川と併走して柴山潟に注ぎ込んでいる。石川県立歴史博物館所蔵の正保国絵図には、保賀町付近で大聖寺川と分流する八日市川の姿が描かれており、当時は大聖寺川の流路の内の一本であった事がわかる。猫橋遺跡は、この八日市川に架かる猫橋の付け替えの際に発見された遺跡で、その後行われた河川改修工事の際に多量の遺物が出土し、川に沿った形で遺跡の範囲が確認された。今回報告する発掘調査は八日市川堤防の縁にある水路の改修工事に伴うもので、猫橋から300m 程上流の左岸で、大谷高校の報告（上野1967）では一番多く遺物の採集された地点に当たる。

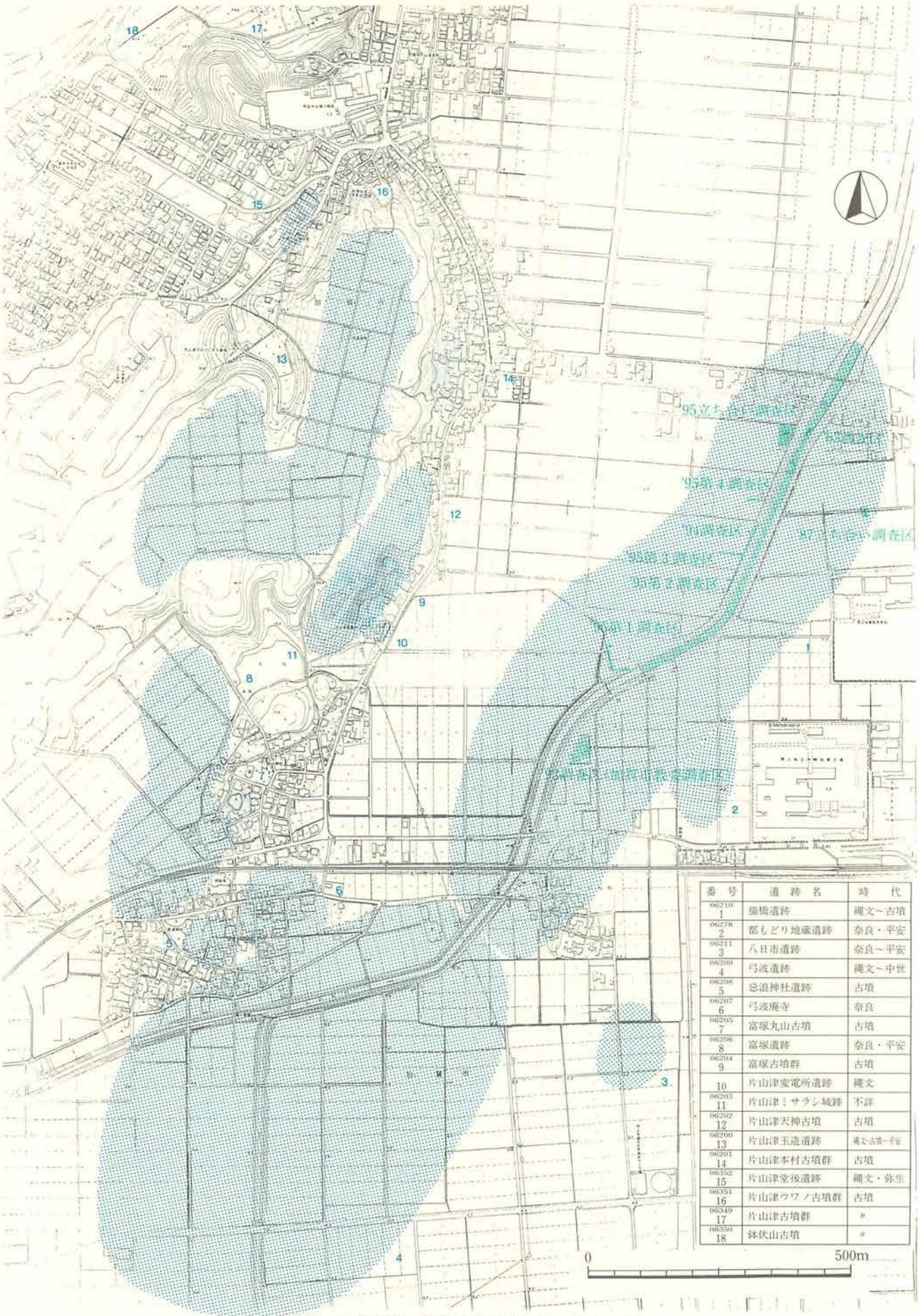
ついでに述べれば、この八日市川の流域には重要な遺跡が連なっている。上流部の保賀町には白鳳寺院である保賀廃寺が知られ、橋立台地とのつきあたりには、北陸の古墳時代研究史上重要な小菅波神社裏Ｂ１号墳がある。更に下れば、最近、大形の前方後円墳である事が確認された富塚丸山古墳とやはり白鳳寺院の弓波廃寺があり、そして猫橋遺跡に至る。

加賀市は石川県の地方都市の一つとして、市役所の置かれる大聖寺町を中心として栄えている。また、これとは別に片山津、山代の二つの温泉街を抱え観光都市としての繁栄を見せている。その一方で、平野部は県内でも有数の穀倉地帯である。毎年８月末には、県内で最初に稲刈りが始まるところとしてテレビニュースでも取り上げられるが、それは猫橋遺跡周辺の水田の様子である。近年は道路整備が進み、この水田地帯を縦横無尽に道路網が走り、それと共に宅地化も進行している。猫橋遺跡周辺でもほ場整備に伴い、大形農道の整備が進められている。

第２節　周辺の遺跡

第１図に猫橋遺跡と周辺の遺跡を載せた。合わせて猫橋遺跡の平成６年度までの調査地点を示した。図の左側の丘陵地が橋立丘陵の東南端となる。

近辺には、まだ岩宿時代の遺跡が確認されていない。加賀市内では橋立丘陵で宮地向山遺跡（田嶋他1990）が発掘調査されており、このあたりでも遺跡の眠っている可能性がある。縄文時代では片山津玉造遺跡（13）が発掘調査されている。片山津玉造遺跡は古墳時代の玉造遺跡として知られているが、昭和35年の調査時に縄文時代の竪穴住居跡が７棟が確認されている。報告（大場他1953）によれ



番号	遺跡名	時代
06210 1	猫橋遺跡	縄文～古墳
06278 2	都もどり地蔵遺跡	奈良・平安
06211 3	八日市遺跡	奈良～平安
06209 4	弓波遺跡	縄文～中世
06208 5	色浪神社遺跡	古墳
06207 6	弓波廃寺	奈良
06205 7	富塚丸山古墳	古墳
06206 8	富塚遺跡	奈良・平安
06204 9	富塚古墳群	古墳
10	片山津変電所遺跡	縄文
06203 11	片山津ミサラシ城跡	不詳
06202 12	片山津天神古墳	古墳
06200 13	片山津玉造遺跡	縄文・古墳～平安
06201 14	片山津本村古墳群	古墳
06352 15	片山津堂後遺跡	縄文・弥生
06351 16	片山津ウワノ古墳群	古墳
06349 17	片山津古墳群	〃
06350 18	鉢伏山古墳	〃

第1図　猫橋遺跡調査区と周辺遺跡（S＝1/10,000）

ばいずれも改田工事の際にブルドーザーにより破壊されており、詳細は不明と記されている。遺物は中期後半の土器、石鏃、石錐、釣針形石器、打製石斧、磨製石斧、磨石、石棒が出土している。縄文土器、釣針形石器、石棒は注目される資料である。（10）の片山津変電所遺跡は変電所建設工事の際に遺物が出土したらしいが詳細は不明である。この他、猫橋遺跡（1）、弓波遺跡（4）でも遺物の出土が確認されている。

弥生時代は、その初段階の遺跡が確認されていない。加賀市内では各地で確認例があるが、近隣ではその標式遺跡である柴山出村遺跡が、柴山潟を挟んで対岸に位置している。中期は各段階の資料がそろうわけではないが、猫橋遺跡でその散発的な出土が確認されている。加賀市教育委員会の調査した地点（以下、加賀市教委調査区とする。）で初めて遺構が確認され（田嶋他　1993）、1995年の県営ほ場整備事業に係る調査区（第1調査区）でややまとまった資料が出土している。今回の報告にも中期末の資料が若干ある。

後期初頭は猫橋遺跡が挙げられる。本遺跡は、最近ではあまり用いられなくなったが、弥生時代後期初頭猫橋式の標式遺跡である。大面積の調査が実施されていないためその内容は不明な点が多いが、1995年度調査の第1調査区から第4調査区の全てで遺構が確認されており、集落は大きく展開していることが判明している。また、今回の報告では触れないが、第1調査区と第2調査区の間には幅40m前後の旧河道跡の存在が判明している。これを挟んだ集落の展開は興味深い。この後に続く遺跡は、弓波遺跡（4）がある。弓波遺跡は、平成4年度から農道整備事業に伴い発掘調査が実施されてきたが、平成5・6年の調査区で多量の土器を出土する溝が検出され、竪穴住居跡も確認されている。また、この遺跡では緑色凝灰岩の石核、剥片が多量に出土している。後期末葉では、発掘調査資料で確実な遺構の確認はないが、土器片は弓波遺跡、弓波廃寺（6）、猫橋遺跡加賀市教委調査区などで出土している。

古墳時代にはいると前述の片山津玉造遺跡や猫橋遺跡加賀市教委調査区などで竪穴住居跡などが検出されている。片山津玉造遺跡では、40棟近い竪穴住居跡の内30棟前後が古墳時代前期から中期のもので、その多くが玉生産に関係したものであるとされている。出土した玉関係の遺物は管玉、勾玉およびこれらの未製品の他に、腕飾類や紡錘車の未製品も多く出土している。一方、猫橋遺跡加賀市教委調査区では古墳時代初頭の平地式住居跡、竪穴住居跡、掘立柱建物跡などが検出され、ここでも若干ではあるが玉生産関連遺物が出土している。

古墳時代後期では、前述の弓波遺跡で6世紀から7世紀にかけての集落跡が確認されている。6世紀代では周りに溝を有する平地式建物類似の遺構が確認され、7世紀代では掘立柱建物跡が多数確認されている。また、弓波遺跡はこの後も断続的に遺跡が継続され、中世にまで至る。

古墳は、橋立台地の平野を臨む台地縁辺部に立地が認められている。前・中期に目立ったものがなく、片山津天神古墳（12）がほぼ確実なものとされているに過ぎない。後期では前節でふれた富塚丸山古墳（7）をはじめとし、いくつかの古墳群が形成されている。ただ、宅地開発や土取り工事などで破壊された古墳も多く、未確認のまま消えていった古墳も数あるものと思われる。田嶋正和氏によれば（田嶋1993）猫橋遺跡近辺でも、「塚」の小字名が幾つか有るらしく、平野部でも古墳の存在した可能性が高い。富塚丸山古墳は平成6年に周溝の確認調査が実施され、これまで円墳とされていた墳形を前方後円墳に修正し、規模も100mを越えるものと考えられるようになった[注1]。

古代では白鳳期創建の寺院跡である弓波廃寺が、富塚丸山古墳の南方に位置している。範囲確認調査が実施され（小森1978）、寺院域を画すると考えられる柱穴列が確認されている。前述した弓波遺跡は、この廃寺と八日市川を挟んだ対岸に位置している。また、富塚丸山古墳の西にある富塚遺跡も奈

良・平安期とされており、廃寺、富塚丸山古墳を取り囲むような遺跡配置は興味深い。古代忌浪郷の比定地である本地域の中核をなす遺跡群なのかもしれない。

中世では、先の弓波遺跡以外明確な遺跡がない。ただ、猫橋遺跡でも少量の遺物は確認されており。近隣に集落の存在が想定できる。中世後半以降は発掘調査等で明確な遺跡が確認された例は近隣ではまだない。

註

1）加賀市教育委員会によって実施された。田島正和氏の教示による。

第2章　調査に至る経緯と経過

第1節　調査に至る経緯

今回の発掘調査の要因は水田営農活性化排水対策特別事業排水路改修工事で、猫橋遺跡に係るものとしては、名称は若干異なるが昭和62年度から対岸の合河町地内で実施されている。石川県立埋蔵文化財センターは、県農林水産部耕地建設課（大聖寺土地改良事務所）の依頼を受け、同年9月に遺跡の分布調査を実施している。昭和62年度の調査地は今回の発掘調査地点の対岸に当たる地域を含んでいるが、分布調査では遺跡は発見されなかった。しかし、工事中に遺物が出土し、急遽立ち会い調査を実施している。第3章第3節報告遺物の中にこの時出土したものを含めた。

平成2年からは片山津町地内に事業が移り、平成3年の分布調査で今回の発掘調査地点が確認され、同4年には今回報告地点の下流部の立ち会い調査が行われている。平成6年には耕地建設課から今回報告地点の発掘調査依頼が石川県立埋蔵文化財センターに出され、同年、発掘調査を実施することとなった。発掘調査地点は、分布調査によるとすでに包含層はなく、既設の水路の溝底に遺構が残存しているという状況であった。また、発掘調査前の打ち合わせで、この水路は農繁期には使用されており、発掘調査の実施は、周囲の状況も合わせ稲刈り終了後と決まった。

第2節　調査経過

発掘調査は平成6年11月21日から開始した。同日に重機により表土除去作業を行い、24日までにプレハブの建て上げと機材の搬入を済ませ、25日から作業員を導入して本格的な調査に取りかかった。グリッドは調査区と交差する農道脇の工事杭を基準に、南側から10mきざみで1～11区を設定した。

調査は水路の上流、南側（南区）から開始した。29日までに上流側半分の遺構検出を終了し遺構の掘り下げに取りかかっている。季節柄天候不順でかつ湧水がみられ、おまけに検出面が強粘質の土層で、遺構検出、遺構掘り下げとも順調には進まなかった。遺構は大形のものや溝などは割と確認しやすかったが、柱穴はベース面の土層がやや汚れる程度で確認にてまどった。掘り下げを進めると楕円形の柱穴の底に礎板の敷かれたものが現れた。また、当初は近世の河道跡と思いこんでいた1号溝から大量の土器、木質遺物が出土し始め、雪が降り始めるまでに調査が終了できるか不安がつのった。12月の初旬は南区の遺構の掘り下げに終始している。1号溝の掘り下げがやや進んだ段階で、北側の調査区（北区）の遺構検出を開始した。

1号溝を過ぎてしばらくは、排水溝にかかって柱穴が検出された以外遺構は見あたらなかったが、8区を過ぎたあたりから再び遺構が現れだした。9号溝の上面では多量の遺物が出土し、また、9区

の真ん中付近で半円形に列ぶ楕円形の柱穴が確認され、この柱穴列の確認で南側の柱穴が住居跡の柱穴であることが理解できた。さらに10区では半円を描いて溝が確認された。12月中旬からは１号溝の掘り下げと並行して北区の遺構の掘り下げを行った。とうとう雪が降り出すようになった。

１号溝は掘り下げた深さが２ｍに達しても遺物の出土が止まらず、安全上これ以上の掘り下げを断念した。大量の土器、木質遺物と共に焼けた籾や杉皮などが出土している。９号溝は土器の出土はストップしたが溝底がはっきりせず、更に掘り下げを進めた。覆土はやや汚れた白色の粘土で、ベース面とも区別が付かない。このため南側を大きく掘りすぎてしまった。しばらく遺物の出土はなかったが、突然大量の木質遺物が顔を表し、あれよあれよと言う間に溝内は木質遺物で埋め尽くされてしまった。針葉樹系の遺物の残りは比較的よく、第23図の柱などは作業員さんが上に乗ってもびくともしなかった。半円状の柱穴列は予想どおり礎板が姿を現し、南側のものと同様の柱穴と判明した。

天皇誕生日もクリスマスイブも休みなく、天候にもめげず調査を進めた。９号溝からは弓、槽、梯子などが出土し、作業員さんともどもはじめて実物をみる弥生時代の木製品に歓喜していた。24日にようやく遺構に係る調査を終了し、27日に埋め戻しを行い、御用納めの28日に機材を撤収し、やっとの事で現地作業を終了した。

出土品整理は洗浄を除いて平成８年度まで実施できなかった。（社）石川県埋蔵文化財保存協会に石器の実測・トレース以外を委託して実施した。接合では、１号溝から出土した土器が思ったほど接合できなかった。出土点数が多いため土器の大きさで実測遺物の選別を進めたが、このため柱穴等出土土器が実測できなかった。時間が許せば直営で補おうと考えていたが、果たせなかった。また、木製品は礎板など取り上げ時に破損していたものがうまく接合できず、１枚の板を分割して実測することになってしまった。残りの良かった柱でさえ、加工痕の読みとりがうまくできないようになってしまい非常に残念である。石器も十分な点数が実測できていないが、器種の構成は何とか捉えられるように配慮したつもりである。

第３章　遺構と遺物

第１節　住居跡・竪穴状遺構・土坑（第３、６図）

第３図に１～４号住居跡・１号竪穴状遺構・２号土坑を、第６図に１号土坑を載せた。また、第４・５図に柱穴の礎板をまとめた。

検出した住居跡は削平のためか壁の立ち上がりがなく、竪穴式となるのか、平地式となるのか判断できない。或いは竪穴式、平地式の差が立地条件の違いによる構築方法の差異に過ぎないのかもしれない。

１号住居跡はＰ－19を主柱穴とし、周溝の巡るものと考えた。周溝の溝底、および幅については自信がない。周溝覆土はやや炭化物を含む砂質土で、ベース面の土層とほとんど変わらない。柱穴の底に礎板は検出されなかった。２号住居跡はＰ－７、Ｐ－14を主柱穴とするもので、全体では６本程となろうか。柱穴間は２ｍほどである。Ｐ－14は、長さ１ｍ、幅50cm、深さ50cm程で厚さ７cmほどの礎板が２枚底に引かれていた。Ｐ－７は規模はわからないが、こちらの礎板は１枚であった。いずれも覆土はやや汚れた黄灰白色の粘土で、Ｐ－７の柱痕と思われる部分では黒褐色の粘土に前述の粘土が混じったような状態であった。

３号住居跡はＰ－15、Ｐ－17が主柱穴と思われる。周溝が確認されているが南側は２重になっている。Ｐ－18辺りで焼土がみられたが、位置の記録前に不明となってしまった。また、後述する２号土坑の覆土に焼土の含まれる層があり、これと連続するものとも考えられる。Ｐ－15は確認された部分で１ｍ程あり、本調査区では最も大きい柱穴である。底面に礎板は検出されなかったが、木材の小片が残っている。礎板は抜き取られたと考えられる。住居跡の形態は、１、２号住居跡と同じと思われるが、柱穴間は４ｍほどあり、この間に柱穴が入るとすれば全体では８本程であろうか。

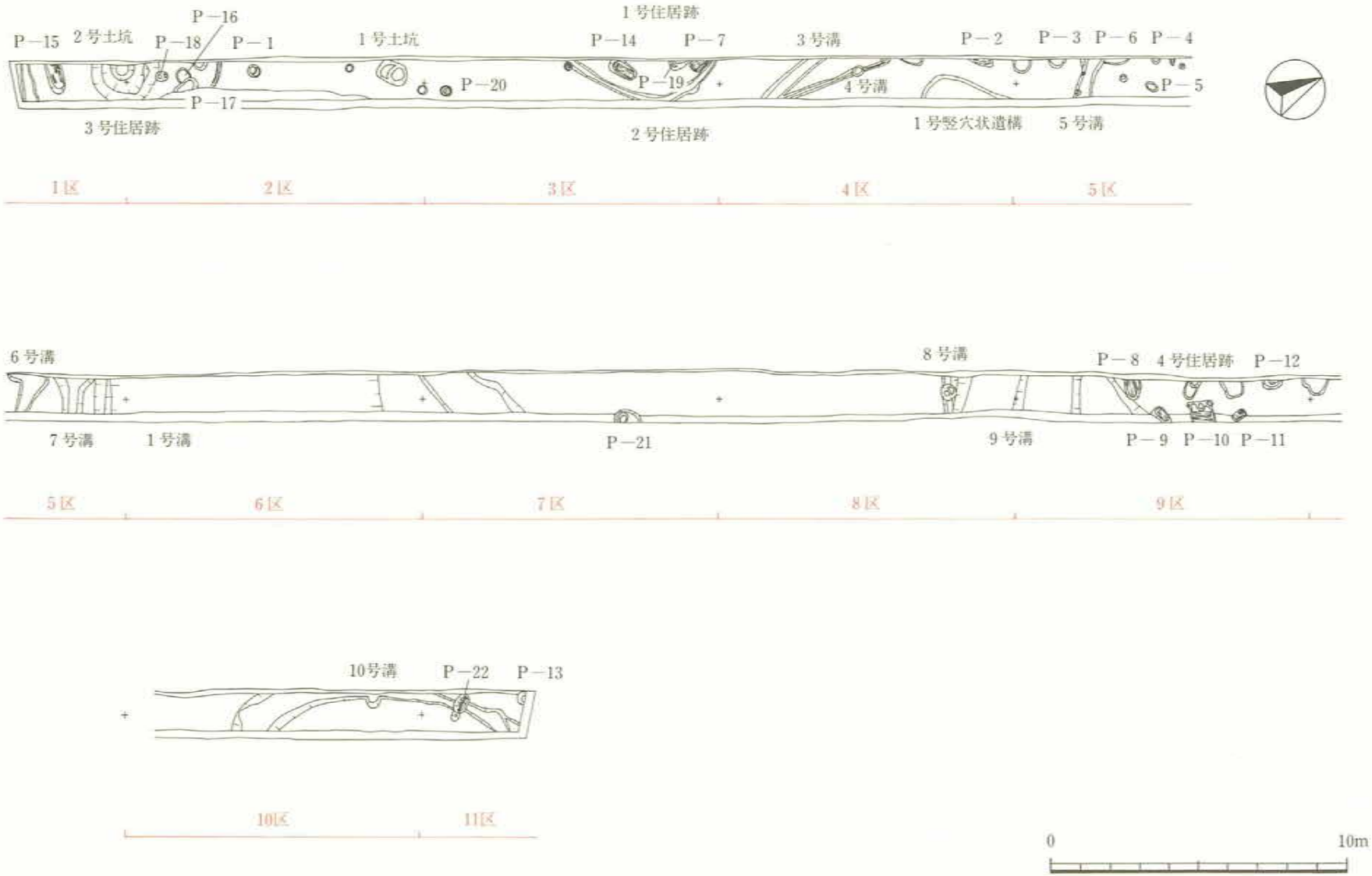
４号住居跡はＰ－８～12の５つの柱穴が半円状に列んでいる。ただし、Ｐ－10は若干円弧の内側に入る。周溝は確認できなかった。柱穴間は６～70cmだがＰ－11と12の間のみ１ｍとなっている。いずれも礎板が敷かれているが、２号住居跡のものと比べ薄く、割れているものも見受けられる。Ｐ－11では柱の下端が残っていたが、状態が悪く、取り上げは不可能であった。検出された部分がほぼ半分だとすれば、柱列の径は内側で４ｍ程となる。柱穴は８本から10本程になろう。

この他、Ｐ－２でも礎板が残っており、これも住居跡となろう。また、Ｐ－１などの円形の柱穴も住居跡、或いは掘立柱建物の柱穴の可能性が高い。

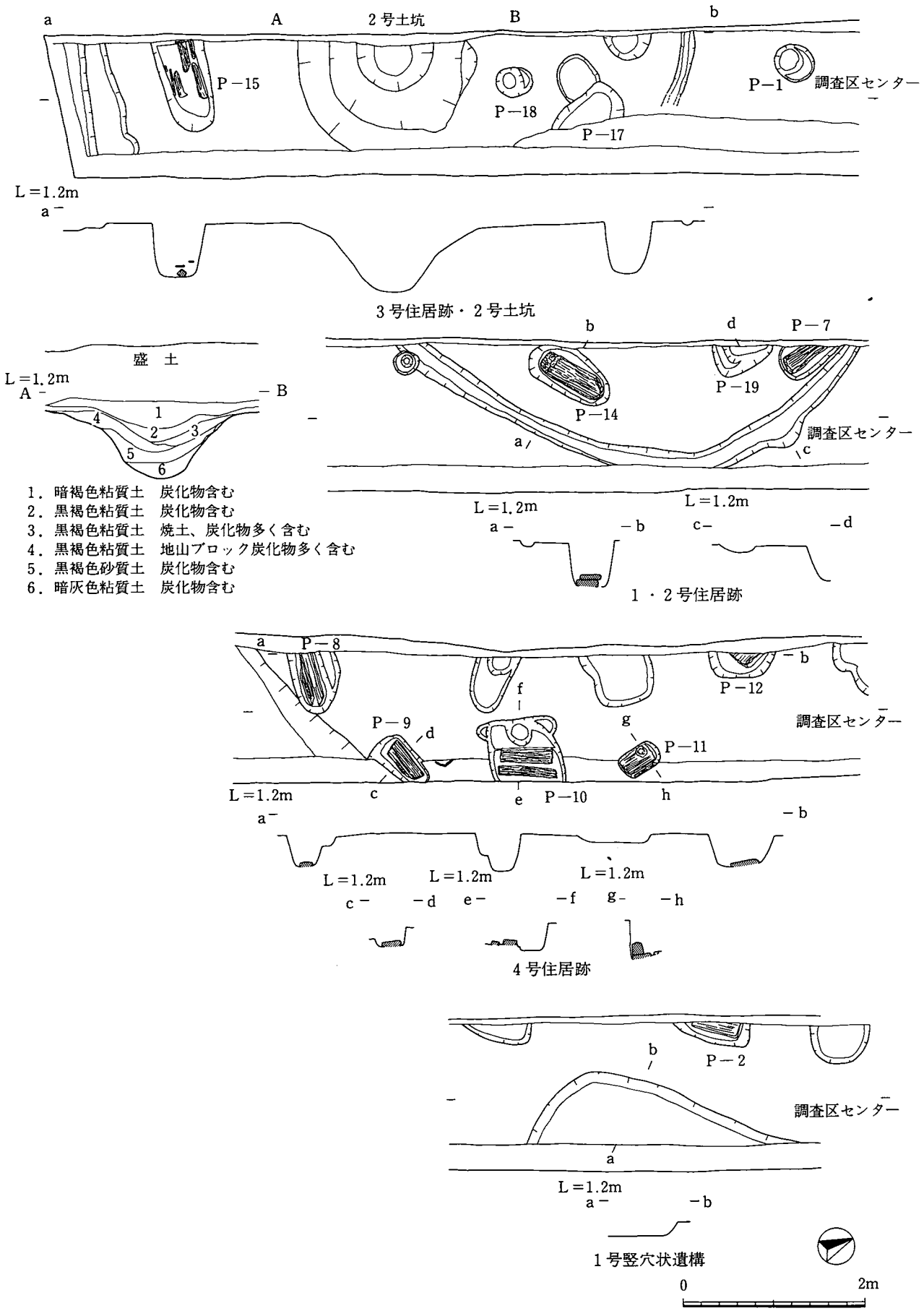
１号竪穴状遺構は前述の住居跡とは反対の遺構で、壁の立ち上がりは確認できるものの、柱穴、周溝は確認できないものである。深さは20センチ程である。コーナー部のみ捕らえているため、本来的に柱穴が存在しないのかは不明である。また、第６図の９号溝の上層も同様な遺構であった可能性がある。

１号土坑は、長径１ｍ、短径70cm程の不整楕円形を呈する。坑底は２段落ちとなり、浅い方で15cm、深い方で20cm程である。２号土坑は３号住居跡中央で半分程を捕らえた。丸みを持つ底からやや開いて立ち上がり、途中で更に大きく開いて検出面に至る。これまでの確認例からすると堅果類の貯蔵穴に類似するが、坑内からの出土はない。覆土中位辺りに焼土、炭化物を多く含む層がある。

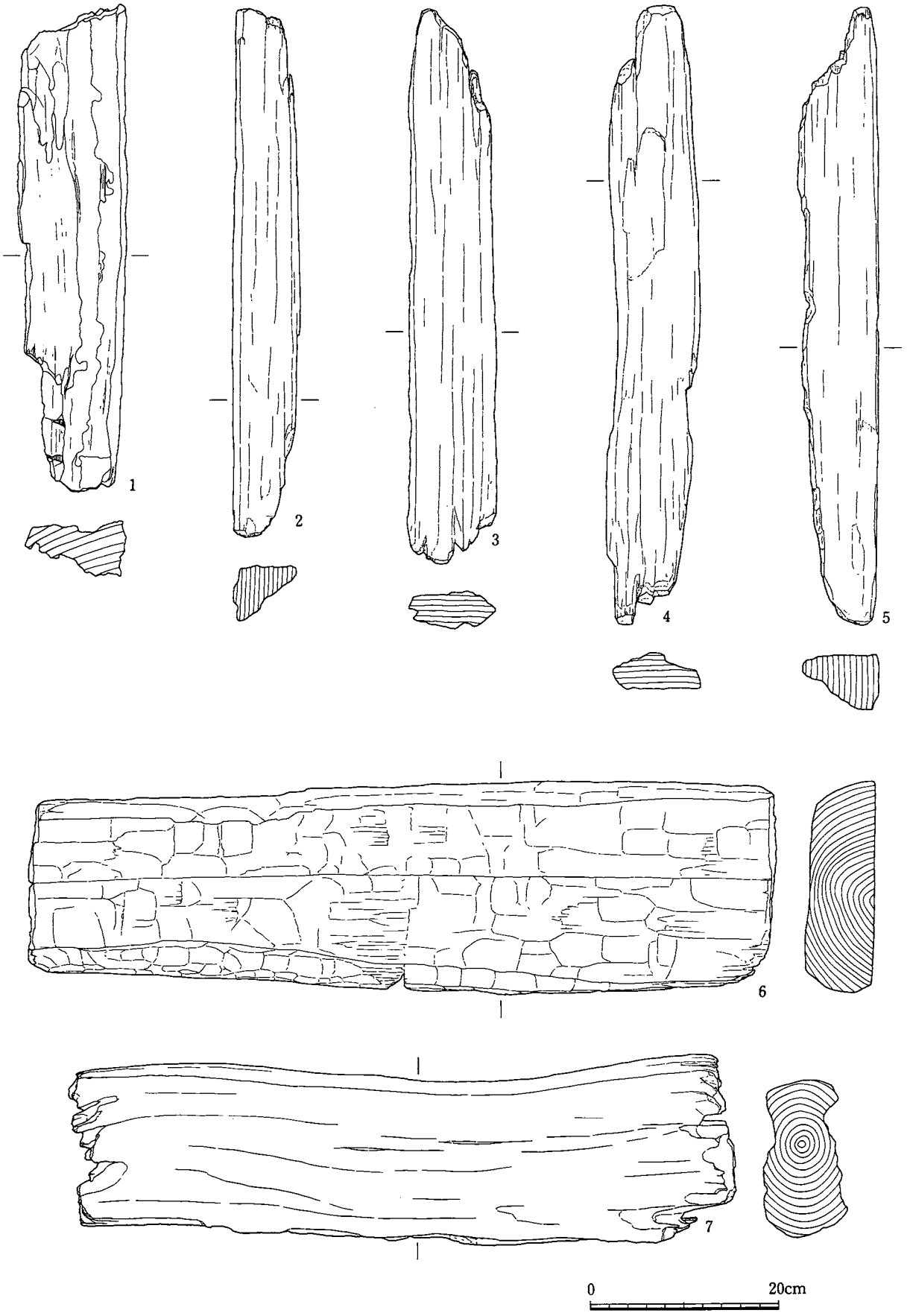
いずれの遺構も少量の土器片が出土しているが、今回は図化していない。大きくは猫橋式の範疇で捉えられる。



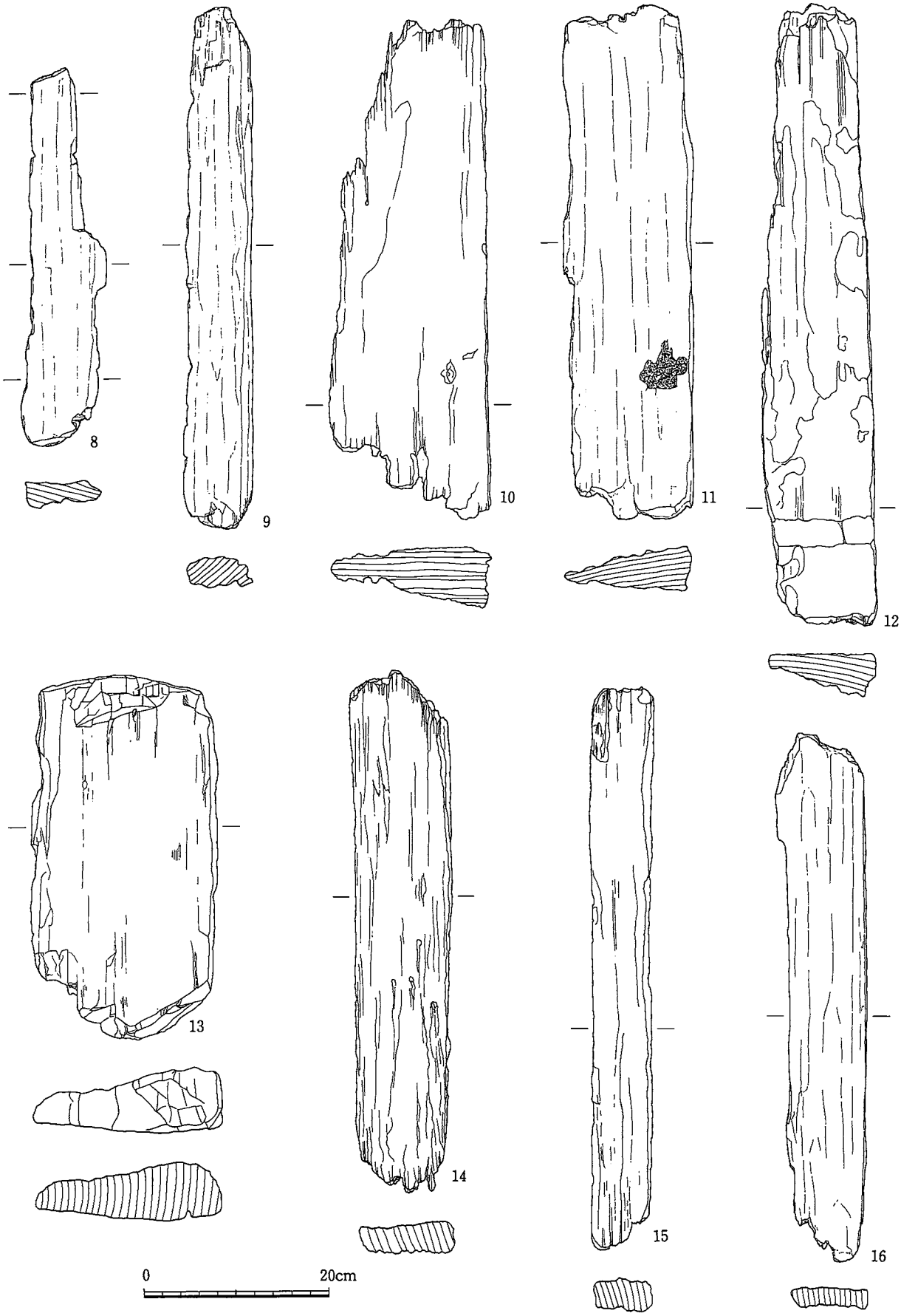
第2図　猫橋遺跡調査区全体図（S＝1/200）



第3図　1～4号住居跡・1号竪穴状遺構・2号土坑実測図（S＝1/60）



第４図　Ｐ２・７・14　礎板実測図（Ｓ＝１/６）



第５図　Ｐ８～12　礎板実測図（Ｓ＝１／６）

第2節　溝（第2・6図）

溝は、住居跡の周溝としたものを除いて9条が確認された。第6図には1・9・10号の実測図を載せた。また、第7～20図には1号溝出土土器を、第21図には9号溝出土土器を、第22図には10号溝および南区出土土器を載せた。また、第23～27図には1・9号溝出土木製品をまとめた。遺物の詳細については観察表を参照願いたい。

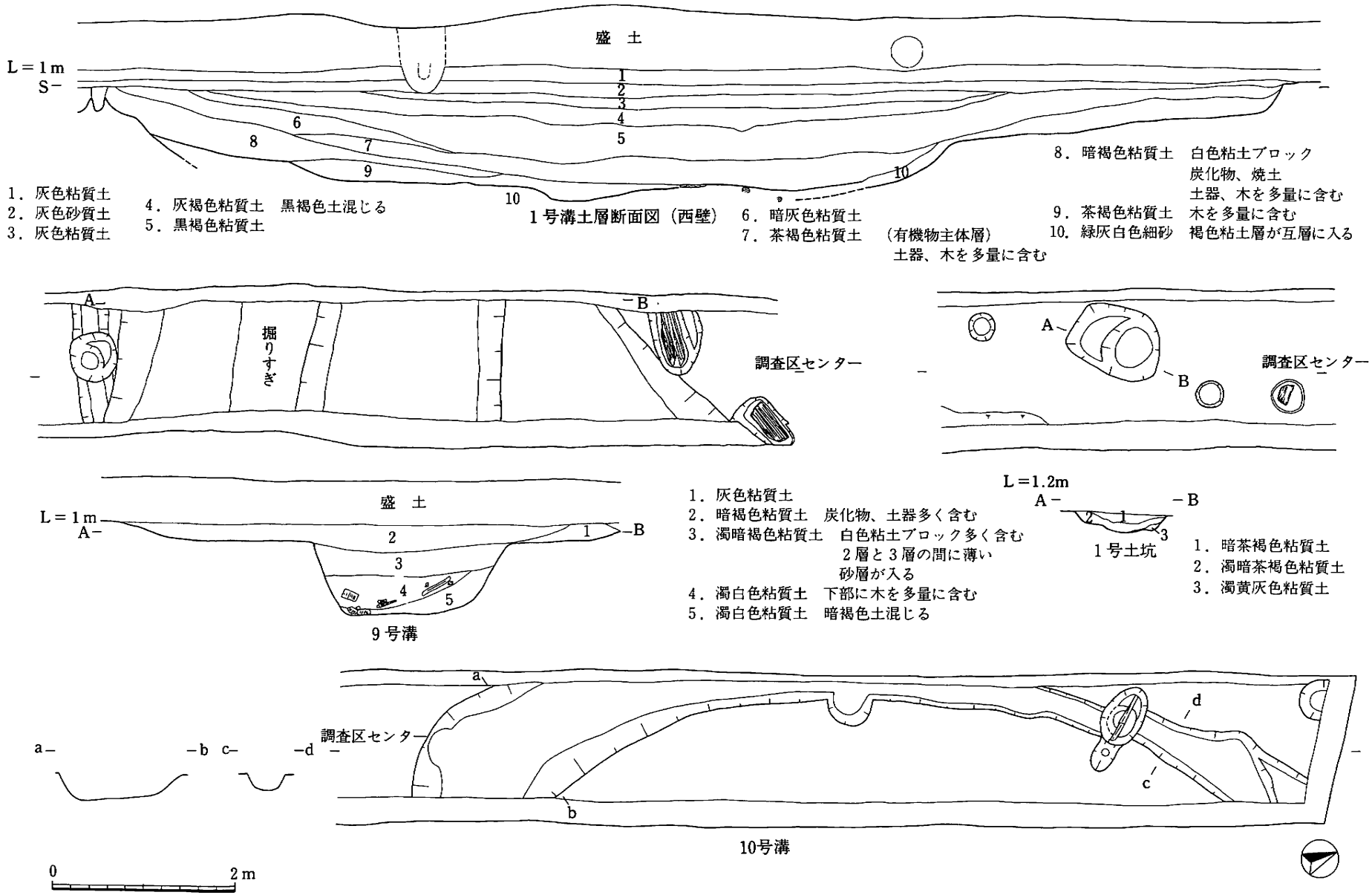
1号溝は、細長い調査区のほぼ中央に位置する。上幅は14m程であるが、北側の立ち上がりは疑わしいものがある。この部分のベースとした土層は砂であるが、この砂がやや汚れており、掘り下げを進めていくと下層の遺物を含む層との区別が出来なくなる。また、北岸と南岸では検出した上場のラインが異なり、河道の蛇行部に当たっているのかもしれない。1、2層は耕地整理前の耕作土と思われる。3層は中世土師器が出土しており、この時期以降の堆積であろう。4層は上位の3層と下位の5層が入り交じった層である。この状態からすれば5層の上部は削平されている可能性がある。5層から下位が弥生時代の遺物を含む層で、南岸では有機物を多量に含む茶褐色の粘質土が、灰色土や白色の粘土層を含む層と互層状態で堆積している。5、7、8層は多量の土器と木質遺物を含む層で、7層上位で杉皮が出土している。また、東壁の同層中から焼けた籾が塊状となって出土した。8層中には二枚貝の殻の部分が溶けて残った薄皮が多くみられた。また、5、7層は粘質土としたが、細かい砂が互層状をなしている。10層は緑灰白色の砂層中に茶褐色粘質土の薄層が互層状をなしている。上位の層ではどちらかと言えば南岸寄りで土器の出土が多かったが、この層では中央からやや北寄りで土器が多く出土する傾向があった。遺物はさらに下位からも出土する。

出土する土器は大形破片を含むが完形のものはなく、また、若干時期幅があるようで中期末の戸水b式から法仏式の初めぐらいまでを含んでいる。一応器種別にみてみると、壺では第9図33、甕では第10図1～3、第11図12、第14図63等が中期末に位置づけられるものであろう。高坏、器台でははっきりとした古手のものはないが、器台では第18図2から第19図5、そして第19図6へと言う変化の流れが見て取れる。

木質遺物は建築部材と思われるもの以外は少ない。第28図27の木鏃、同28の盾、同29の横槌、同30の編み板と考えられるもの、同31の二股鍬があり、同34は矢とも考えられるが、出土した杉皮に絡んで、木の皮をむく道具という考え方も可能である。第28図35は鑿と考えられる鉄製品である。極めて残りが良く、出土時には攪乱等の紛れ込みかと考えたが、そのような痕跡がみられないことより弥生時代のものと判断した。7層中から出土している。この他、樹皮、種実等が出土している[注]。

9号溝は当初、幅5m前後の小流路で、1号溝の小型版と考えていた。2層は炭化物を多く含む土層で多量の土器が出土した。この下位は砂の薄層を挟んで3層となるのだが、この3層は柱穴の覆土と同様の土層でベース土との区別がつけにくい。また、遺物は皆無である。小流路との思いこみから全体を掘り下げたが、木質遺物の出土する範囲とそうでない範囲に分かれ、断面観察の結果、南側が掘り過ぎと判断できた。上層（1、2層）は竪穴状遺構と思われる。底に近づくほど暗褐色土を含む割合は少なくなり、ベースの土層と区別がつけづらいが、逆に木質遺物は多くなるため、遺物の出る範囲が掘れる範囲と言った状況であった。

土器は上層で多量に出土したが、下層では図示したものがほとんど全てである。上層のものに比べやや古いという感じも受けるのだが、はっきりしない。逆に木質遺物は建築部材の他、弓、槽など多様なものがある。また、遺存状態も1号溝に比べやや良い。第24図1の梯子は全長187cmで県内では最も長いものであろう。惜しむらくは取り上げの際に数カ所で折れてしまった事である。同図2の柱



第6図　1・9・10号溝・1号土坑実測図（S＝1/60）

は下端に根がらみを受ける抉り込みが施され、上端には逆に造り出しが行われている。この２点と第26図19の鼠返しがセットとなる可能性がある。遺構では捉えられなかったが、高床式倉庫の存在が窺える資料である。この他、第27図24の弓、同22の鋤柄、同26の槽などがある。同図25は先端が丸くなっており杖とも考えられるが、ボッカ持ちの杖と材の用い方が異なっており良くわからないものである。

10号溝は４号住居跡とは逆向きの円弧状に検出された。溝底は若干丸みを持つ。両端の幅が広がることから２本の溝の切り合いを想定できるが、判断できなかった。これに切り合ってＰ－22があり、これには径10cm程の丸棒状の木が途中で折れた状態で入っていた。根がらみを持つ柱穴であったのかもしれない。10号溝自体は平地式、或いは竪穴式住居跡の周溝とも考えられる。遺物はこの手の溝としては本遺跡では多い方である。時期的には猫橋式の中では若干古いのではと思われる。

この他の溝について簡単にふれておく。３、４号溝としたものは住居跡の周溝と考えられるものだが、連続して捕らえられない。深さは５cm程度である。５～７号溝は暗灰色の覆土で、時代的には新しい。８号溝は弥生時代のものと思われるが、出土遺物が少なくはっきりしない。

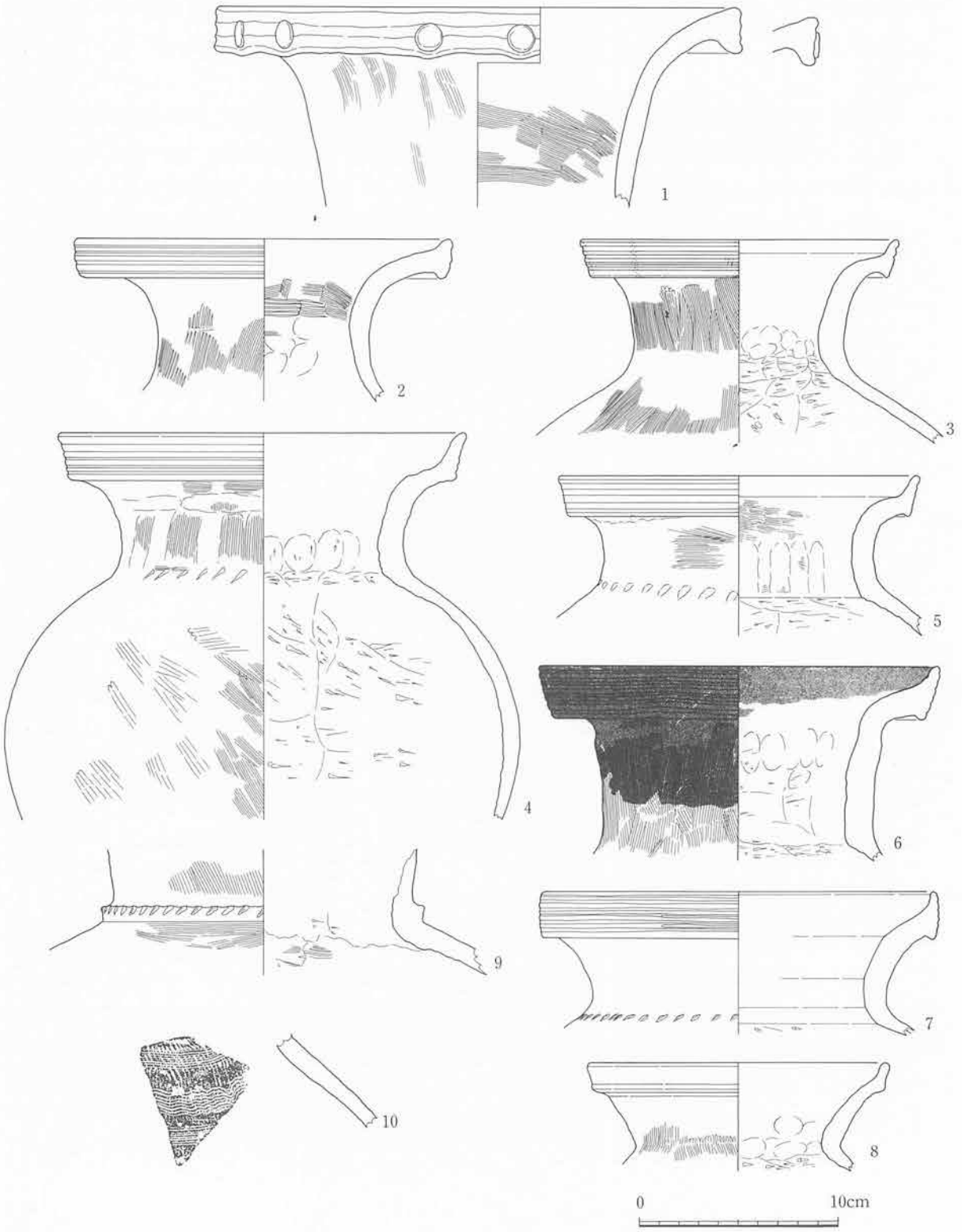
第３節　その他の遺物

第22図８～10は南区包含層出土土器、第23図には昭和62年立ち会い調査出土土器、第29～31図には出土石器を載せた。第23図８は10区出土であり、概ね10号溝出土と考えられる。第23図の立ち会い調査時出土土器はどの様な状態で出土したのか定かでないが、２のように中期末に位置づけられるものがあり興味を引く。１号溝や昭和38年の採集資料（上野1967）でもこの時期のものがあり、付近にこの時期の集落が展開する地点があるのかもしれない。

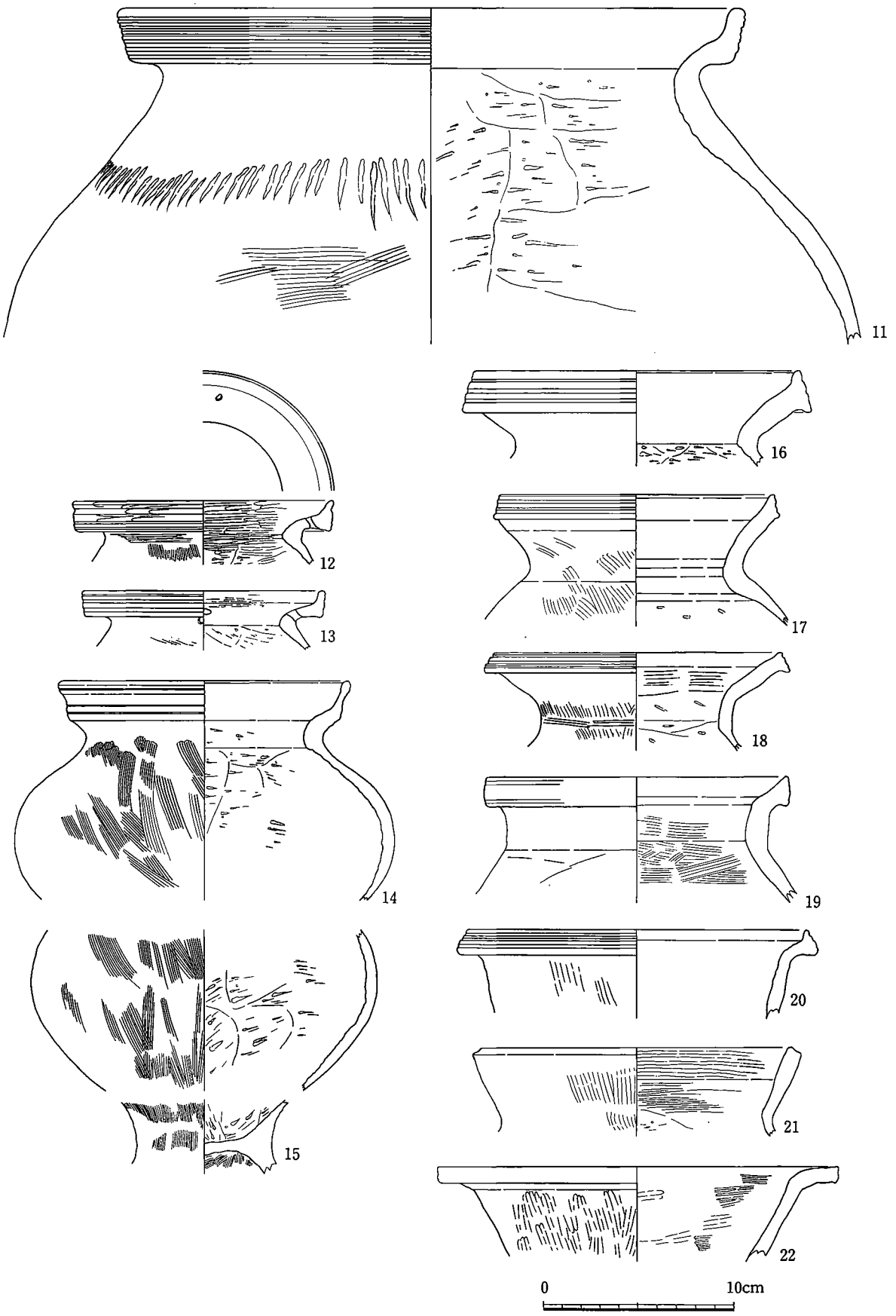
石器は磨石類（第29図、第30図５）、砥石（第30図６・７）、台石（第30図８、第31図９）などがある。磨石類はやや堅い石材を用いたものが多い。砥石には砂岩を用いている。第31図９の台石はちょうど９号溝横の排水溝掘削時に出土しており、竪穴状遺溝の遺物と思われる。両面共に磨滅痕が著しい。磨石類とセットをなすのか、或いは９号溝出土の横槌などのたぐいとセットをなすのであろうか。興味深いところである。この他、緑色凝灰岩の剝片なども出土しているが、量的には少ない。

註

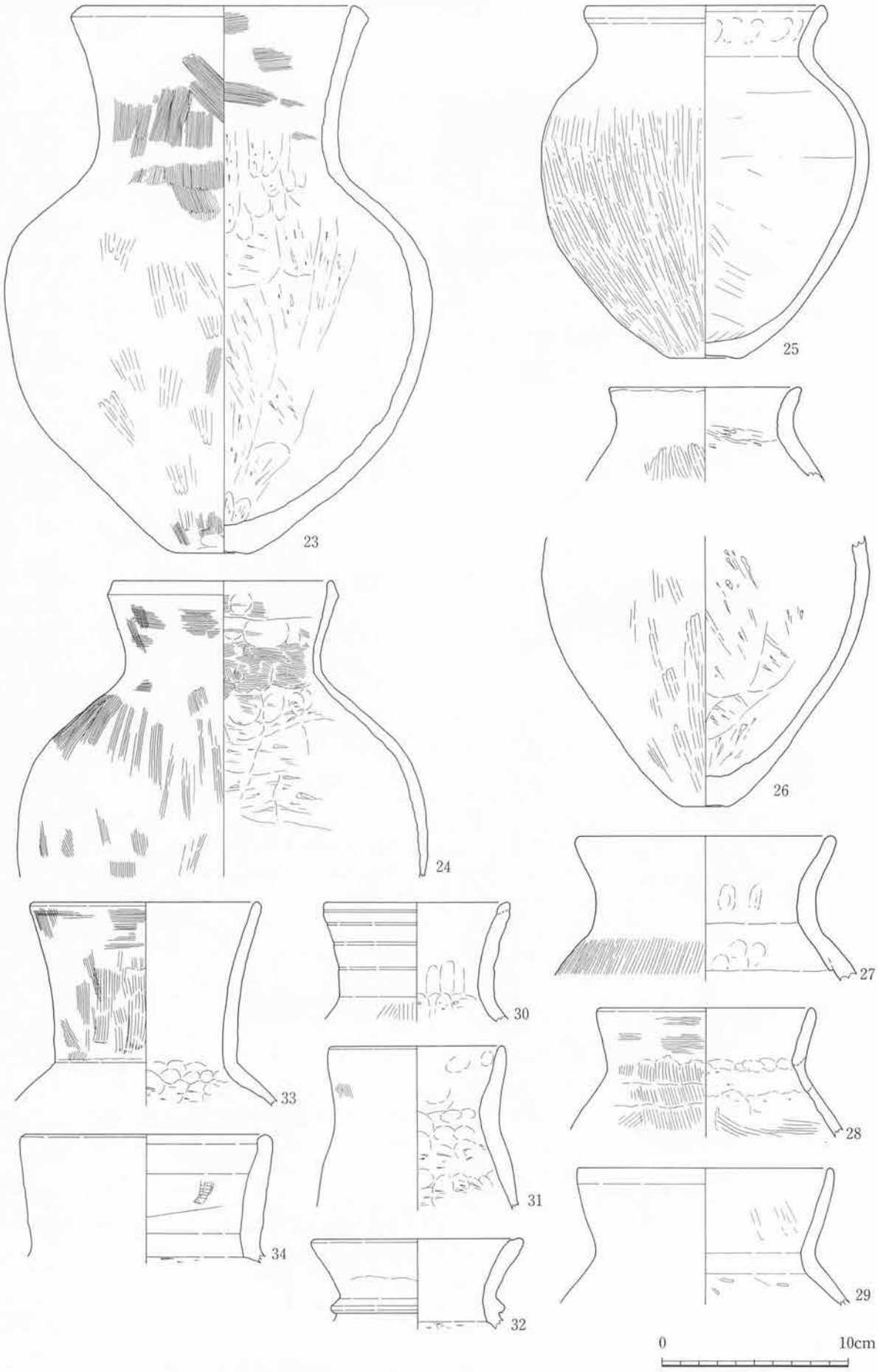
樹皮については製品と断定できなかったので、今回は実測対象から外している。欅、桜等が出土しているが、多種多様な用途に用いられていると考えられる。なお、曲物容器に対し、その技術の確立が弥生時代で、６世紀代の東北地方での樹皮製曲物状容器の出土を曲物容器の一定の普及とする解釈があるが間違いであろう。現に秋田県戸平川遺跡で縄文時代の樹皮製曲物状容器の出土があり（古代史発掘総まくり1996　アサヒグラフ）、仮にこの出土がなくても他の出土品からの想定は可能であろう。むしろ弥生時代以降の曲物が「材質の異なる同じ系統上の容器」なのではあるまいか。



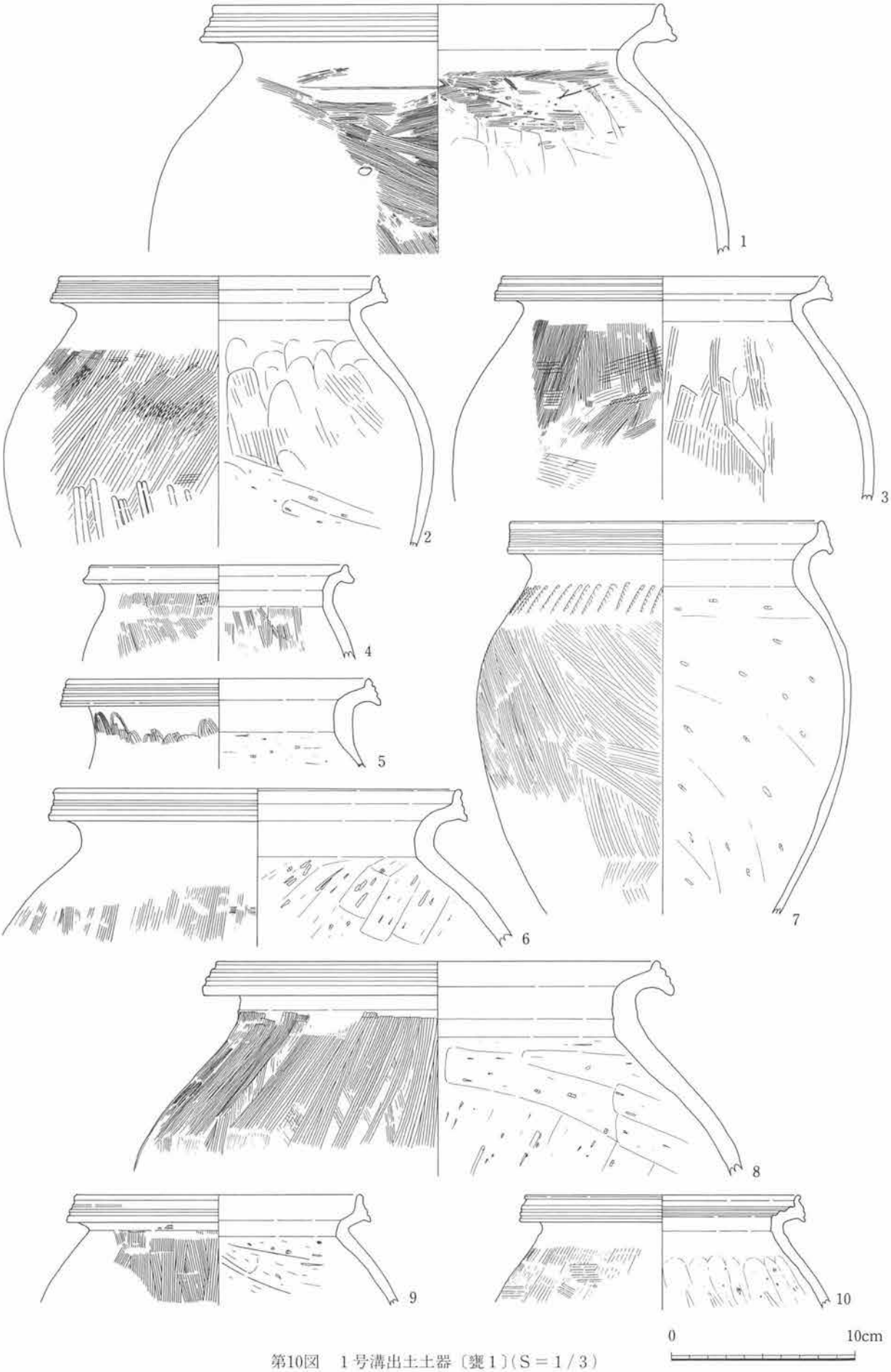
第7図　1号溝出土土器〔壺1〕(S＝1/3)



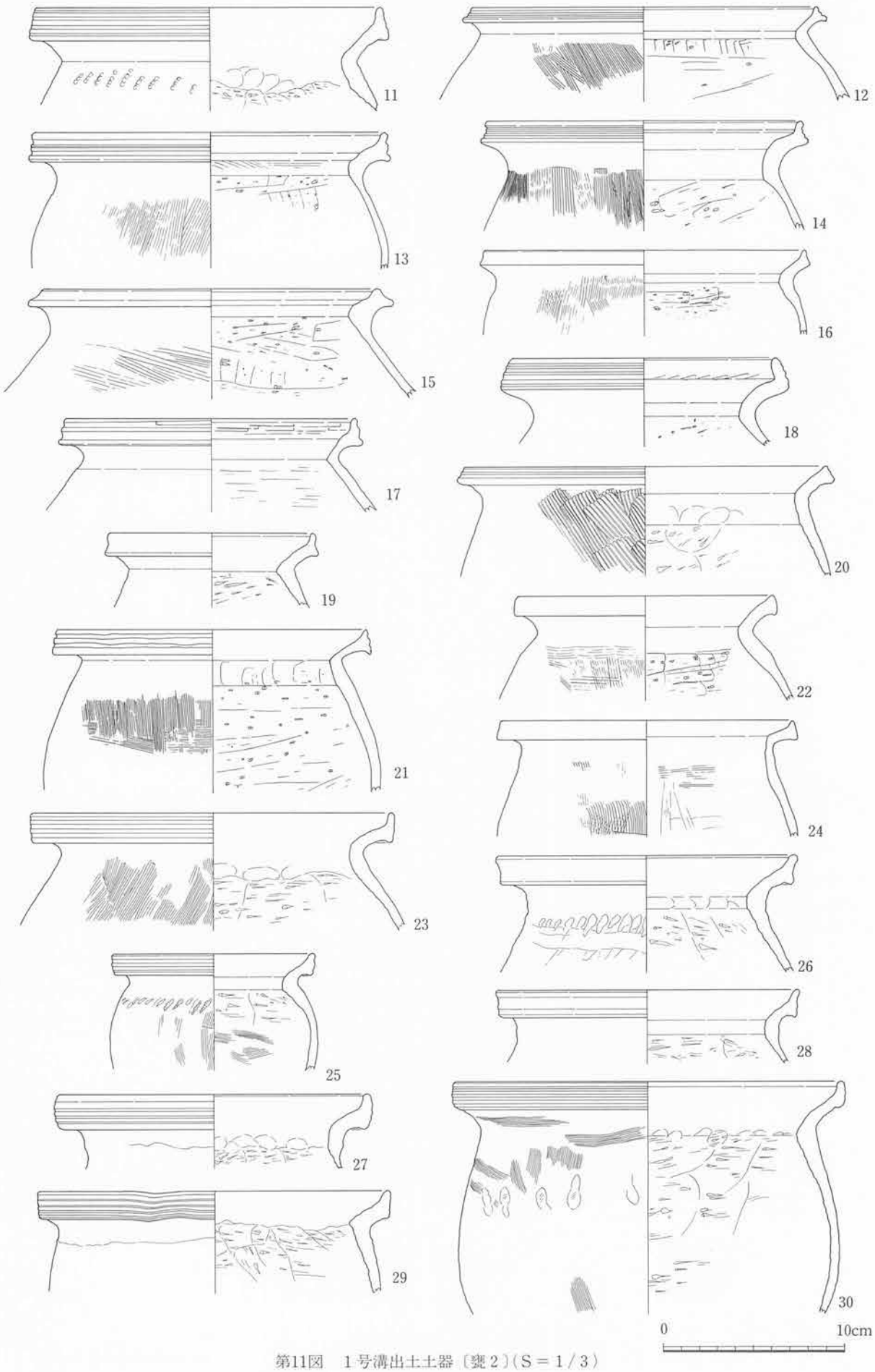
第８図　１号溝出土土器〔壷２〕(S＝１/３)



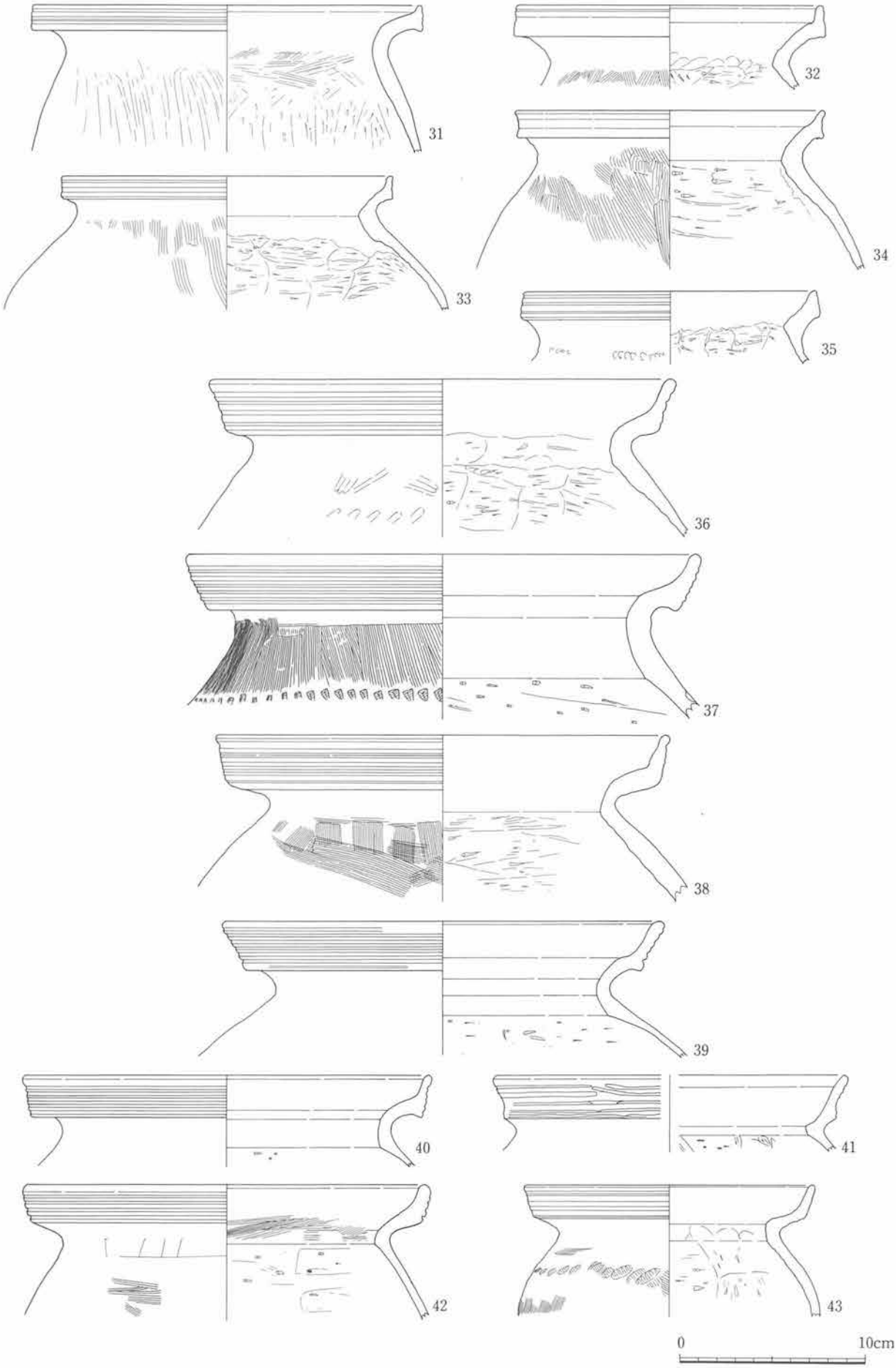
第９図　１号溝出土土器〔壺３〕(S＝1／3)



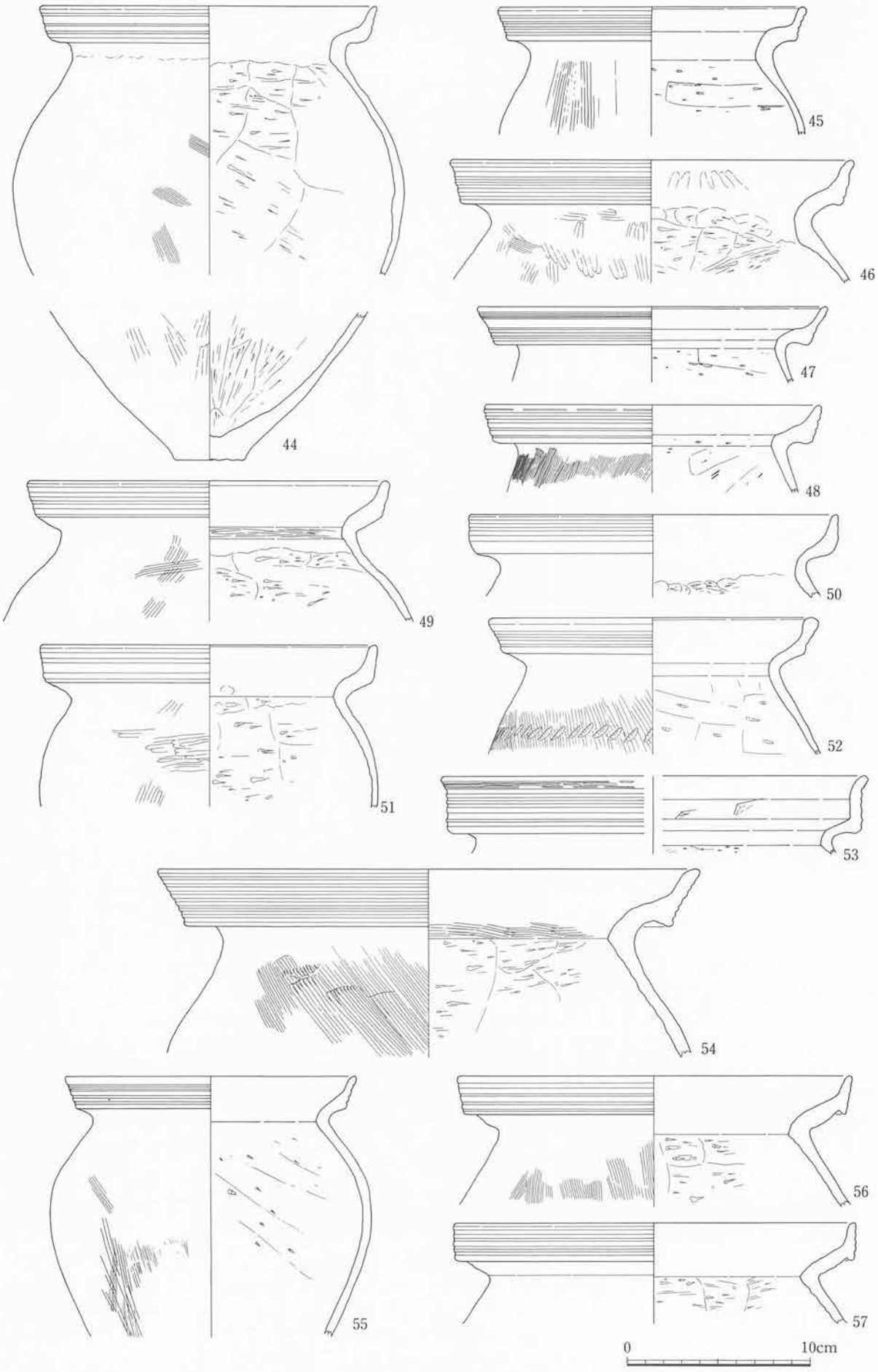
第10図　1号溝出土土器〔甕1〕(S＝1/3)



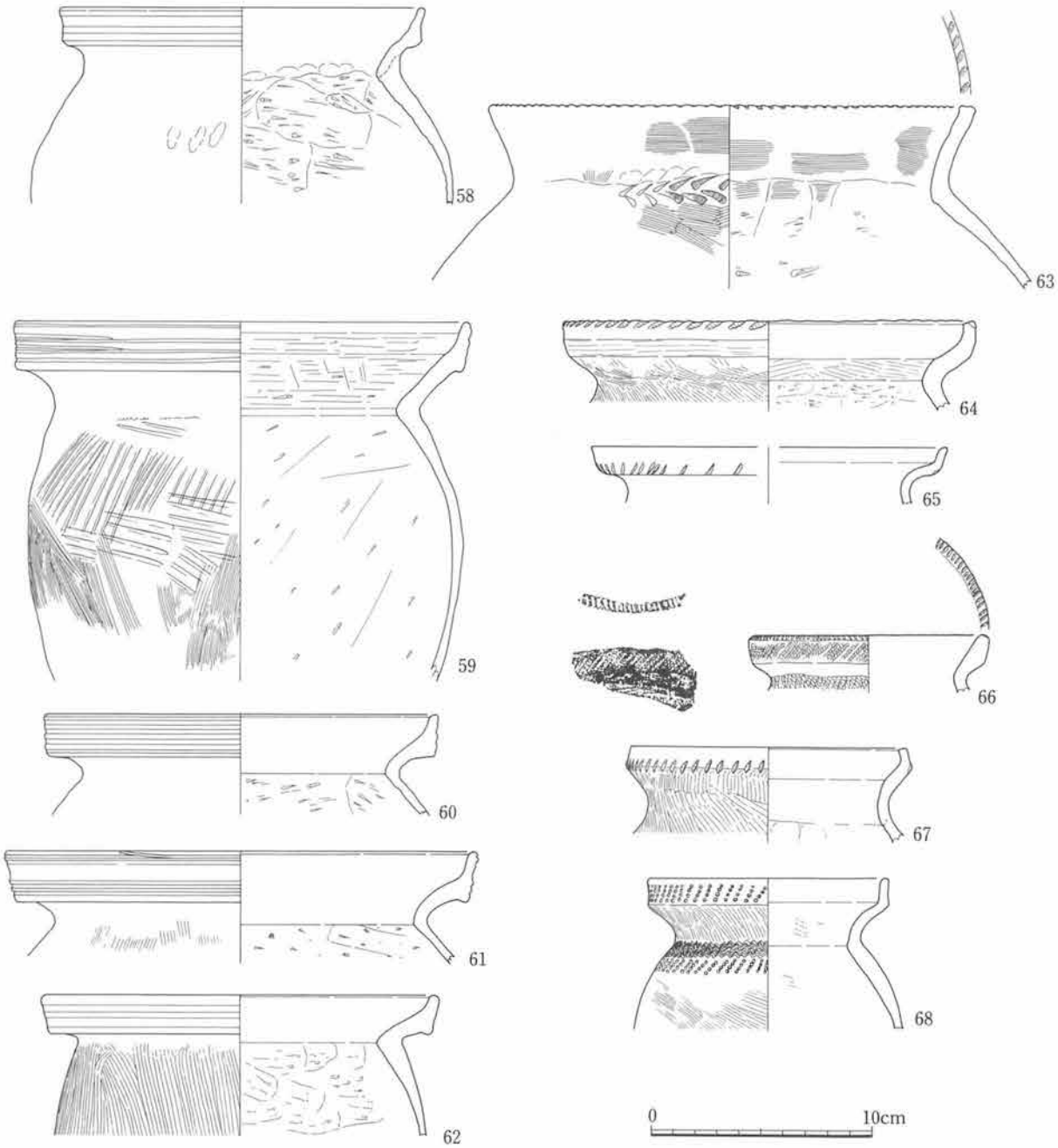
第11図　1号溝出土土器〔甕2〕(S＝1/3)



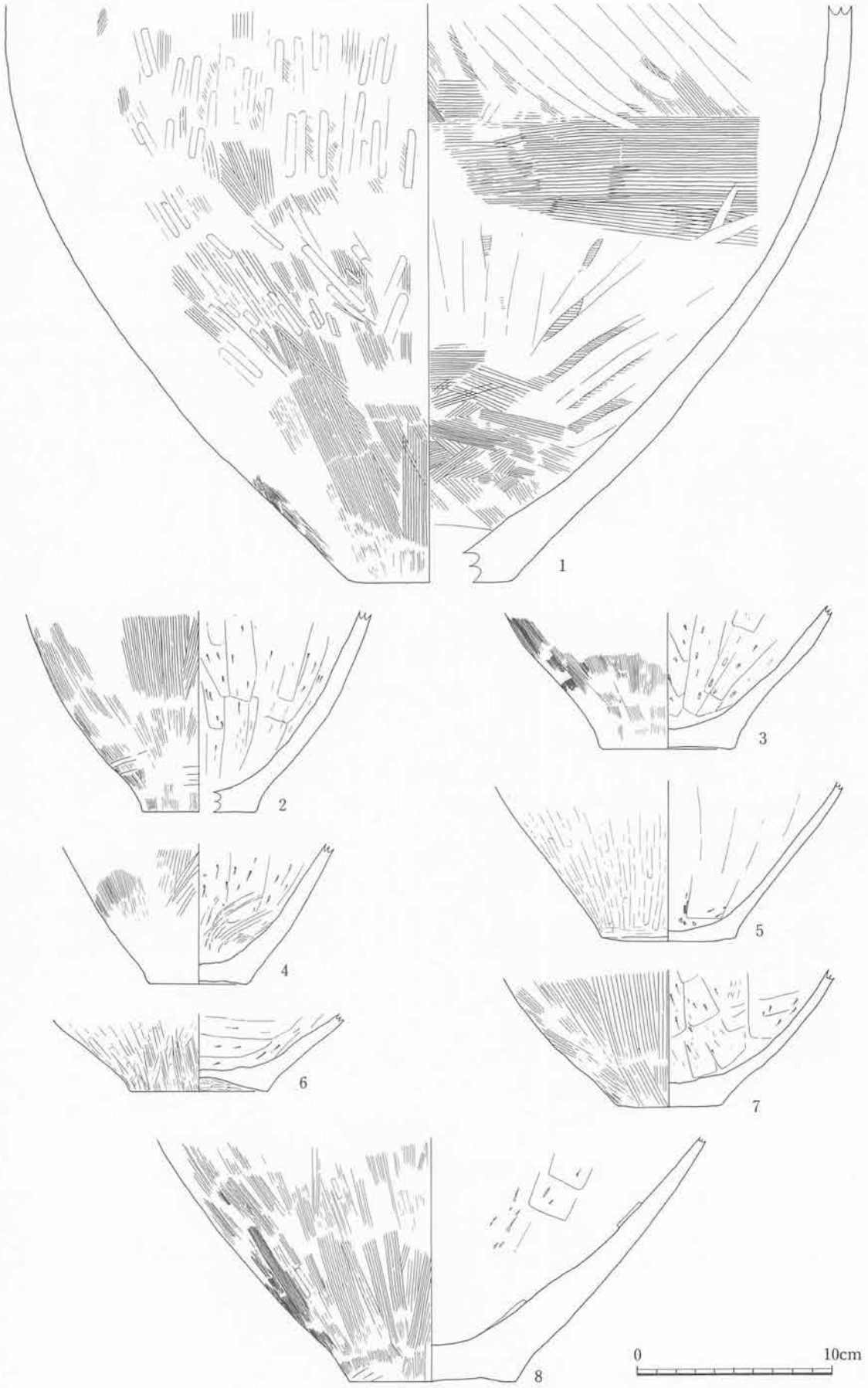
第12図　1号溝出土土器（甕3）（S＝1／3）



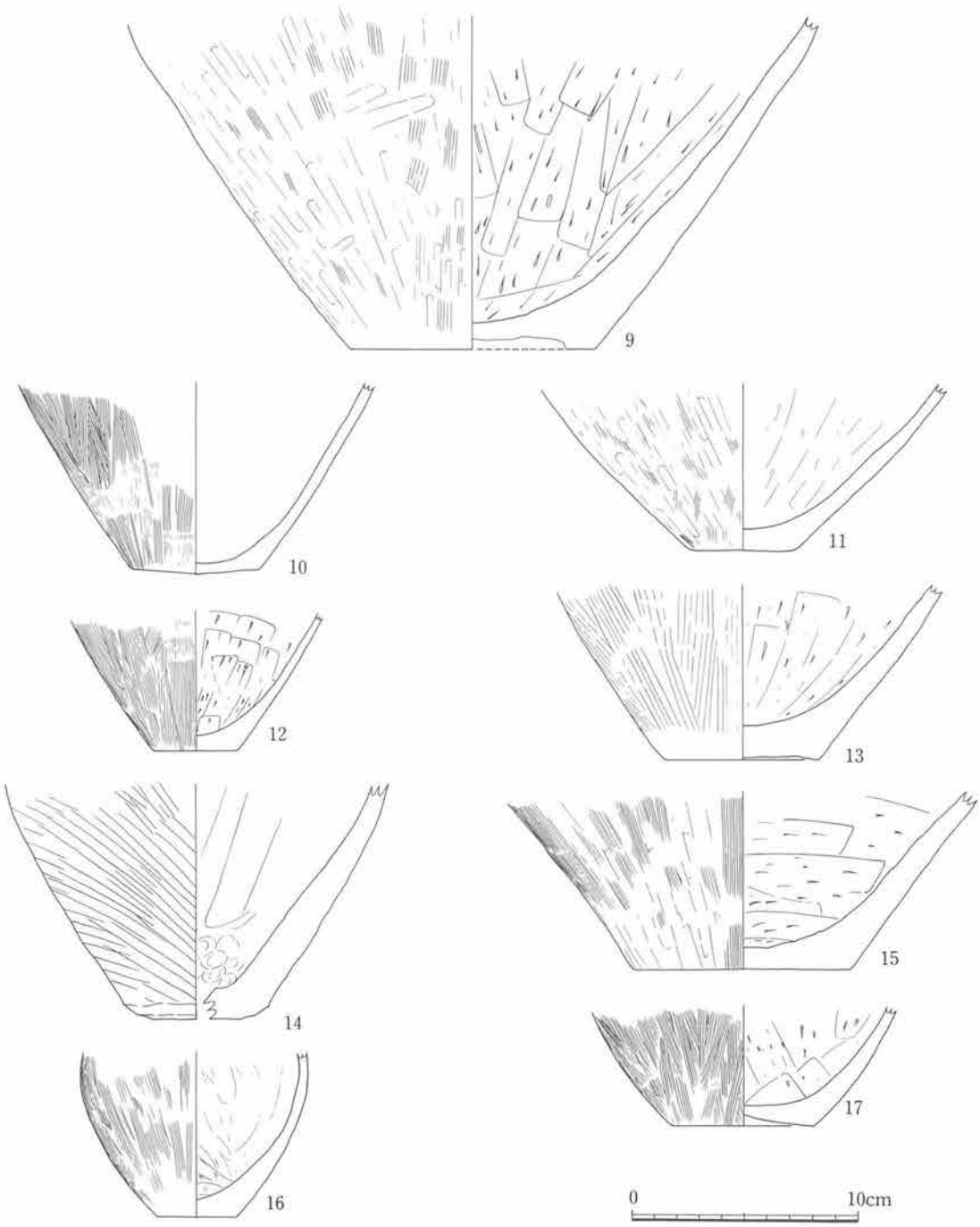
第13図　1号溝出土土器〔甕4〕(S＝1／3)



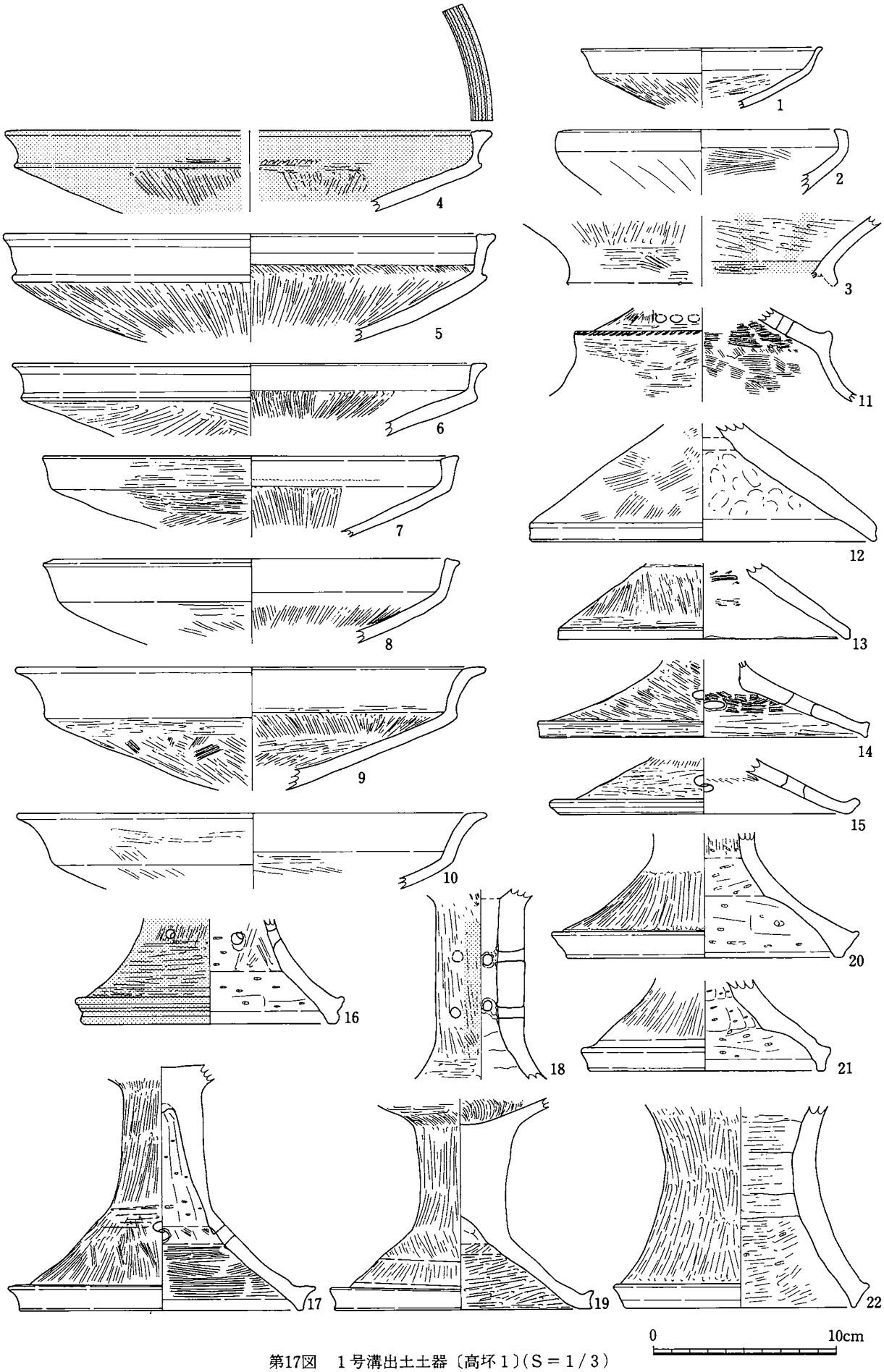
第14図　1号溝出土土器〔甕5〕(S＝1/3)



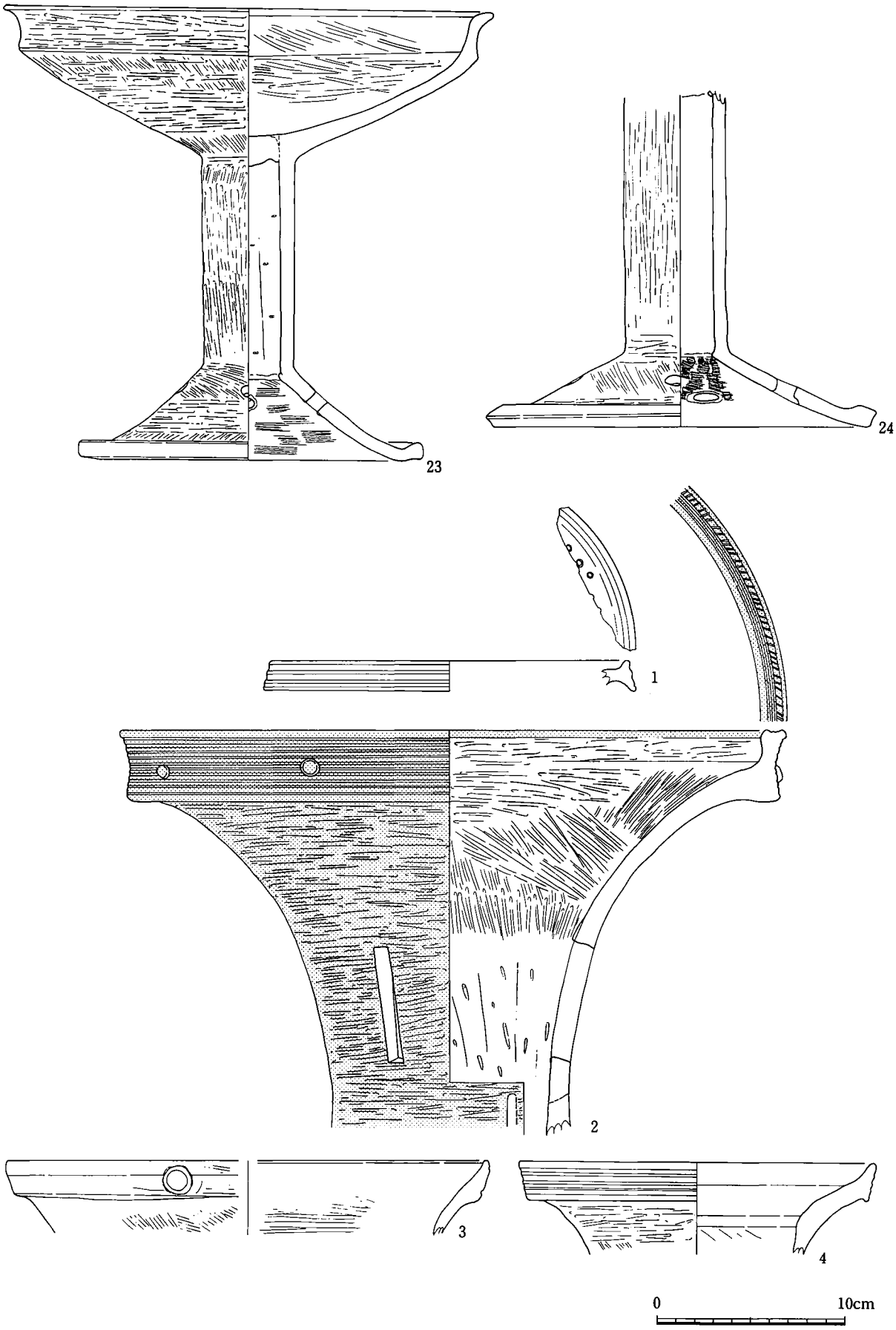
第15図　1号溝出土土器〔壷、甕底部1〕(S＝1／3)



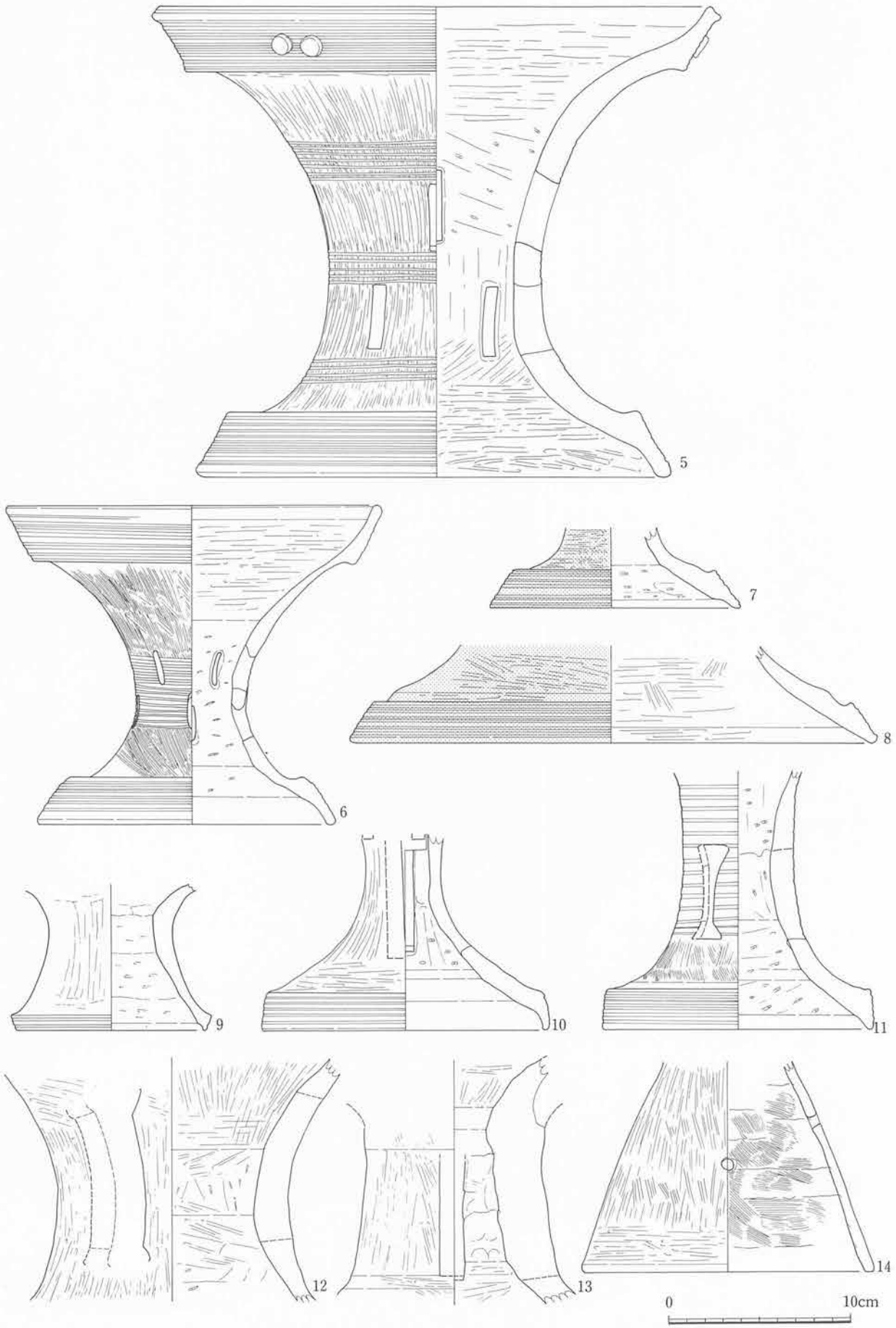
第16図　1号溝出土土器〔壺、甕底部2〕(S＝1／3)



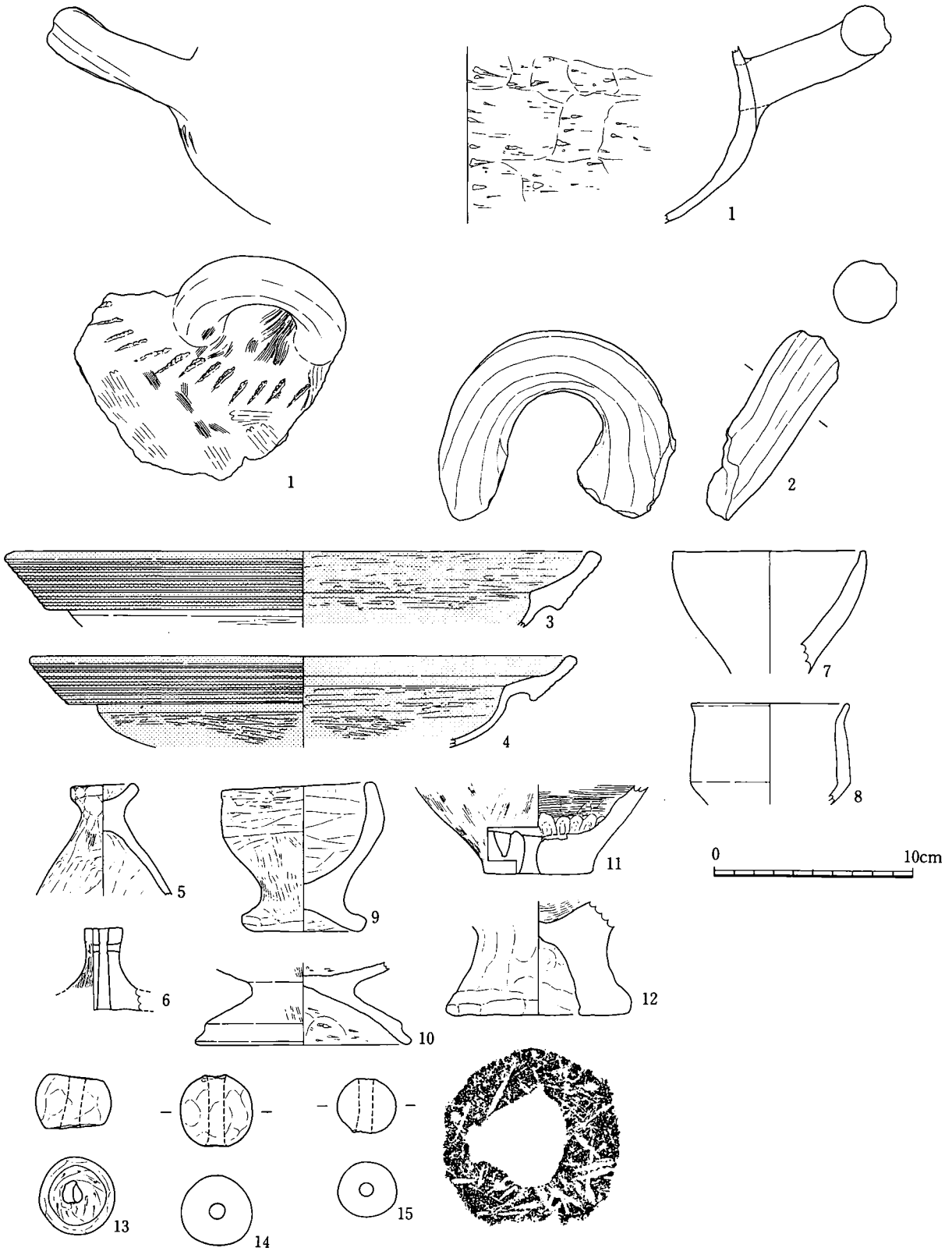
第17図　1号溝出土土器〔高坏1〕(S＝1/3)



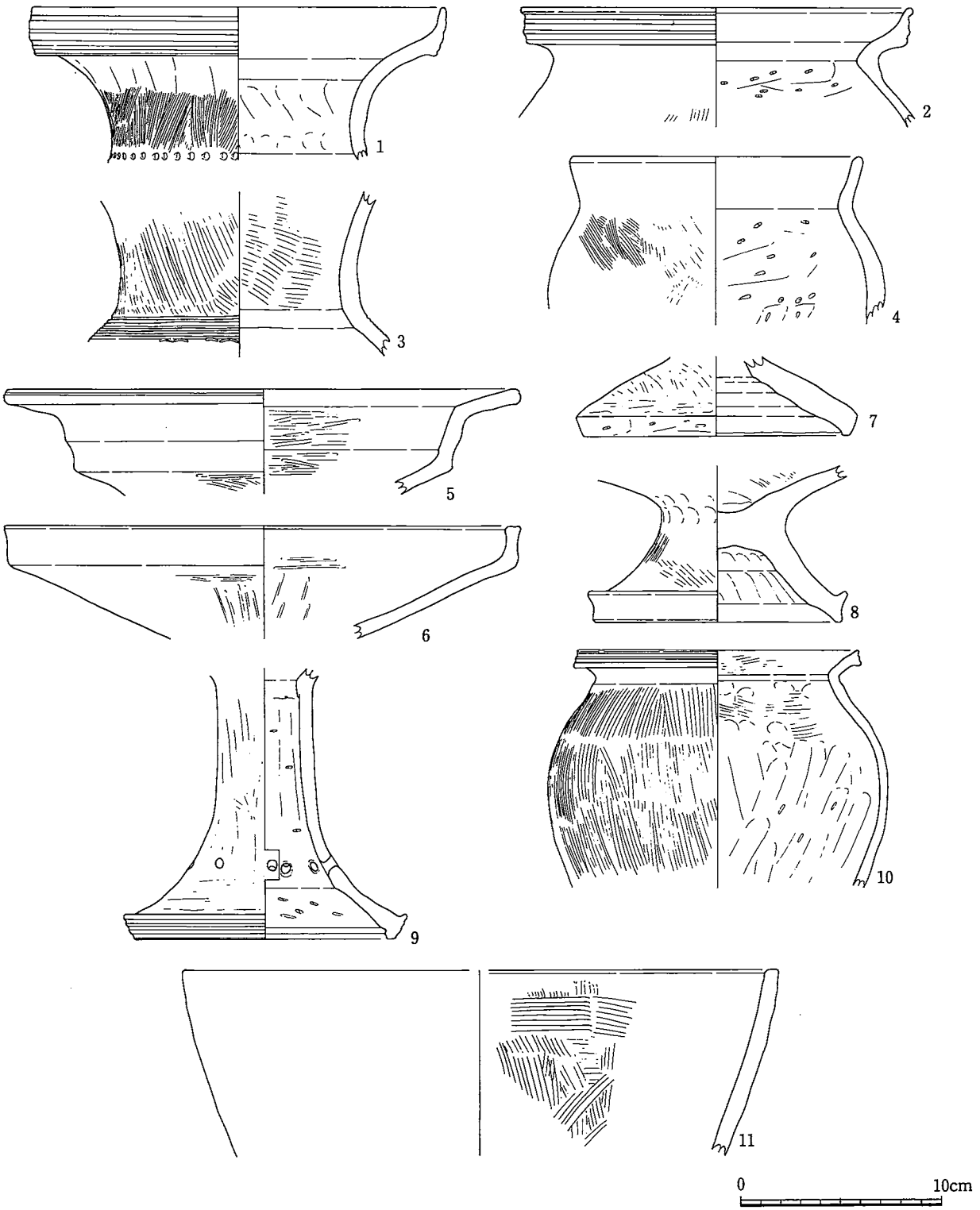
第18図　1号溝出土土器〔高坏2・器台1〕(S＝1/3)



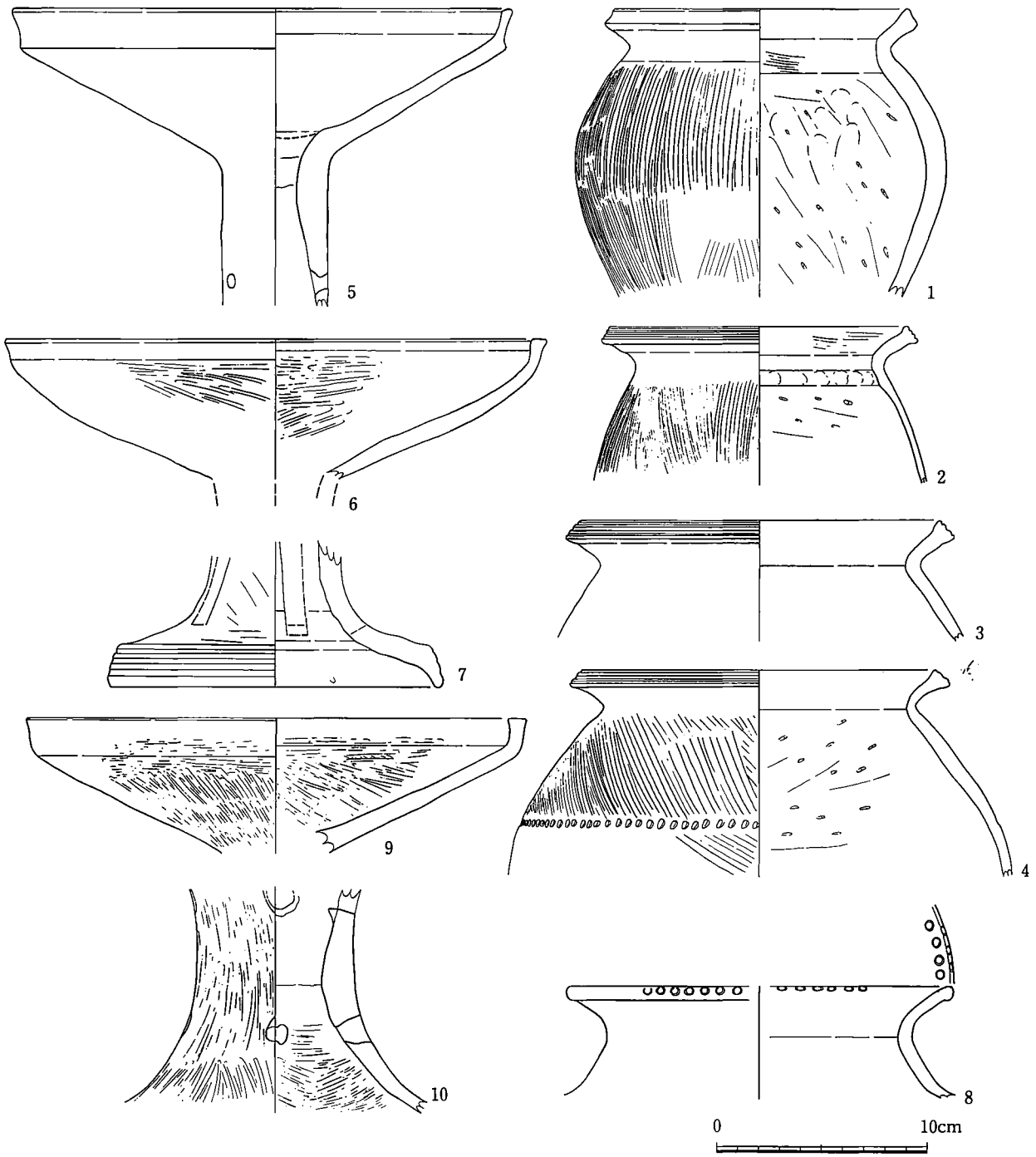
第19図　1号溝出土土器〔器台2〕(S＝1/3)



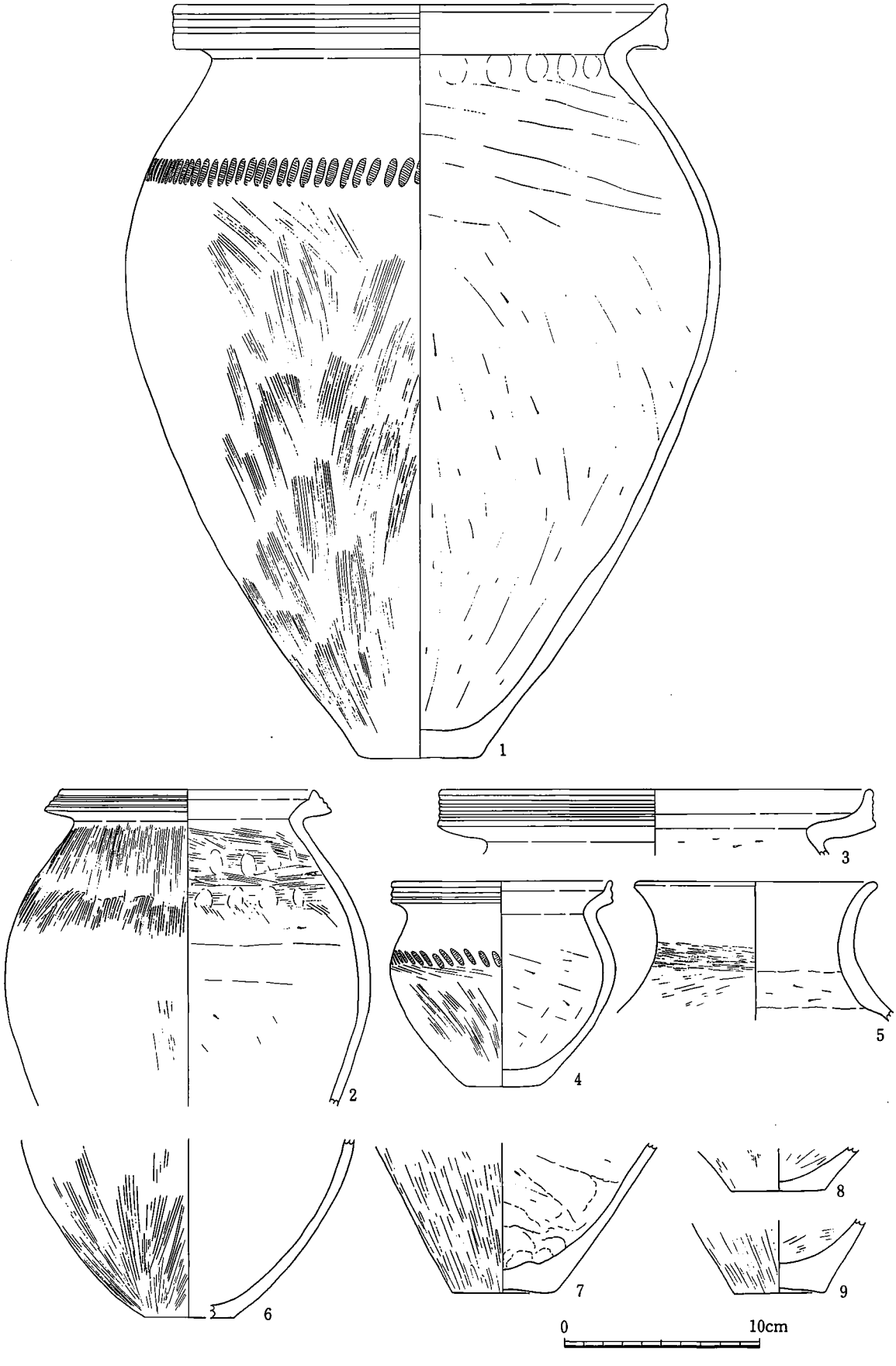
第20図　1号溝出土土器〔その他〕(S＝1/3)



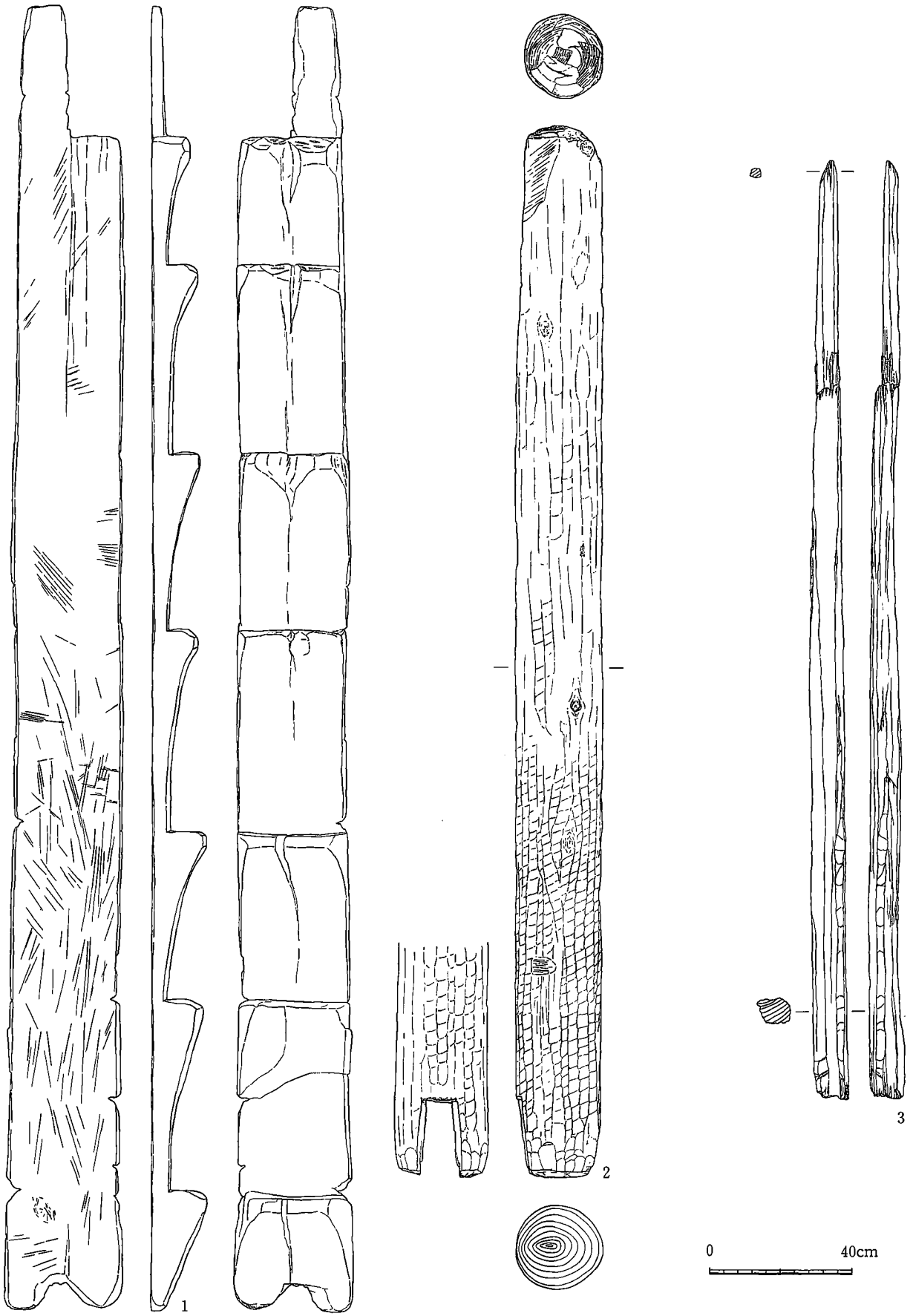
第21図　9号溝出土土器（S＝1/3）



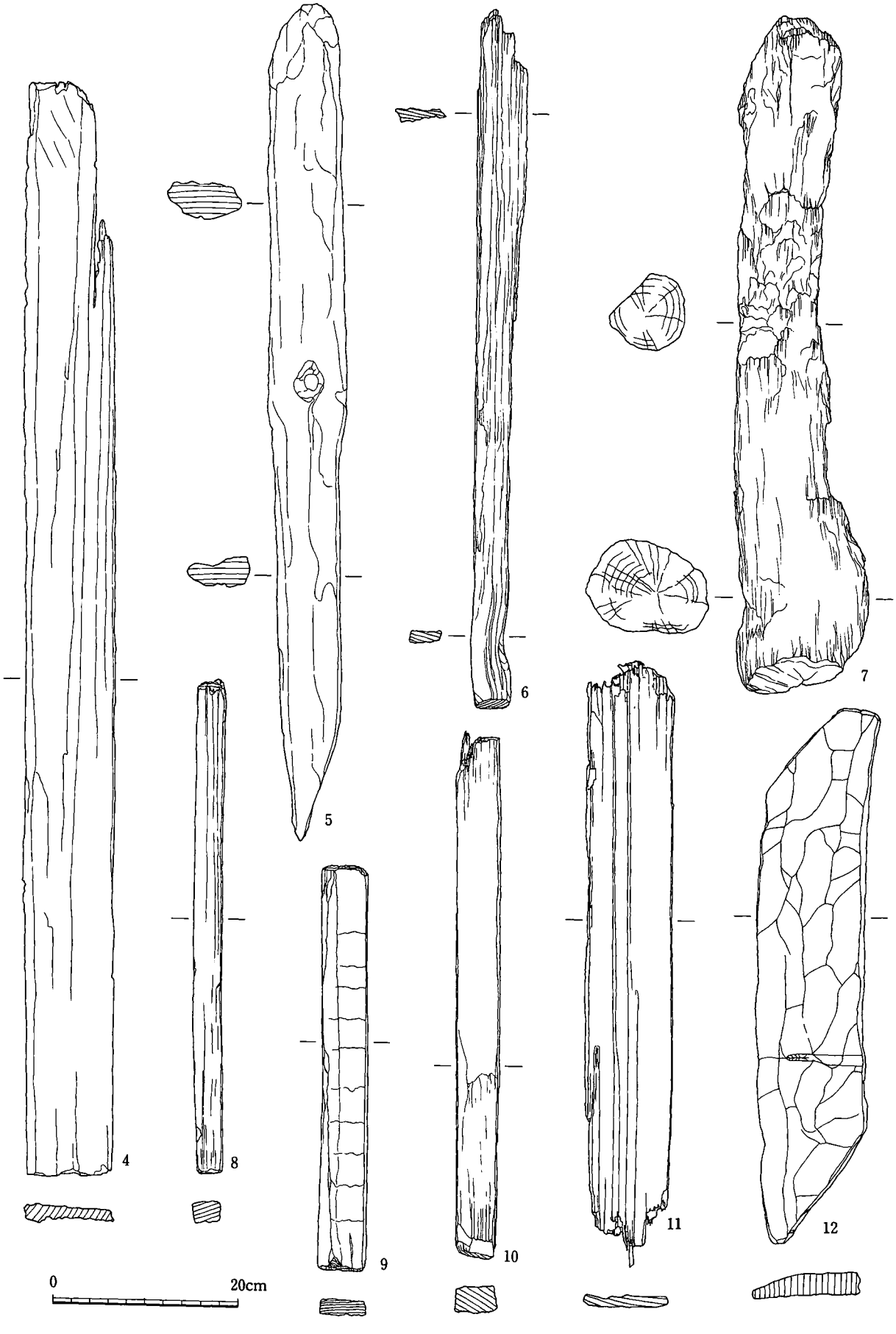
第22図　10号溝・包含層出土土器（S＝1／3）



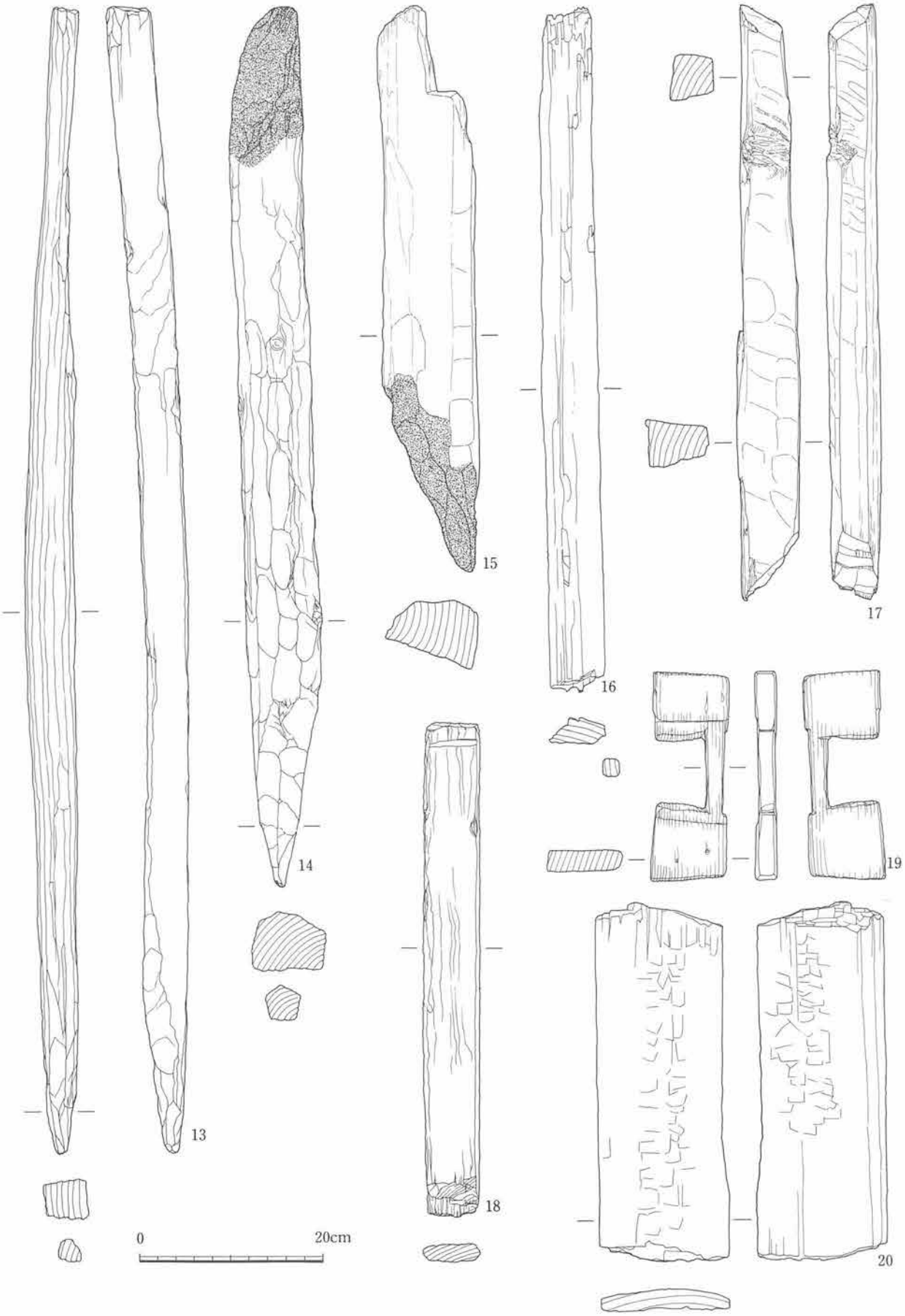
第23図　猫橋遺跡立ち合い調査（昭和62年）出土土器（S＝1/3）



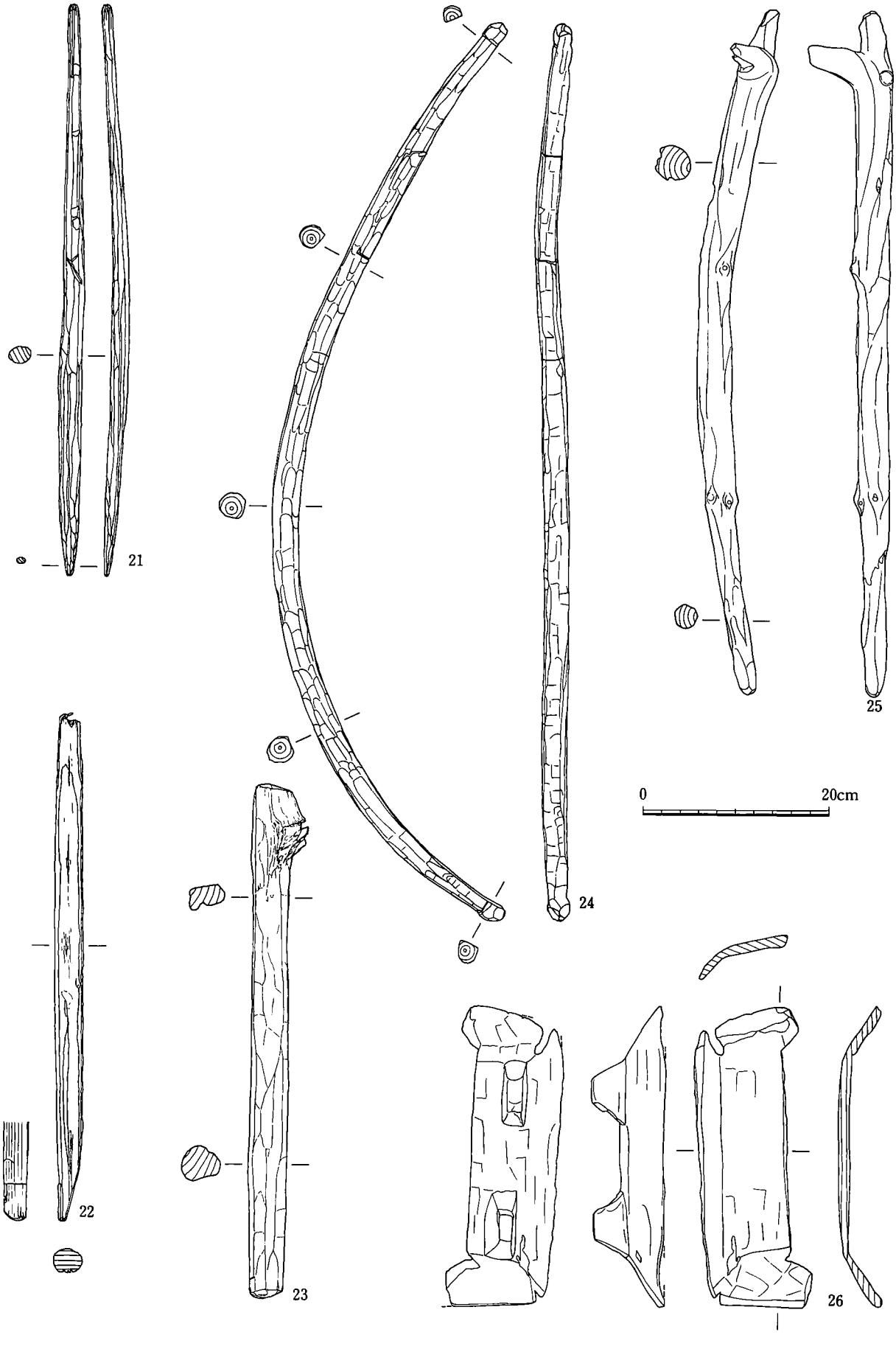
第24図　1・9号溝出土木製品実測図（S＝1/8）



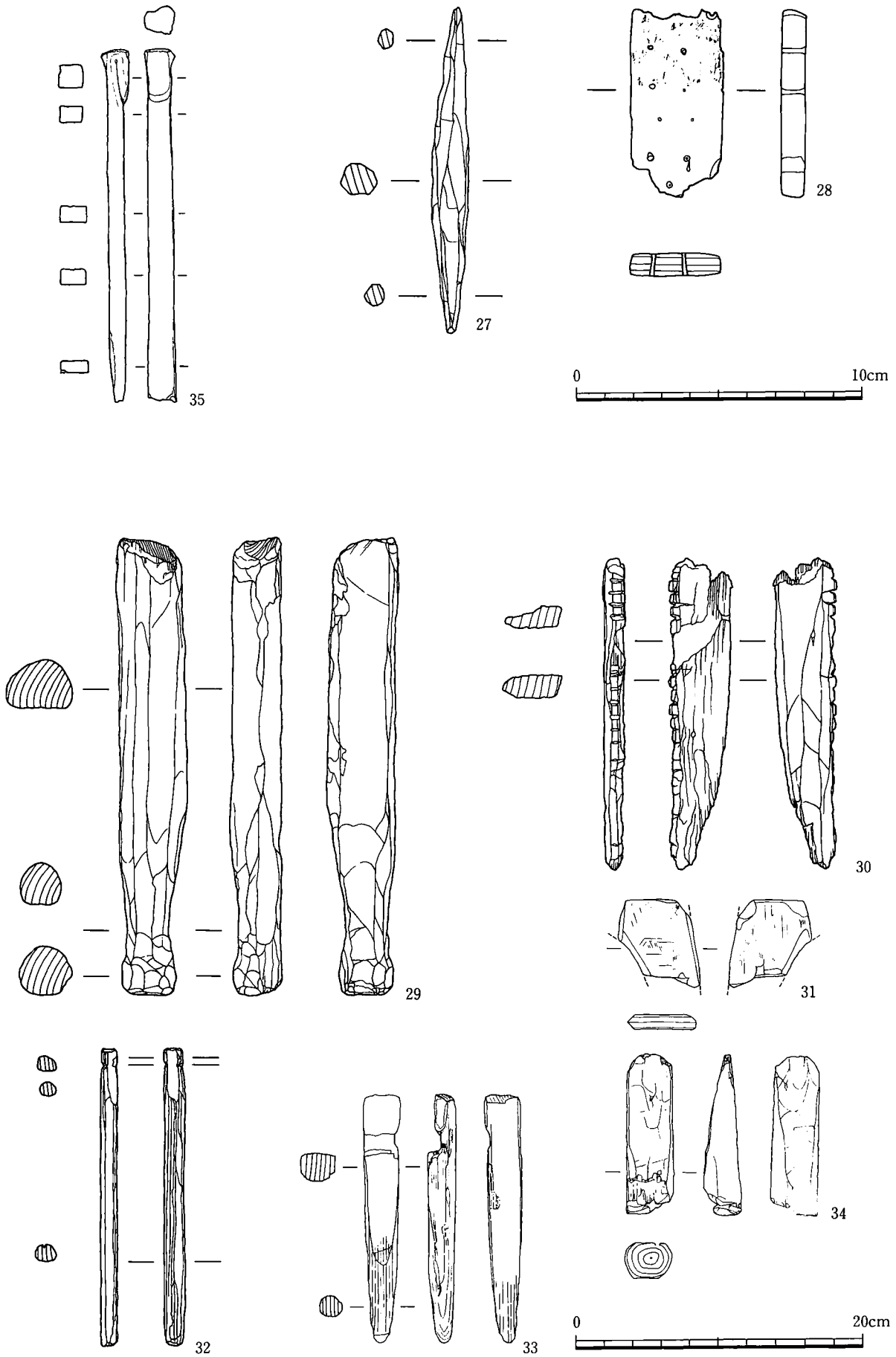
第25図　1号溝出土木製品実測図（S＝1／6）



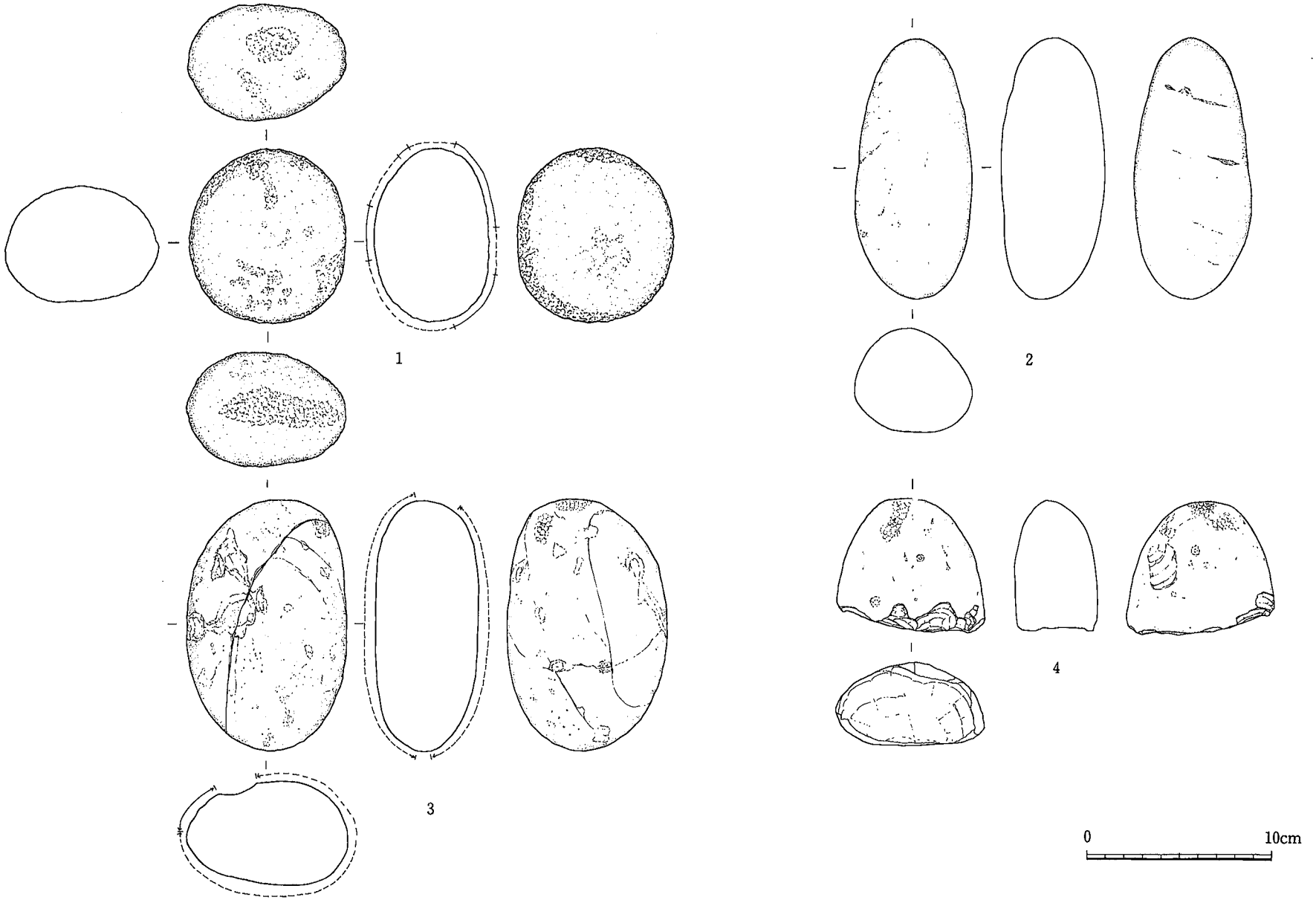
第26図　9号溝出土木製品実測図（S＝1／6）



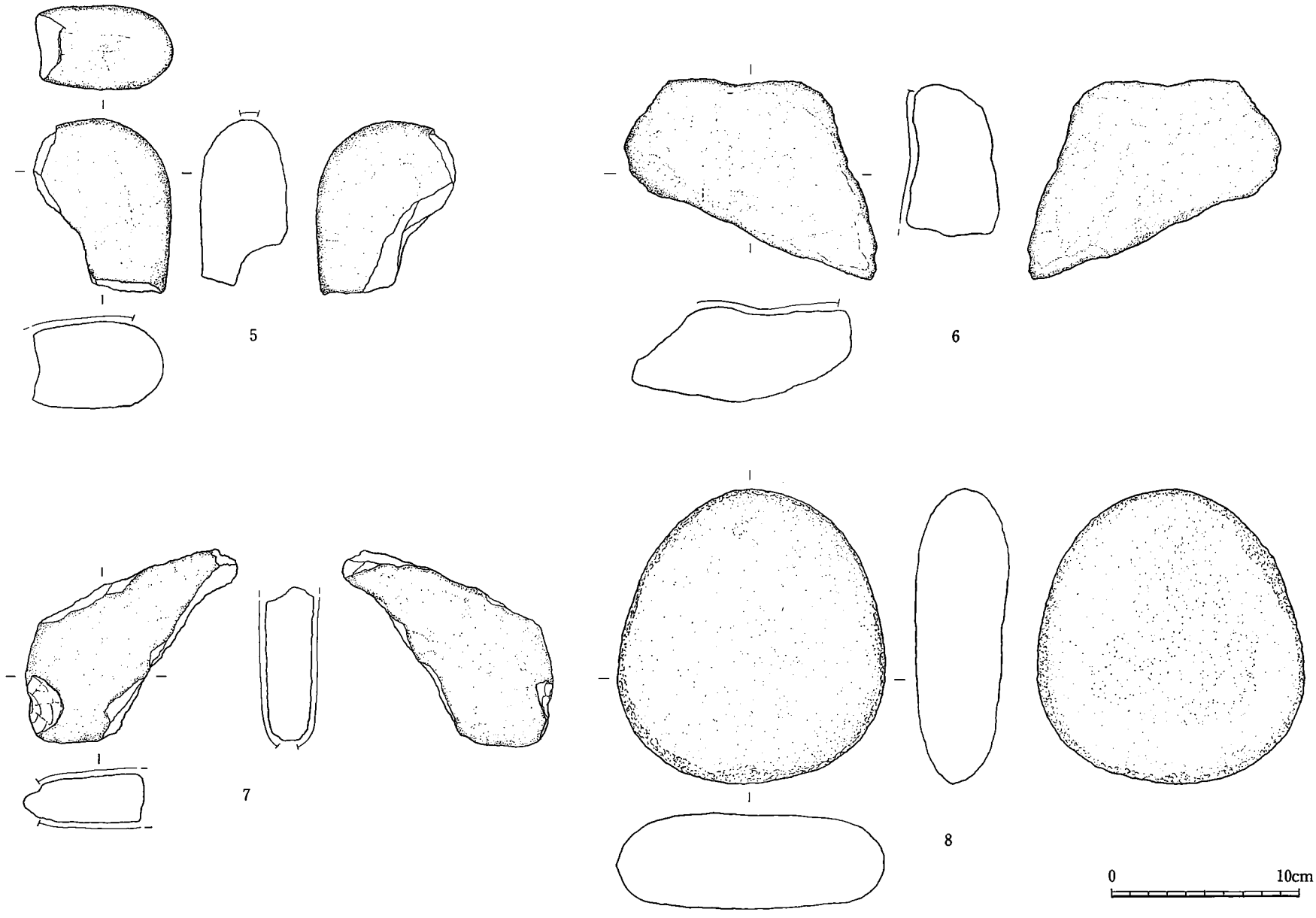
第27図　1・9号溝出土木製品実測図（S＝1/6）



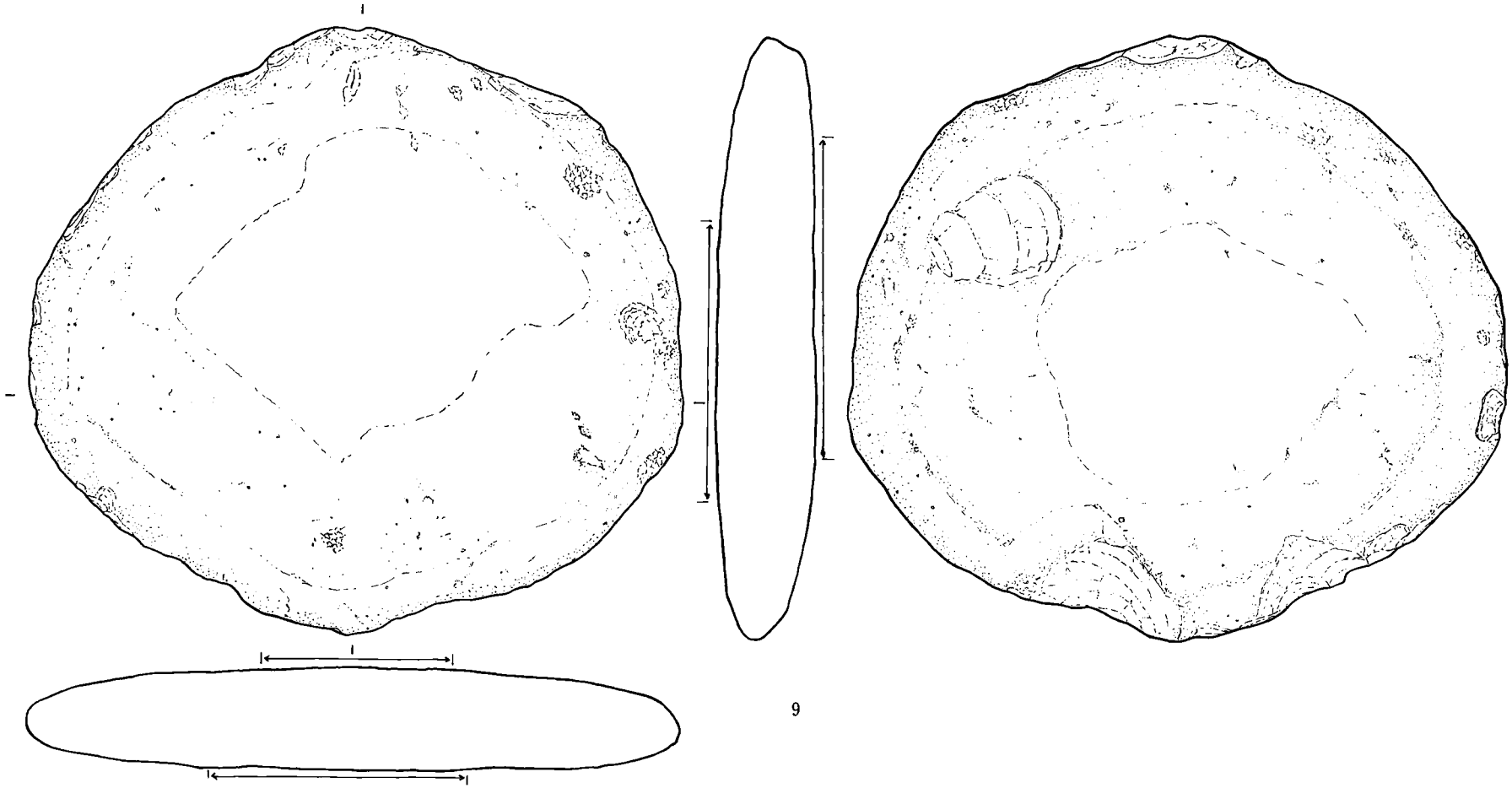
第28図　1・9号溝出土木製品鉄製器実測図（27、28、35はS＝1/2、他はS＝1/4）

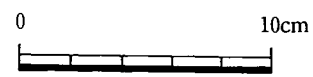


第29図　出土石器実測図〔1〕



第30図　出土石器実測図〔2〕





第31図　出土石器実測図〔3〕

表1　1号溝出土土器（壷）観察表

第7～9図	出土地点	器種	法量(cm) 口経	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
1	1号溝	壷	(26)			灰		(内)ナデ　ハケナデのちナデ (外)〃　〃	大小の砂粒含む	
2	〃	〃	(18.65)			淡黄		(内)ナデ　ハケナデナデ (切)ナデ　ハケナデ	砂粒多く含む	
3	〃	〃	(15.8)			にぶい黄橙		(内)ナデ　ケズリ (外)工具によるナデ　ナデ　ハケナデ	〃	
4	〃	〃	(20.3)			灰白		(内)ナデ　ケズリ (外)工具によるナデ ハケのちナデ　ハケのちミガキ	〃	
5	〃	〃	(17.8)			灰褐		(内)ナデ　ケズリのちナデ、ケズリ (外)ナデ　ハケのちナデ	〃	
6	〃	〃	(19.8)			灰黄		(内)ナデ　ケズリのちナデ、ケズリ (外)ナデ　ハケナデ	細かい砂粒多く含む	(内)タール状の物口縁に (外)タール状の物 口縁、頸部にあり
7	〃	〃	19.4			〃		(内)ナデ　ケズリのちナデ (外)ヨコナデ　ナデ	砂1～2mm含む	
8	〃	〃	(14.7)			浅黄橙		(内)ナデ　ケズリ (外)ナデ　ハケナデのちナデ	砂粒多く含む	
9	〃	〃				黄灰		(内)ケズリのちナデか？ (外)ハケナデ+ナデ	〃	
10	〃	〃				にぶい黄橙		(内)ハケのちナデ (外)	砂含む	
11	〃	〃	(32.3)			褐灰		(内)ナデ　ケズリのちナデ、ケズリ (外)ナデ　ハケナデ	大小の砂粒多く含む	
12	〃	〃	(13.5)			にぶい黄橙		(内)ヘラガキ　ケズリ (外)ヘラミガキ　工具によるナデ	白っぽい砂粒含む	(内)すす口縁にわずかにあり (外)すす一面にあり
13	〃	〃	12.6					(内)ヘラミガキのちヨコナデケズリ (外)ヨコナデ　ヘラミガキのちナデ	砂含む	
14	〃	〃	(15.1)			灰白		(内)ナデ　ケズリのちナデ、ケズリ (外)ナデ　ハケナデ	大小の砂粒多く含む	
15	〃	有台壷				灰黄		(内)ケズリ　ケズリのちナデ (外)ハケナデのちナデ	〃	
16	〃	壷	(16.9)			灰白		(内)ナデ　ケズリ (外)ナデ	砂粒多く含む	
17	〃	〃	14.2			灰黄		(内)ヨコナデ　ケズリ (外)ヨコナデ　ハケ	砂1mm含む	
18	〃	〃	14.9			黄灰～浅黄橙		(内)ヨコナデ　ハケ、ケズリ (外)ヨコナデ　ハケ	〃	
19	〃	〃	15.5					(内)ヨコナデ　工具によるナデハケ (外)ナデ　工具によるナデ		
20	〃	〃	(17.8)			灰白		(内)口縁　頸部ナデ (外)口縁ナデ　頸部ハケのちナデ	大小の砂粒多く含む	
21	〃	〃	(16.2)			にぶい黄橙		(内)口縁ハケのちナデ　胴部ケズリのちナデ (外)口唇部　ナデ　口縁ハケのちナデ	砂粒含む	
22	〃	〃	(20.9)			〃		(内)口縁　頸部　ハケのちミガキ (外)〃　〃　ナデミガキ	砂粒多く含む	(内)黒斑一部あり
23	〃	〃	(14.6)	29.7	(3.8)	にぶい黄褐		(内)口縁　頸部ーハケのちナデ 胴部　底部ーケズリのちナデ (外)口縁　頸部ーナデ　ハケのちナデ 胴部　底部ーハケのちミガキ	〃	
24	〃	〃	(11.7)			灰黄		(内)口縁　頸部ーハケのちナデ 胴部ーケズリのちナデ (外)口縁　頸部　胸部-ハケのちナデ	〃	
25	〃	〃	12.8	19.1	3.9	灰白		(内)ヨコナデ　ナデ (外)ミガキ　ヨコナデ	砂1～2mm含む	(外)黒斑あり
26	〃	〃	(10.1)		(2.5)	灰黄		(内)口縁ナデ　胴部底部ケズリ (外)口縁ナデ　胴部ミガキ　底部ナデ	大小の砂粒多く含む	(外)黒斑あり
27	〃	〃	(13.6)			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ　指頭圧痕ナデ (外)ヨコナデ　ハケ	礫　砂含む	
28	〃	〃	(11.3)			灰白		(内)口縁ナデ　頸部ケズリのちナデ 胴部ハケナデ (外)口縁ナデ　頸部　胴部ハケのちナデ	大小の砂粒含む	
29	〃	〃	13.5			浅黄橙		(内)ヨコナデ　ケズリナデ (外)ヨコナデ　ナデ	砂1～2mm含む	
30	〃	〃	(9.9)			浅橙		(内)口縁ナデ　胴部　ケズリのちナデ (外)口縁ナデ　胴部ハケナデ	細かい砂粒多く含む	

第7～9図	出土地点	器種	法量(cm) 口経	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
31	1号溝	壷	(9.25)			灰白		(内)口縁上部ナデ 口縁下部ケズリのちナデ (外)口縁上部ナデ 口縁下部ハケナデのちナデ	砂粒含む	(外)わずかにタール状付着物あり
32	〃	〃	(11.5)			〃		(内)口縁ナデ 胴部ケズリのちナデ (外)口縁 胴部ナデ	〃	
33	〃	〃	(12)			明褐灰		(内)口縁頚部ナデ 胴部ケズリのちナデ (外)口縁 頚部ハケのちナデ 胴部ハケナデか？	細かい砂粒多く含む	
34	〃	〃	(12.9)			灰白		(内)ヨコナデ ケズリ ハケの跡 (外)ヨコナデ	0.1mmの砂含む	(外)タール痕あり

表2 1号溝出土土器（甕）観察表

第10～14図	出土地点	器種	法量(cm) 口経	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
1	1号溝	甕	(24.6)			灰黄		(内)ヨコナデ ハケのちナデ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～2mmのもの含む	(内)タール痕 (外)すす付着
2	〃	〃	(17.4)			〃		(内)ヨコナデ ハケ ナデ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)すす付着
3	〃	〃	(17.4)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ナデのちナデ (外)ヨコナデ ハケ	(外)すす付着	
4	〃	〃	(14.0)			褐灰		(内)ヨコナデ ナデハケ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)すす付着
5	〃	〃	(16.4)			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)すす付着
6	〃	〃	(22.0)			灰黄		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	
7	〃	〃	16.8			灰白		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂2mm含む	(内)こげあり (外)タール付着
8	〃	〃	(24.0)			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～2mmのもの含む	
9	〃	〃	(15.5)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(内)すす付着 (外) 〃
10	〃	〃	(14.8)			淡黄		(内)ヨコナデ ナデ (外)ヨコナデ ハケ タタキ	〃	(外)タール状のもの付着
11	〃	〃	(18.9)			灰白		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁 胴部ナデ	大きめの砂粒多く含む	(外)すす付着
12	〃	〃	(18.7)			灰黄褐		(内)ヨコナデ 工具によるナデ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(内)すす付着 (外) 〃
13	〃	〃	(19.4)			〃		(内)ヨコナデ ハケ ケズリ ナデ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)タール状のもの付着 すす付着
14	〃	〃	(17.4)			灰褐		(内)ヨコナデ ナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)すす付着
15	〃	〃	(18.4)			淡橙		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	
16	〃	〃	(17.6)			浅黄橙		(内)ヨコナデ ケズリ ナデ (外)ヨコナデ ハケ	〃	
17	〃	〃	(16)			〃		(内)ミガキ ハケか工具ナデ (外)ヨコナデ ナデ	砂0.1mm以下のもの含む	(外)すす付着
18	〃	〃	(14.4)			橙		(内)ケズリのちナデ 工具跡 (外)ヨコナデ	砂0.1～0.2mmのもの含む	
19	〃	〃	(11.2)			灰白		(内)口縁ナデ 体部ケズリ (外)口縁ナデ 体部ハケナデか？	白っぽい砂粒多く含む	
20	〃	〃	(20.9)			〃		(内)口縁ナデ 頚部ケズリ (外)口縁ナデ 頚部ハケナデ	大小の砂粒多く含む	
21	〃	〃	(17.0)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)すす付着
22	〃	〃	(14.0)			にぶい黄褐		(内)ヨコナデ ナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	〃	(外)すす付着
23	〃	〃	(19.8)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)胴部ハケ ナデ	大小の砂粒含む	

第10～14図	出土地点	器種	法量(cm) 口径	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
24	1号溝	甕	(16.0)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ハケのちナデ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	(外)タール状付着物あり
25	〃	〃	(11)			〃		(内)口縁ナデ 胴部上方ケズリ 胴部ハケのちナデ (外)胴部ハケナデか？	細かい砂粒含む	(内)頸部以外にすす付着 (外)すす全面に付着
26	〃	〃	(16.1)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 体部ケズリ (外)口縁ナデ 体部ナデか？	細かい砂粒多く含む	
27	〃	〃	(17)			〃		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ＋指おさえ (外)胴部ナデ	砂粒含む	
28	〃	〃	(16.4)			灰白		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁ナデ 胴部ナデ	大小の砂粒多く含む	
29	〃	〃	(19.2)			灰黄		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁胴部工具によるナデ	大小の砂粒含む	
30	〃	〃	(21.2)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁 胴部ハケナデのちナデ	大小の砂粒多く含む	
31	〃	〃	21.0			淡黄		(内)ヨコナデ ハケ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	礫含む	
32	〃	〃	(16.25)			褐灰		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁胴部工具によるナデ	砂粒含む	
33	〃	〃	(17.75)			灰白		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁ナデ 胴部ハケナデのちナデ	〃	
34	〃	〃	(16.35)			灰黄		(内)口縁ナデ 体部ケズリ (外)口縁ナデ 体部ハケナデ	砂1.5㎜のもの含む	
35	〃	〃	(15.45)			灰黄褐		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁胴部ナデ	大小の砂粒含む	
36	〃	〃	(27.4)			黄灰		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ 列点文	砂0.1～0.3㎜のもの含む	
37	〃	〃	(24.9)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 頸部 ケズリのちナデ 胴部 ケズリ (外)口縁ナデ 胴部ミガキのちナデ	大小の砂粒多く含む	
38	〃	〃	(24.3)			〃		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁ナデ 胴部ハケナデ	大きめの砂粒多く含む	(外)黒斑あり
39	〃	〃	(23.6)			灰黄		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	(外)すす付着
40	〃	〃	(22.0)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ケズリのちナデ (外)ヨコナデ ナデ	〃	(外)すす付着
41	〃	〃	(18.7)			〃		(内)ヨコナデ ケズリのちナデ (外)ヨコナデ	〃	(外)すす付着
42	〃	〃	(21.6)			灰黄		(内)ヨコナデ ハケ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ 工具痕？	砂0.1～0.3㎜のもの含む	(外)すす付着
43	〃	〃	(15.4)					(内)口縁ナデ(指頭圧痕あり) 体部ケズリ (外)口縁ナデ 体部ハケのちナデ	細かい砂粒多く含む	
44	〃	〃	(18.1)		(3.7)	にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)口縁ナデ 胴部ハケナデ 底部ナデ？	白っぽい砂粒多く含む	
45	〃	〃	(16.4)			褐灰		(内)ヨコナデ ミガキ ケズリ後ナデ (外)ハケ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	(外)すす付着
46	〃	〃	(21.7)			灰黄		(内)口縁ナデのミガキ 胴部ケズリのちナデ (外)口縁工具によるナデ 胴部ミガキのちナデ	大小の砂粒多く含む	
47	〃	〃	(18.9)			〃		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	(外)すす付着
48	〃	〃	(18.2)			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ ケズリのちナデ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2㎜のもの多く含む	(内)こげ付着
49	〃	〃	(19.4)			灰黄褐		(内)口縁ナデ 頸部ハケナデ 胴部ケズリ (外)胴部ハケのちナデ	砂粒含む	
50	〃	〃	(19.9)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)胴部ナデ	大小の砂粒含む	
51	〃	〃	(18.15)			灰黄褐		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)胴部ミガキ	白っぽい砂粒多く含む	
52	〃	〃	(17.1)			浅黄橙		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ		
53	〃	〃	(23.0)			褐灰		(内)ナデ ナデによる工具痕ありケズリ (外)ヨコナデ ナデ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	

第10～14図	出土地点	器種	法量(cm) 口経	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
54	1号溝	甕	(29.4)			黄灰		(内)口縁ナデ 頸部ハケナデ 胴部ケズリ (外)口縁ナデ 胸部 ハケのちナデ	白っぽい砂粒多く含む	
55	〃	〃	(15.8)			灰白		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	0.1～0.3mmのもの含む	(外)タール痕すす付着
56	〃	〃	(21.25)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)胴部ハケのちナデ	大きめの砂粒多く含む	
57	〃	〃	(21.7			灰白		(内)口縁ナデ？胴部ケズリ (外)口縁 胴部 工具によるナデ	大小の砂粒多く含む	
58	〃	〃	(16.35)			にぶい黄橙		(内)口縁ナデ 胴部ケズリ (外)ナデか？	大小の砂粒多く含む	
59	〃	〃	20.6			灰白		(内)ヨコナデ ケズリのちミガキケズリ (外)ヨコナデ タタキハケ	砂1～2mm含む	(外)すす付着
60	〃	〃	(18.4)			淡橙		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2mmのもの含む	
61	〃	〃	(21.4			灰黄		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)すす付着
62	〃	〃	17.7					(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	礫含む	
63	〃	〃	(23.5)			淡橙		(内)口縁ハケナデ 胴部ケズリのちナデ (外)口縁 胴部-ハケナデのちナデ	砂粒多く含む	
64	〃	〃	(18.5)			灰黄褐		(内)ヨコナデ ハケ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ ヨコナデのちハケ ハケ	礫含む	
65	〃	〃	(16.0)			浅黄褐		(内)ヨコナデ (外)ヨコナデ	〃	
66	〃	〃	(10.2)			灰黄褐		(内) (外)	砂含む	
67	〃	〃	(12.4)			黄灰褐		(内)ナデ 指頭圧痕 (外)ヨコナデ ハケ	礫含む	
68	〃	〃	10.7			黄灰		(内)ナデ (外)ハケ ハケ後ナデ	〃	

表3 1号溝出土土器（壷・甕底部）観察表

第15・16図	出土地点	器種	法量(cm) 口経	器高	底径	色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
1	1号溝	底部			(8.6)	にぶい黄橙		(内)ハケのちナデ (外)ハケのちミガキ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)黒斑あり
2	〃	〃			(5.8)	灰白		(内)ケズリ (外)ハケ	砂0.1～0.3mmのもの含む	(外)一部黒斑あり
3	〃	〃			(6.8)	〃		(内)ケズリ (外)ハケのちナデ	砂0.1～0.2mmのもの含む	
4	〃	〃			(5.0)	黄灰		(内)ケズリのちハケ工具で調整 (外)ハケ ナデ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)すす付着
5	〃	〃			(6.8)	浅黄橙		(内)ケズリ (外)ナデ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)すす付着
6	〃	〃			(7.2)	灰白		(内)ケズリのちナデ (外)ハケのちミガキ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)一部黒斑あり
7	〃	〃			(5.4)	にぶい橙		(内)ケズリ (外)ハケ	砂0.1～0.3mmのもの含む	
8	〃	〃			(8.6)	黄灰		(内)ケズリ (外)ハケ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(内)すす付着 (外)すす付着
9	〃	〃			(11.0)	灰白		(内)ケズリ (外)ハケのちミガキ	砂0.1～0.2mmのもの含む	(外)一部黒斑あり
10	〃	〃			(5.6)	にぶい黄橙		(内)すす付着の為調整不明 (外)ハケ	〃	(内)すす付着 (外)すす付着
11	〃	〃			(4.2)	灰黄		(内)ケズリのちナデ (外)ハケのちミガキ	〃	
12	〃	〃			(3.7)	黄灰		(内)ケズリ (外)ハケ	〃	(外)すす付着

第15・16図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
13	1号溝	底部			(6.8)	灰白		(内)ケズリ (外)ハケのちナデ　ハケ	砂0.1～0.3㎜のもの含む	(外)黒斑あり
14	〃	〃			(6.4)			(内)ナデ　指おさえ痕 (外)ナデ	砂0.1～0.3㎜のもの含む	
15	〃	〃			(9.6)	灰白		(内)ケズリ (外)ハケのちミガキ	〃	(外)すす付着、黒斑もあり
16	〃	〃			(3.6)	黄灰		(内)ナデ (外)ハケ	砂0.1～0.2㎜のもの少し含む	(外)すす付着
17	〃	〃			(6.2)	〃		(内)ケズリ (外)ハケ	砂0.2～0.4㎜のもの含む	(外)すす付着

表4　1号溝出土土器（高坏）観察表

第17・18図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
1	1号溝	高坏	13.1			にぶい橙		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ	砂1㎜含む	
2	〃	〃	14.5			淡橙		(内)ヨコナデ　ハケ (外)ヨコナデ　ナデ	〃	
3	〃	〃				灰黄		(内)ミガキ (外)ミガキ　キザミ？	〃	
4	〃	〃	26.8			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ	〃	
5	〃	〃	27.0			〃		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ	砂2㎜含む	
6	〃	〃	26.1			灰黄		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ		
7	〃	〃	22.8			にぶい黄橙		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ミガキ	砂2㎜含む	
8	〃	〃	22.8			灰白		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ	砂1㎜含む	
9	〃	〃	25.7			〃		(内)ミガキ　ヨコナデ (外)ミガキ　ヨコナデ	〃	
10	〃	〃	25.7			黄灰		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ミガキ	〃	
11	〃	〃				灰白		(内)ハケ (外)ハケ　ミガキ　キザミ	〃	
12	〃	〃			18.7	にぶい黄橙		(内)ナデ　ヨコナデ (外)ハケ　ミガキ　ヨコナデ	砂2㎜含む	(内)黒斑あり
13	〃	〃			16.0	灰黄		(内)ヨコナデ　ケズリ (外)ミガキ　ヨコナデ	砂1㎜含む	
14	〃	〃	17.7			灰白		(内)ハケ　ミガキ　ナデ (外)ミガキ	〃	
15	〃	〃	15.7			浅黄橙		(内)ヨコナデ　ミガキ (外)ヨコナデ　ミガキ	〃	
16	〃	〃			13.7	黄灰		(内)ヨコナデ　ケズリ (外)ミガキ	砂1～2㎜含む	
17	〃	〃	14.2					(内)ミガキ (外)ミガキ　ヨコナデ		
18	〃	〃						(内)ヨコナデ　ナデ (外)ミガキ	砂1㎜含む	
19	〃	〃			15.6	灰黄		(内)工具によるハケ　ミガキ　ヨコナデ (外)ミガキ　ハケのちミガキ　ヨコナデ	〃	(内)すす付着(坏部)
20	〃	〃			15.1	灰白		(内)ヨコナデ　ケズリ (外)ミガキ　ヨコナデ	〃	
21	〃	〃			12.8	〃		(内)ヨコナデ　ケズリ (外)ミガキ　ヨコナデ	〃	
22	〃	〃			(12.3)	〃		(内)ミガキ (外)ミガキ　ヨコナデ	砂2㎜含む	

第17・18図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
23	1号溝	高坏	25.9	24.3	18.2	黄灰		(内)ミガキ 工具によるケズリ (外)ミガキ ヨコナデ	砂1～2㎜含む	(外)黒斑あり
24	〃	〃			20.2	灰白		(内)ヨコナデ ハケ 工具によるナデ (外)ヨコナデ ミガキ	砂1㎜含む	

表5 1号溝出土土器（器台）観察表

第18・19図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
1	1号溝	器台	19.3			灰黄		(内)ヨコナデ (外)	砂2㎜含む	
2	〃	〃	35.2			浅黄橙		(内)ミガキ ケズリ (外)ミガキ	〃	
3	〃	〃	25.5			黄灰		(内)ヨコナデ ハケ (外)ヨコナデ ハケ	砂1～2㎜含む	
4	〃	〃			18.8	〃		(内)ヨコナデ ナデ (外)ミガキ ヨコナデ		
5	〃	〃	30.3	26	25.6	黄灰		(内)ミガキ 工具によるナデ (外)ミガキ	砂2㎜含む	(外)一部黒斑あり
6	〃	〃	20.3	17.6	16.2	にぶい黄橙		(内)ヨコナデ ケズリのちナデ (外)ハケのちミガキ	砂1～2㎜含む	
7	〃	〃	13.6			灰白		(内)ヨコナデ ケズリ ナデ (外)ミガキ	砂1㎜含む	(内)一部黒斑あり
8	〃	〃			28.3	〃		(内)ミガキ (外)〃	砂1～2㎜含む	
9	〃	〃			10.4	浅黄橙		(内)ケズリ ナデ (外)ナデ ヘラミガキ	礫、砂含む	
10	〃	〃			15.6	灰白		(内)ヨコナデ ケズリ ナデ (外)ミガキ	砂2㎜含む	
11	〃	〃			14.5	灰黄		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ナデ ハケ	砂1㎜含む	
12	〃	〃				にぶい黄橙		(内)ミガキ 工具によるナデ (外)ミガキ	砂2㎜含む	
13	〃	〃				灰白		(内)ミガキ ナデ (外)ミガキ	砂1㎜含む	
14	〃	〃			15.7	浅黄橙		(内)ヨコナデ ハケ (外)ミガキ 一部ハケ残る	〃	

表6 1号溝出土土器（その他）観察表

第20図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
1	1号溝	鉢				浅黄		(内)ケズリ (外)ミガキのちナデ	大小の砂粒多く含む	(外)一部に黒斑あり
2	〃	取手				灰白		(内)ナデ (外)ナデ	礫含む	
3	〃	鉢	29.4			〃		(内)ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ？	砂1㎜含む	
4	〃	〃	27.2			浅黄橙		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ	砂1～2㎜含む	
5	〃	蓋	ツマミ 3.1			灰白		(内)ナデ (外)ナデ	砂含む	
6	〃	〃	ツマミ (1.9)			〃		(内)ナデ (外)ハケ	礫含む	
7	〃	鉢	(9.7)			灰黄		(内)ナデ (外)ナデ	〃	
8	〃	小型土器	7.9			黄灰		(内)ヨコナデ ナデ (外)ヨコナデ ナデ	砂1㎜含む	

第20図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
9	1号溝	台付き鉢	7.6	7.7	5.3	灰白		(内)ナデ ヘラミガキのちナデ (外)ヘラミガキ後ナデ 粗いハケのちナデ	砂含む	(内)底は黒斑あり
10	〃	底部			(10.6)	淡橙		(内)底部ケズリ 胴部ケズリのちナデ (外)底部ハケのちナデ 胸部ナデ	砂粒多く含む	
11	〃	甑			(5.6)	灰白		(内)ハケ ナデ 指頭圧痕 (外)ハケ	砂0.1～0.2㎜のもの含む	(外)すす付着
12	〃	器台			9.0	〃		(内)ハケのちナデ ナデ指頭圧痕 (外)ナデ 指頭圧痕	礫、砂含む	
13	〃	土錘				〃		(内) (外)ナデ	礫含む	
14	〃	〃				黄灰		(内) (外)ナデ	〃	
15	〃	〃				〃		(内) (外)ナデ	砂含む	

表7 9号溝出土土器観察表

第21図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
1	9号溝	壺	20.6			黄灰		(内)ヨコナデ ナデ (外)ヨコナデ ハケ 連続突文	砂1㎜含む	
2	〃	〃				灰白		(内)ハケ ナデ (外)ハケ 波状文?		
3	〃	甕	19.4			褐灰		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂2㎜含む	
4	〃	〃	14.4			黄灰		(内)ヨコナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ		
5	〃	高坏	25.6			灰白		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ		(内)黒斑あり (外)黒斑あり
6	〃	〃	25.8			黄灰		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ	砂1㎜含む	
7	〃	脚部			13.3	灰黄		(内)ヨコナデ (外)ミガキ ケズリ		(外)黒斑あり
8	〃	台付き壺又は甕			12.2	黄灰		(内)ヨコナデ ナデ (外)ヨコナデ ミガキ	砂2㎜多く含む	
9	〃	器台				灰白		(内)ナデ 工具によるナデ (外)ミガキ	砂2㎜含む	
10	9号溝下層	甕	14.0			黄灰		(内)工具におけるナデ ハケ (外)ヨコナデ ハケ		(内)こげあり (外)すす付着
11	9号溝下層	鉢	(29.9)			灰白		(内)ヨコナデ ハケ (外)ヨコナデ ナデ	砂2㎜前後含む	

表8 10号溝・包含層出土土器観察表

第22図	出土地点	器種	法量(cm)			色調(内)(外)	焼成	(内)(外) 調整(上位より)	胎土	備考
			口経	器高	底径					
1	10号溝	甕	13.9			にぶい黄橙		(内)ケズリ ヨコナデ (外)ハケ ヨコナデ	砂1㎜含む	(外)すす付着
2	〃	〃	14.1			灰白		(内)ヨコナデ ナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ	砂2㎜含む	
3	〃	〃	17.0			淡黄		(内)ヨコナデ 摩耗の為不明 (外)ヨコナデ 摩耗の為不明	砂0.1～0.2㎜のもの含む	
4	〃	〃	16.8			灰黄		(内)ヨコナデ ナデ ケズリ (外)ヨコナデ ハケ 連続一突文	砂1㎜含む	(外)すす付着
5	〃	器台	23.9			浅黄橙		(内)摩耗ミガキ?工具によるナデ? (外)摩耗 ミガキ?	砂2㎜含む	
6	〃	〃	25.9	(21.0)	15.8	灰白		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ	砂2㎜前後多く含む	

第22図	出土地点	器種	法量(cm)			色調 (内)(外)	焼成	(内)(外) 調 整(上位より)	胎 土	備 考
			口経	器高	底径					
7	10号溝	器台	25.9	(21.0)	15.8	灰白		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ		
8	10区包含層	壷	(18.0)			浅黄橙		(内)ナデ (外)ナデ	礫含む	
9	南区包含層	高坏	23.8			灰白		(内)ヨコナデ ミガキ (外)ヨコナデ ミガキ		(内)黒斑あり
10	〃	器台				〃		(内)ヨコナデ ハケのちミガキ (外)ミガキ		(内)こげあり

表9 立ち合い調査（昭和62年）出土土器観察表

第23図	出土地点	器種	法量(cm)			色 調 (内)(外)	焼成	(内)(外) 調 整(上位より)	胎 土	備 考
			口経	器高	底径					
1		甕	25.0	39.0	6.4	灰褐	良	(内)ヨコナデ 押えケズリ (外)ヨコナデ キザミ ハケ	1mm前後の砂粒含む	(外)黒斑あり
2		〃	13.0			(内)灰褐色 (外)黒褐色	〃	(内)ヨコナデ ハケのちナデ (外)ハケ	〃	(外)すす付着
3		〃	21.8			褐灰色	〃	(内)ヨコナデ ケズリ (外)ナデ	〃	(外)すす付着
4		小型甕	11.2	10.6	3.6	浅黄橙	〃	(内)ヨコナデ ナデ (外)ヨコナデ キザミ ハケ	〃	(外)一部黒斑あり すす付着
5		壷	12.0			灰褐色	〃	(内)ヨコナデ ケズリのちナデ (外)ヨコナデ ミガキのちナデ	〃	
6		甕			4.6	(内)灰褐色 (外)黒褐色	〃	(内)ナデ (外)ハケ	〃	(外)すす付着
7		〃			5.2	灰褐色	〃	(内)ケズリのちナデ (外)ミガキ ナデ	〃	(外)黒斑(油抜)あり
8		底部			4.8	(内)褐灰色 (外)にぶい黄橙	〃	(内)ケズリのちナデ (外)ハケのちナデ	〃	
9		〃			4.6	(内)黒褐色 (外)灰褐色	〃	(内)ミガキ ナデ (外)ミガキ	〃	(外)黒斑あり

表10 出土石器計測表

第29~31図	出土場所	名称	重さ (g)	長さ (cm)	厚さ (cm)	幅 (cm)	備 考
1	1号溝フク土	磨石類	67.7	9.4	6.2	8.5	磨・敲（焼）
2	6区盛土・包含層	〃	69.8	15.5	5.6	6.4	
3	1号溝	〃	89.9	13.5	5.6	8.7	磨・敲
4	南区 包含層	〃	(31.9)	(7.2)	4.6	(8.0)	
5	1号溝	〃	(40.1)	(9.2)	4.6	(7.4)	磨（焼）
6	南区 包含層	砥石	(521)	(10.5)	5.0	(11.5)	砂岩、不整形タイプ
7	〃	〃	(243)	(10.25)	2.6	(11.3)	盤状
8	〃	台石	1443	15	5.0	142	
9	9号溝上層	〃	5450	30	47	30.8	

表11　礎板計測表

第4・5図	出土場所	名　称	法量（cm）重さ×幅×厚さ	備考
1	4区P—2	礎板	51×11.8×6.2	スダジイ
2	3区P—14	〃	56.9×6.1×6.3	ク　リ
3	〃	〃	59.5×9.3×4.0	ク　リ
4	〃	〃	66.5×9.1×3.9	ク　リ
5	〃	〃	66.0×8.4×6.4	ク　リ
6	〃	〃	71.3×19.7×10.0	ス　ギ
7	3区P—7	〃	80.1×22.6×7.5	コナラ節
8	9区P—8	〃	40.8×8.0×3.2	スダジイ
9	〃	〃	56.6×7.5×3.7	スダジイ
10	9区P—9	〃	54.15×19.4	スダジイ
11	9区P—10	〃	55.8×8.7×5.0	スダジイ こげ付着
12	〃	〃	67.6×11.9×4.7	スダジイ
13	9区P—11	〃	39.6×19.9×6.5	スダジイ
14	9区P—12	〃	56.3×10.5	スダジイ
15	〃	〃	61.6×6.7×4.0	スダジイ
16	〃	〃	57.3×9.5×2.6	スダジイ

表12　出土木製品計測表

第24～28図	出土場所	名称	法量（cm）長さ×幅×厚さ	備考
1	9号溝	建築部材（梯）	187.8×16.8×7.8	ハンノキ
2	〃	〃（柱）	150.5×12.5×12.5	ス　ギ
3	1号溝	〃（角材）	123.8×4.8	ス　ギ
4	〃	〃（板）	119.1×9.5×2.0	ス　ギ
5	〃	〃（〃）	90.2×8.5×4.1	ス　ギ
6	〃	〃（〃）	76.2×5.4	ス　ギ
7	〃	〃（〃）	73.7×13.6	コナラ節 一部黒くなっている
8	〃	〃（角材）	52×3.1×2.4	ス　ギ
9	〃	〃（板）	ナシ	ス　ギ
10	〃	〃（角材）	56.8×4.8×3.1	ス　ギ
11	〃	〃（板）	66.4×9.4×1.6	ス　ギ
12	1号溝	建築部材（板）	52.1×11.6×2.84	ヤマグワ
13	9号溝	杭	126.1×5.5	ス　ギ
14	〃	杭	96.7×8.1	ス　ギ 焼けこげあり
15	〃	〃	62.0×10.3×6.7	ス　ギ すす付着
16	〃	建築部材	75.5×6.2×2.8	ス　ギ
17	〃	〃	65.2×6.8×5.5	ス　ギ
18	〃	〃	54.2×6.3	ス　ギ
19	〃	〃（鼠返し）	22.9×8.1	サ ク ラ
20	〃	〃	39.5×14.1×2.55	ス　ギ
21	〃	不明（棒状木製品先光る）	62.2×2.5	ス　ギ
22	〃	鋤柄	54.7×3.1×2.8	モ ミ 属
23	〃	柄？	56.2×6.1×3.6	スダジイ
24	〃	弓	98.1×2.8×2.7	サ ク ラ
25	1号溝	杖？	74.8×(4.5)×(8.4)	アカマツ
26	9号溝	槽	32.4×(9.3)×7.8	ス　ギ
27	1号溝	木鏃？	11.7×1.3×1.1	ネ ズ コ
28	〃	楯	(6.7)×(3.3)×0.82	モ ミ 属
29	〃	横槌	32.4×4.8	ク　リ
30	〃	編板	22.1×4.4	モ ミ 属
31	〃	二又鍬	6.2×5.8×1.12	アカガシ亜属
32	〃	不明	21.3×1.5	モ ミ 属
33	9号溝	〃	17.75×2.6×1.98	ス　ギ
34	1号溝	皮剥き？	11.4×3.28×2.5	クヌギ節

表13　出土鉄製品計測表

第28図	出土場所	名称	重さ（g）	長さ（cm）	厚さ（cm）	幅（cm）	備　考
35	1号溝	鑿	26.23	頭部1.9 12.5	0.8 0.6	0.9 0.9	

第4章　まとめ

今回の報告では時間的な余裕がなく、また筆者に力量もなく十分な検討もできないため、非常に不備な報告となってしまった。この事をまず先にお詫びしたい。

今回の調査は幅2m、長さ100mと言う猫橋遺跡を理解するためには余りにも小さい面積である。にもかかわらず、住居跡の存在を確認し、また、標識遺跡である本遺跡の資料が若干でも得られたことは幸いであった。今後の研究にむけてというわけでもないが、昭和38年の調査区と今回の調査区の位置関係の対応を行いまとめに代えたい。なお、平成7年にも県営ほ場整備事業に伴い、発掘調査が実施されているが、その成果も若干混じえてみてみたい。

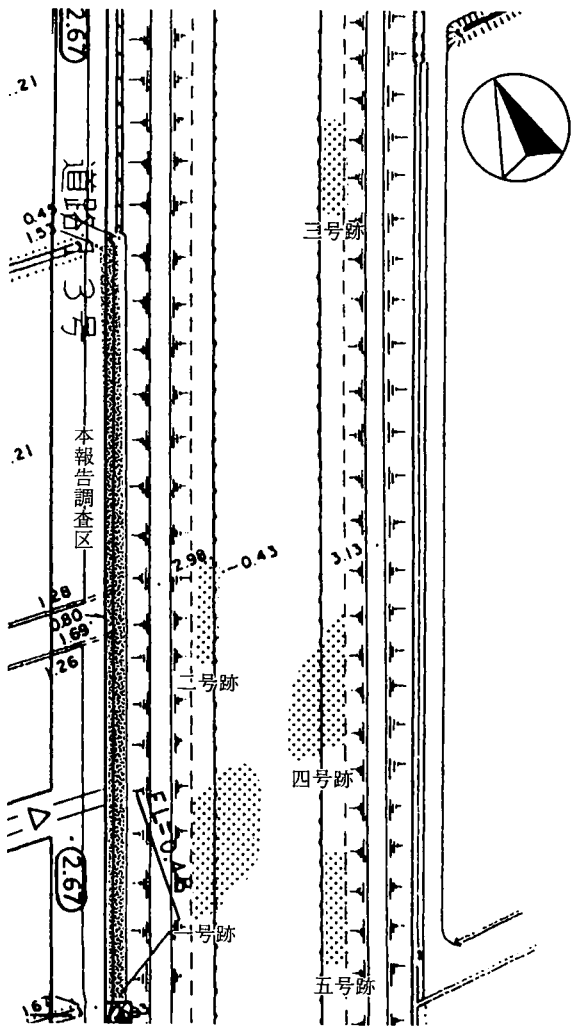
第32図は上野の報告を基に今回の調査区と昭和38年の遺構を位置関係を表した図である。網目の部分が38年の遺構、砂目の部分が今回の調査区である。一号跡、四号跡は貝塚状貝層と住居跡、二、三、五号跡は住居跡とされた部分である。まず、貝塚であるが、貝塚状貝層の記述では、深さは表土から120cmとあり、一号跡の記述では、表土は30～50cm、その下は40cmくらいの粘土層、その下が30～40cmくらいの文化層、この文化層の上下に炭化した籾を含む藁の層、最下層が貝の層となっている。本報告の調査区との位置関係からすれば3号住居跡付近でぶつかって良さそうな感じだが、今回の調査では確認されなかった。また、平成7年度の第2調査区でも確認されていない。ただ若干気に懸かるのは3号住居跡の東の部分は、灰色の粘土層が広がっており、この部分が記述の粘土であれば、これが一号跡なのかもしれない。

2号跡はこのまま今回の調査区へまっすぐ続けば1号溝に重なる。2号跡の記述によれば土層の堆積は1号跡と同じとされていることから、ほぼ、今回の1号溝と考えて良いのではと思われる。想像を逞しくすれば、1号溝がカーブしそうな雰囲気からして3号跡も1号溝と連続するものとも考えられる。或いは62年の立ち会い調査区がこの三号跡の続きと考えることも可能である。1号跡と同様な土層堆積とすると、これも河道跡の可能性がある。

加賀市教育委員会の田嶋正和氏からいただいた昭和36年撮影の航空写真では、改修前の八日市川の東側に、水田の方向が他と異なる部分が連続している。これが八日市川の更に古い頃の流路と考えたが、調査結果ではこの部分に住居跡が展開してしていた。さらに、平成7年の調査では改修前の流路を検出すると共に、この西側に幅40m程の流路が存在することを確認している。おそらく、猫橋遺跡の発見の原因となった猫橋の付け替えでは、この流路の中の土器が出土したのであろう。これ以上の追求は今後の報告に譲りたい。

引用・参考文献

上野与一　1967　「加賀市片山津町猫橋遺跡出土遺物図集　木器、土器編」『北陸大谷高校地歴クラブ紀要』第2号
大場磐雄編　1963　『片山津玉造遺跡の研究』加賀市教育委員会
楠　正勝他　1996　『西念・南新保遺跡Ⅳ』金沢市教育委員会
小森秀三　1978　『弓波廃寺範囲確認発掘調査報告』加賀市教育委員会
田嶋正和他　1993　『猫橋遺跡』加賀市教育委員会
栃木英道他　1995　『谷内・杉谷遺跡群』石川県立埋蔵文化財センター
中屋克彦他　1994　『戸水B遺跡』石川県立埋蔵文化財センター
湯尻修平他　1977　『加賀市弓波遺跡分布調査報告書』石川県教育委員会



第32図　昭和38年調査と本報告調査区
（S＝1/10,000）

報告書抄録

ふりがな	ねこ　ばし　い　せき
書　　名	猫　橋　遺　跡
副　書　名	水田営農活性化排水対策特別事業（片山津本街地区）に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	本田秀生
編集機関	石川県立埋蔵文化センター
所　在　地	〒921　石川県金沢市米泉4丁目133番地　　(TEL 0762－43－7692)
発行年月日	1997年3月31日

ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 °′″	東経 °′″	調査期間	調査面積m²	調査原因
猫橋遺跡（ねこばしいせき）	加賀市（かがし） 片山津町（かたやまづまち）	17206	210	36° 19′ 45″	136° 22′ 38″	1994.11.21 ～ 1994.12.28	200m²	水田営農活性化排水対策特別事業

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
猫橋遺跡	集落跡	弥生時代	住居跡4 溝など	弥生土器、木製品、石器	今回の調査区は昭和38年の河川改修工事調査区の真横に位置する

図　　版

図版1

調査区全景（北から）

図版2

3号住居跡焼土

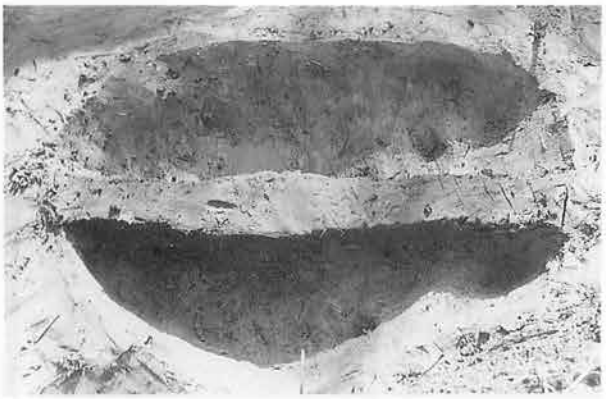
図版3

P－15

図版4

P－1

図版5



1号土坑

図版6

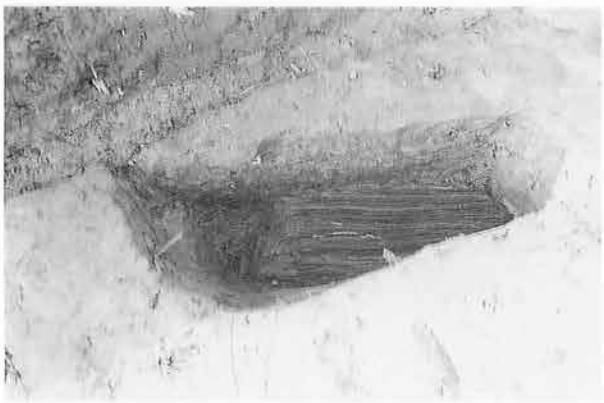
2号土坑

図版7

P－20

図版8

1・2号住居跡

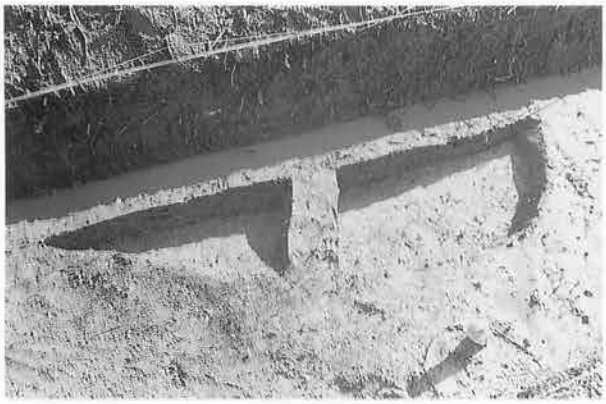


図版9

P－14

図版10

P－7



図版11

1号竪穴状遺構

図版12

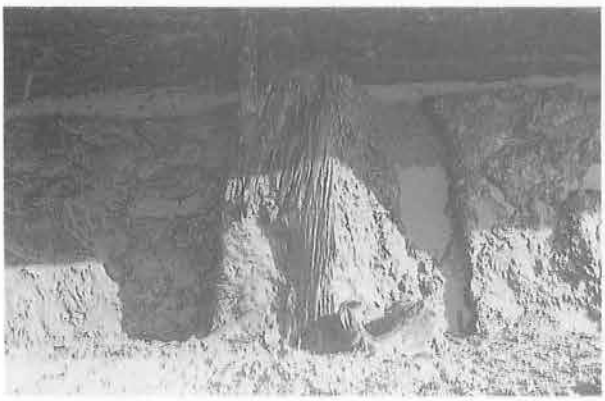
P－2

図版13

南区調査風景（北から）

図版14

1号溝調査風景



図版15

1号溝内杉皮出土状況

図版16

1号溝内土器出土状況

図版17

1号溝内炭化米出土状況

図版18

1号溝内木製品出土状況

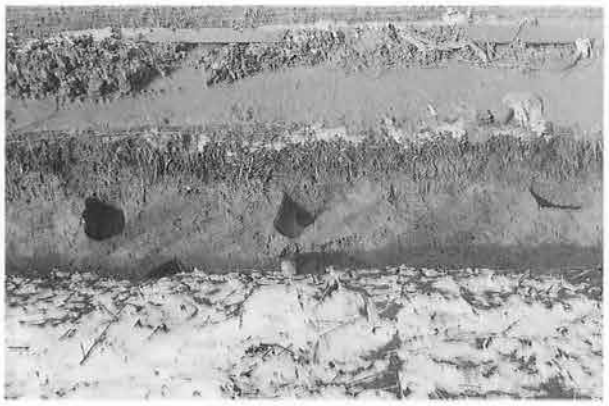
図版19

北区調査風景

図版20

4号住居跡（北から）

図版21



4号住居跡（東から）

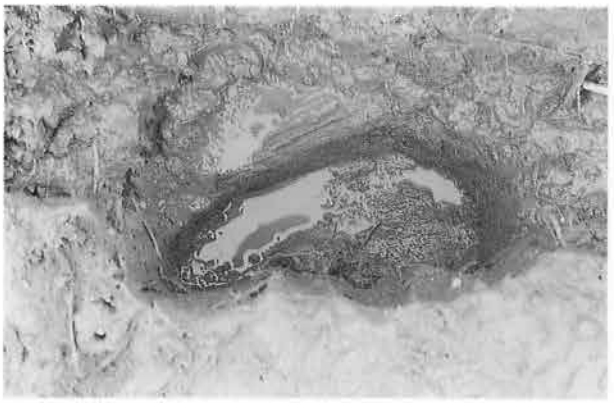
図版22

P－8

図版23

P－9

図版24



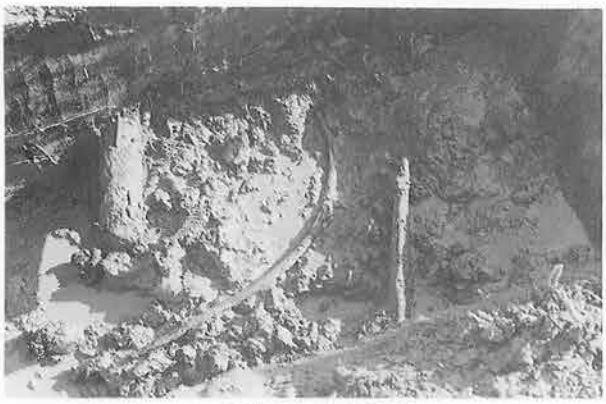
P－11

図版25

9号溝

図版26

9号溝内木製品出土状況

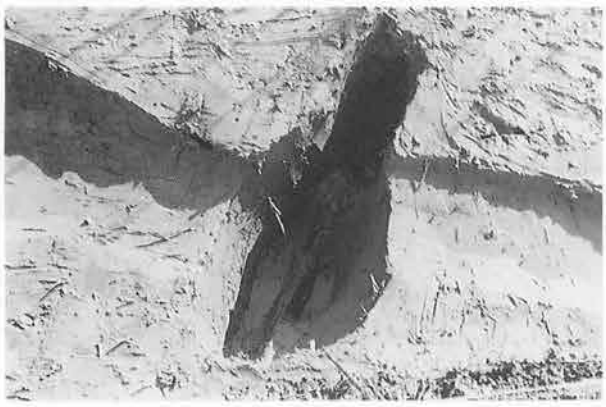


図版27

9号溝内弓出土状況

図版28

9号溝内梯子出土状況



図版29

P－22

図版30

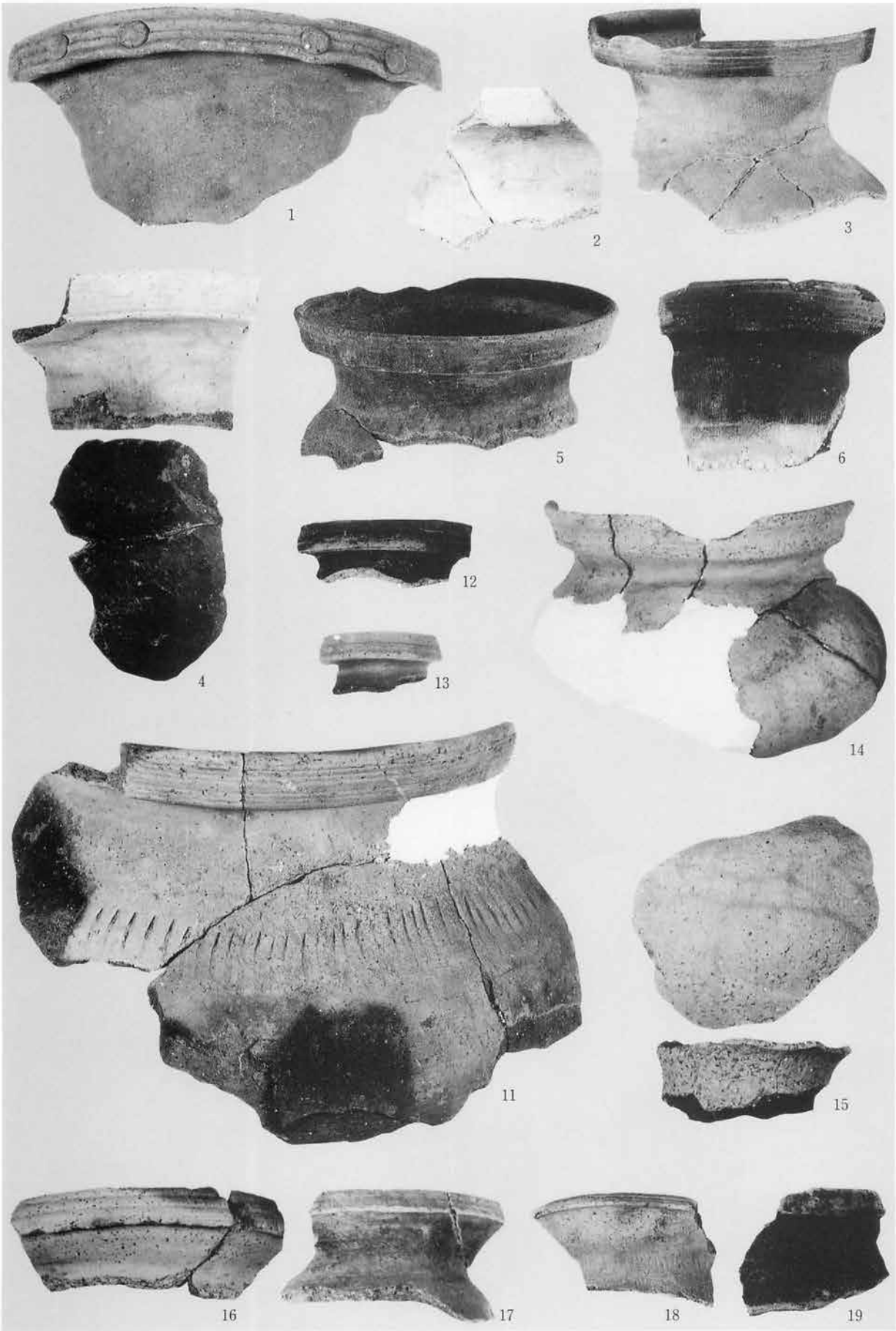
9号溝内槽出土状況

図版31

10号溝（北から）

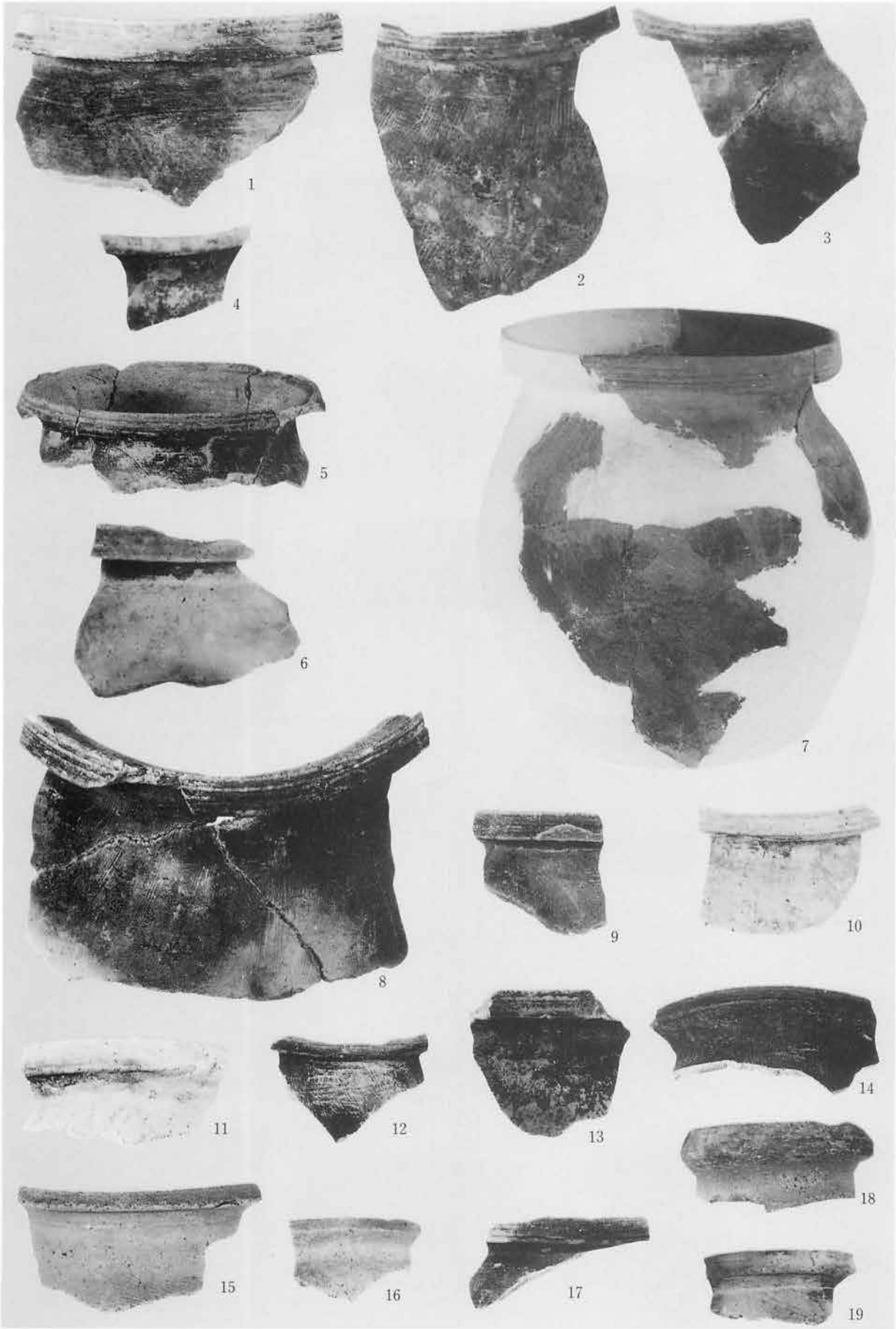
図版32

9号溝内梯子出土状況

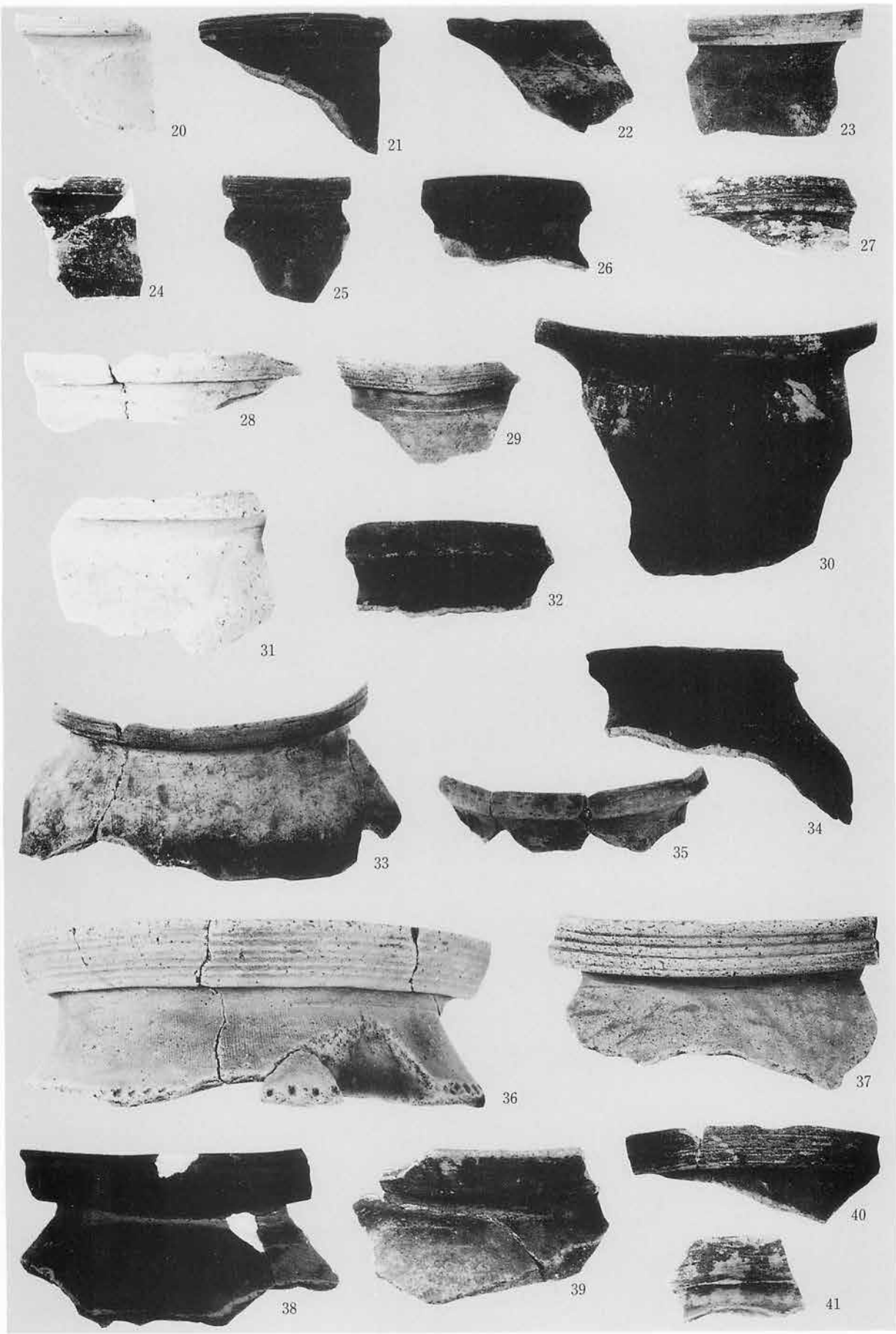


1号溝出土土器（壺）

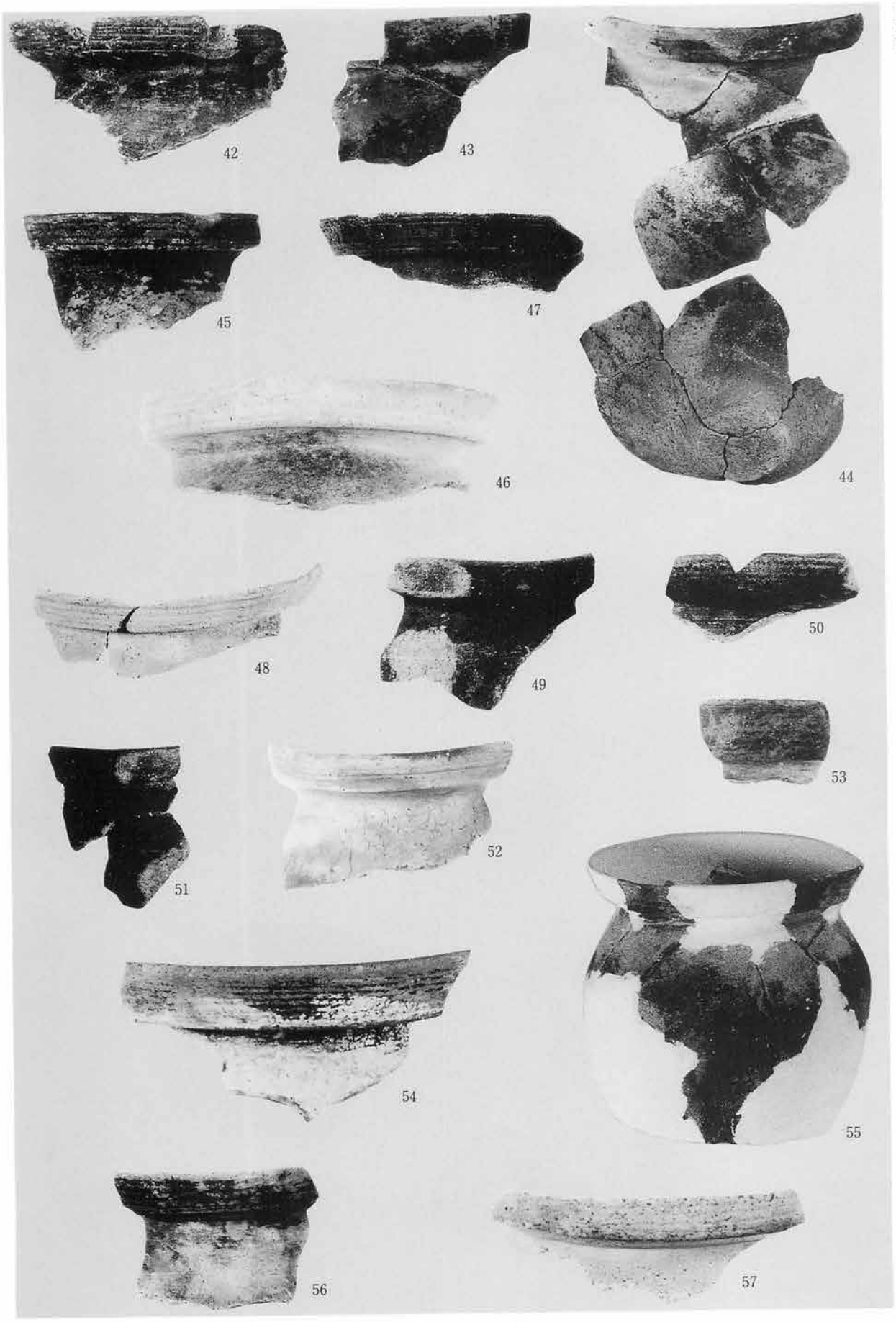
1号溝出土土器（壺）



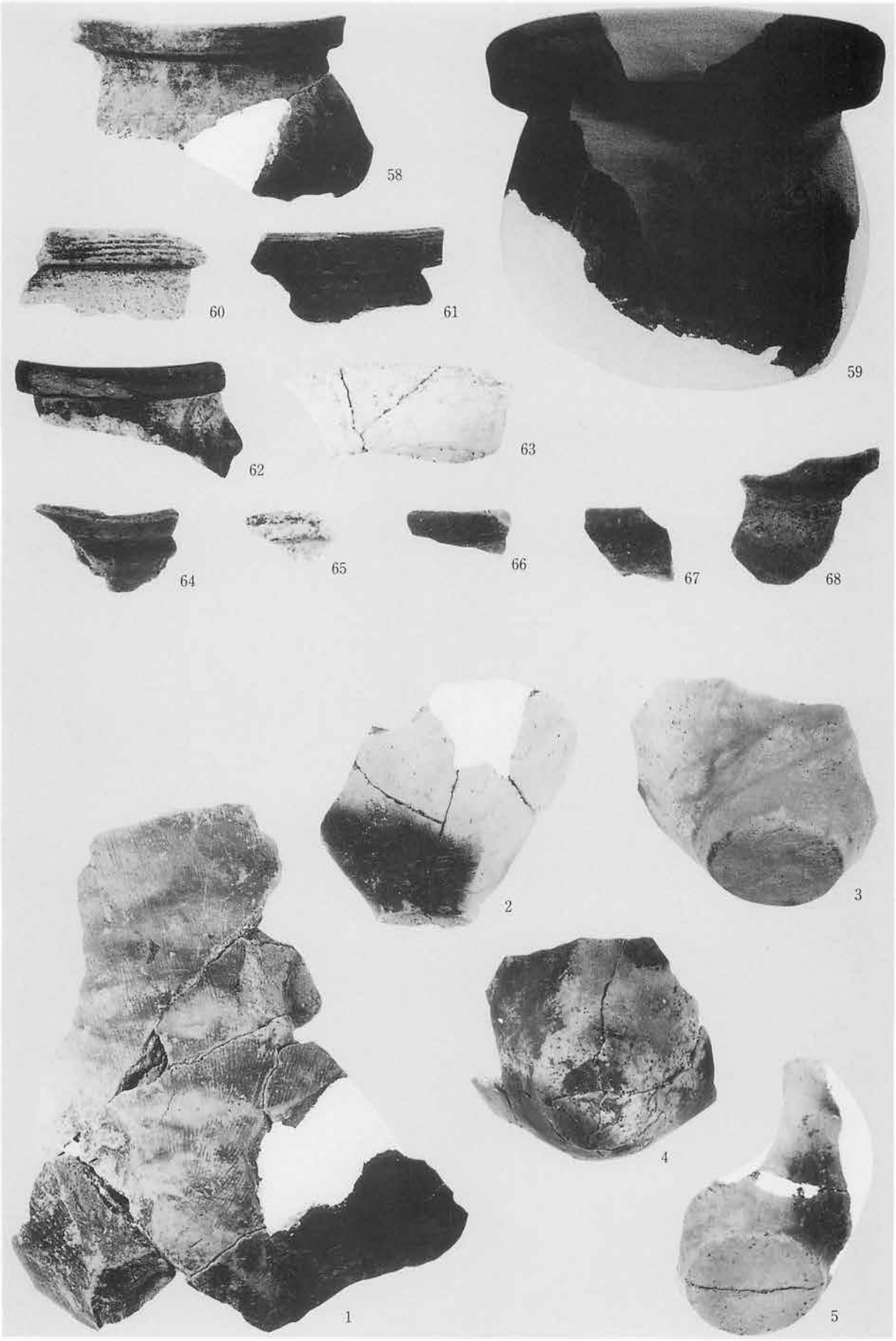
1号溝出土土器（甕）



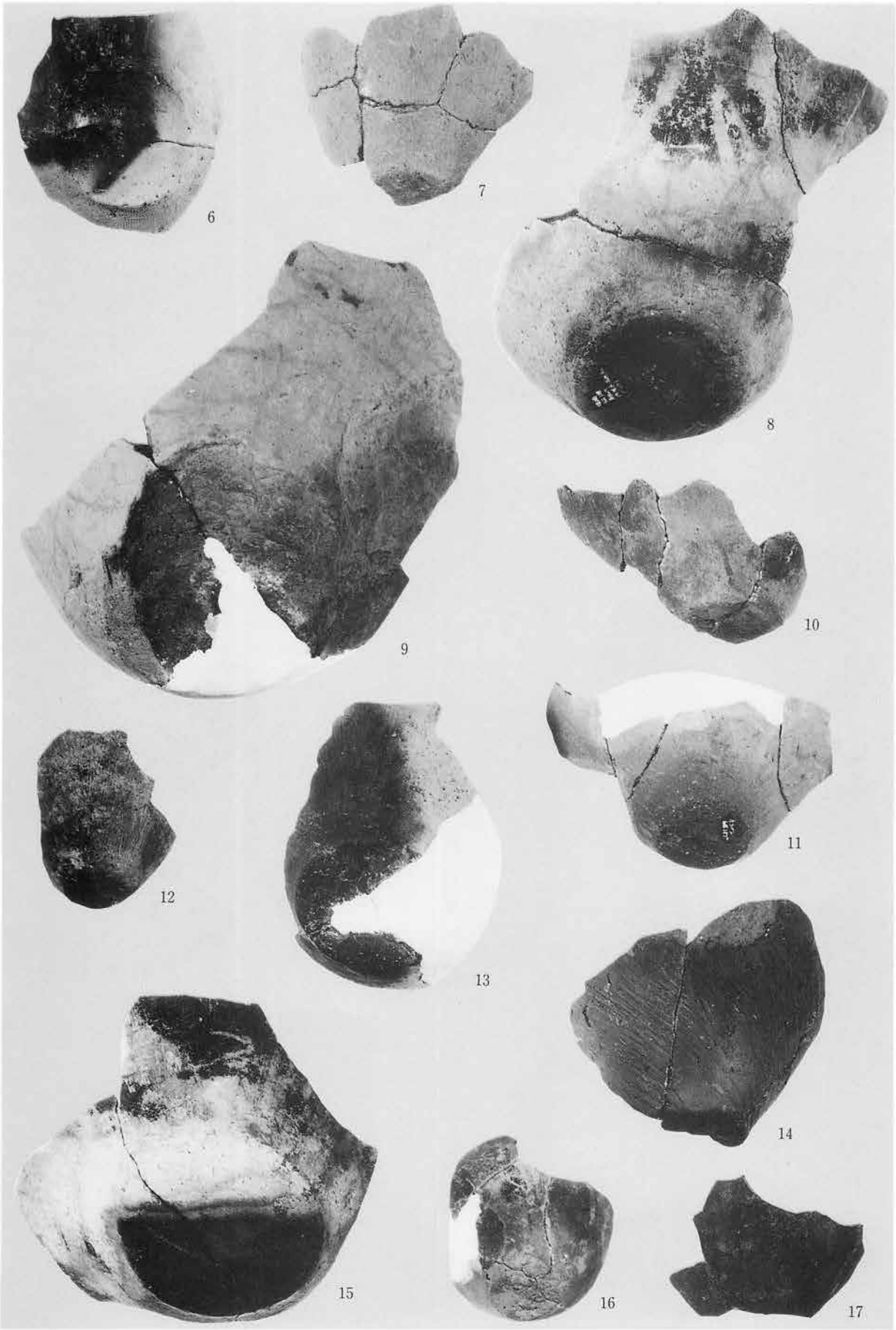
1号溝出土土器（甕）



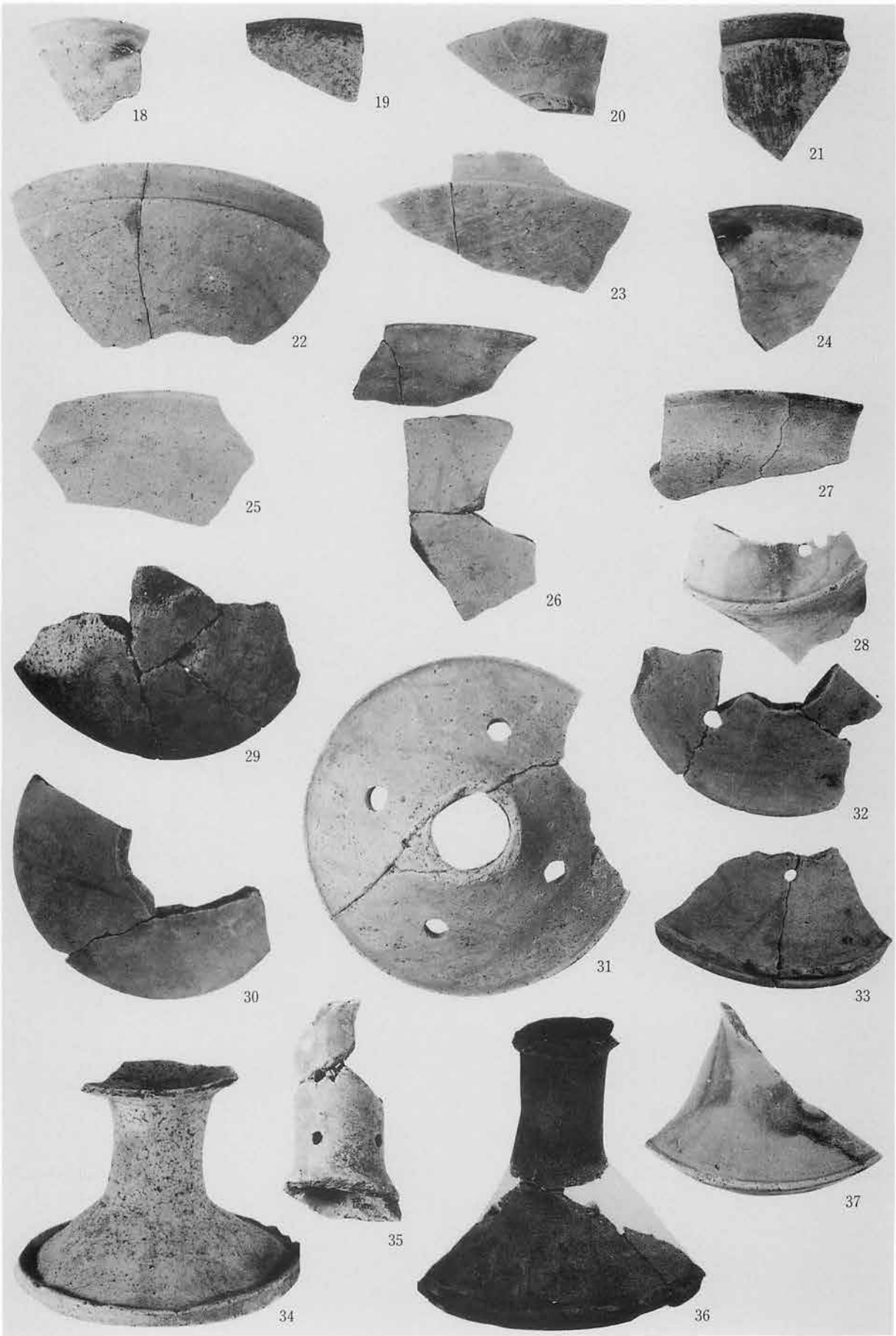
1号溝出土土器（甕）



1号溝出土土器（甕、壺・甕底部）



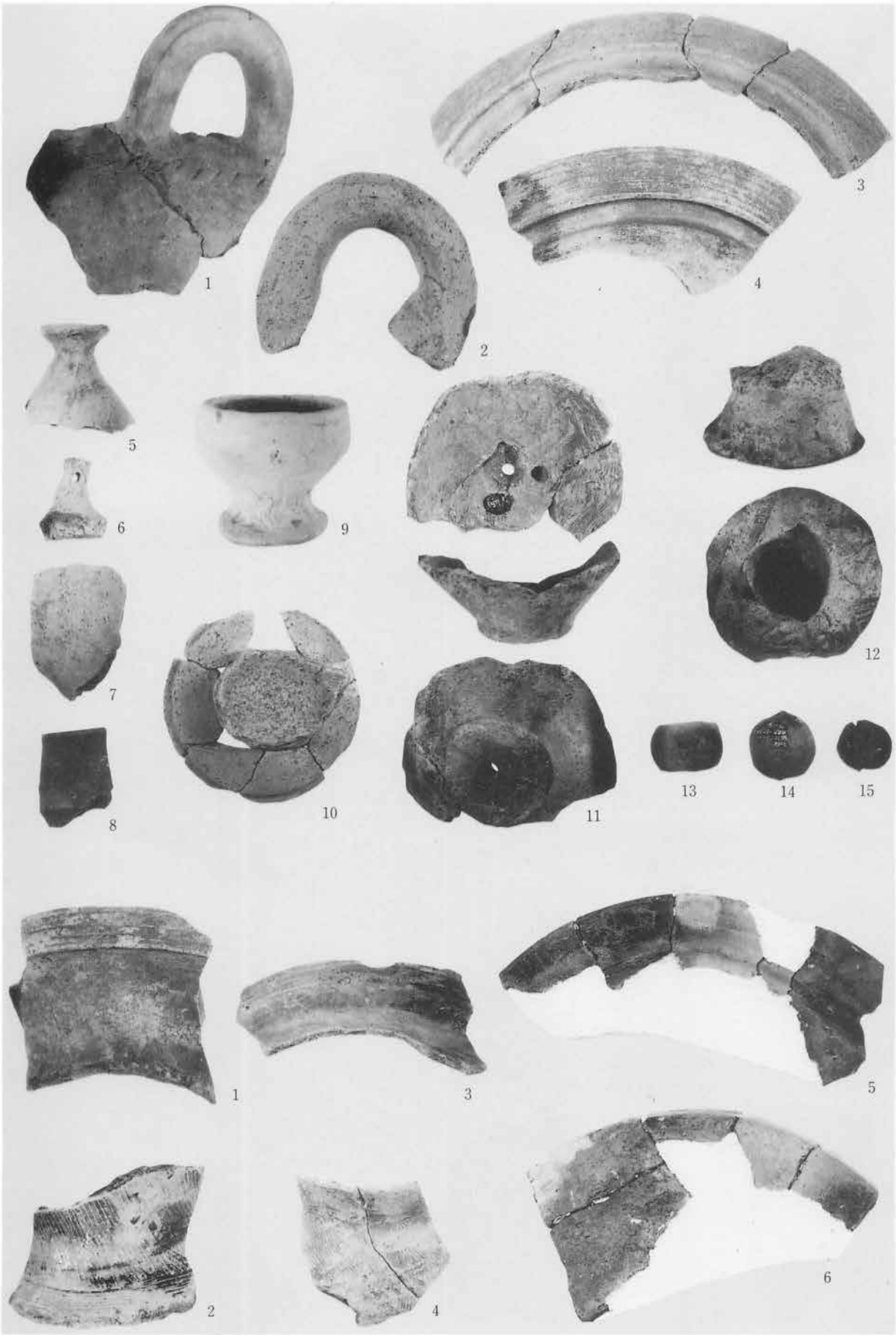
1号溝出土土器（壺・甕底部）



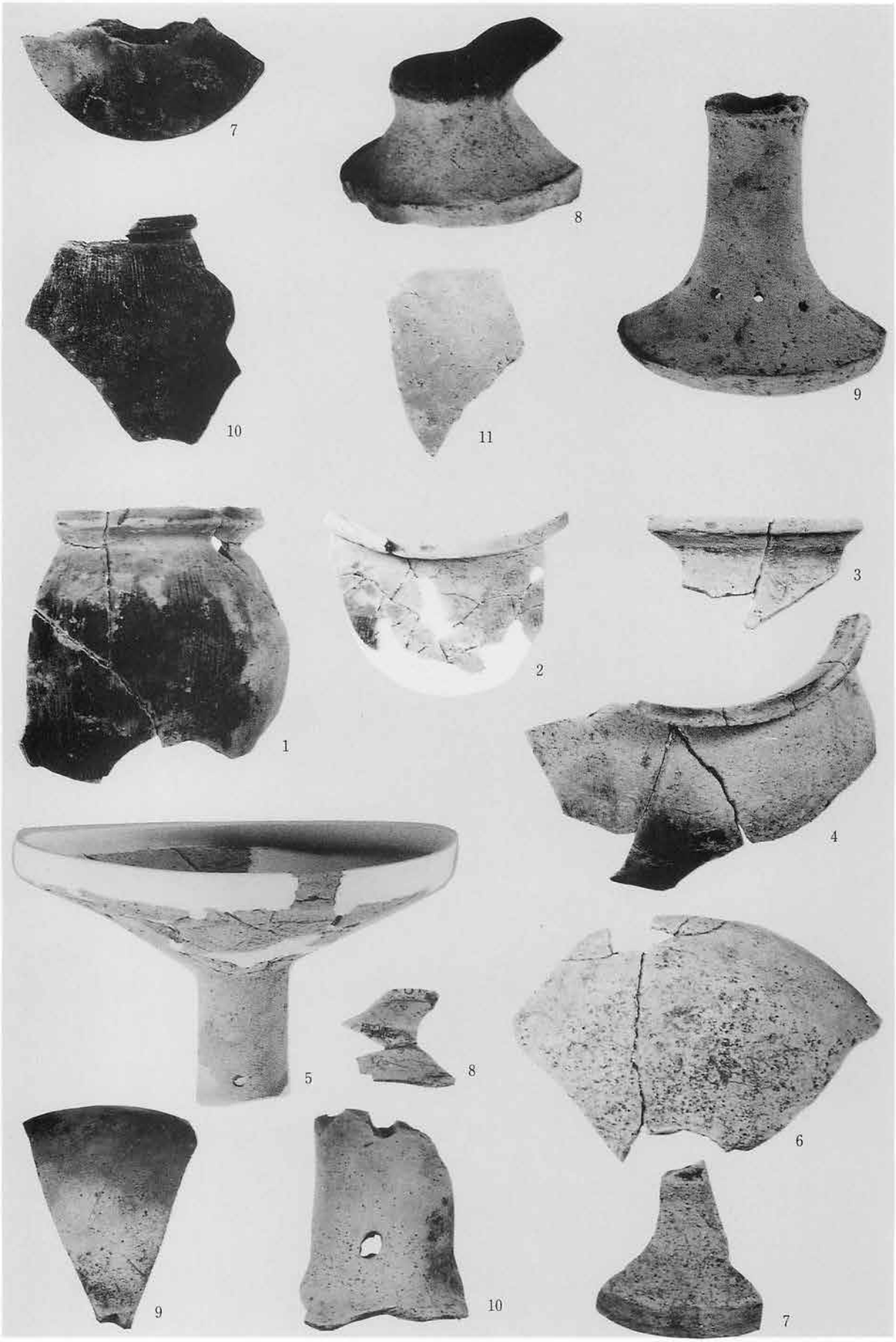
1号溝出土土器（高坏）

1号溝出土土器（高坏・器台）

1号溝出土土器（器台）

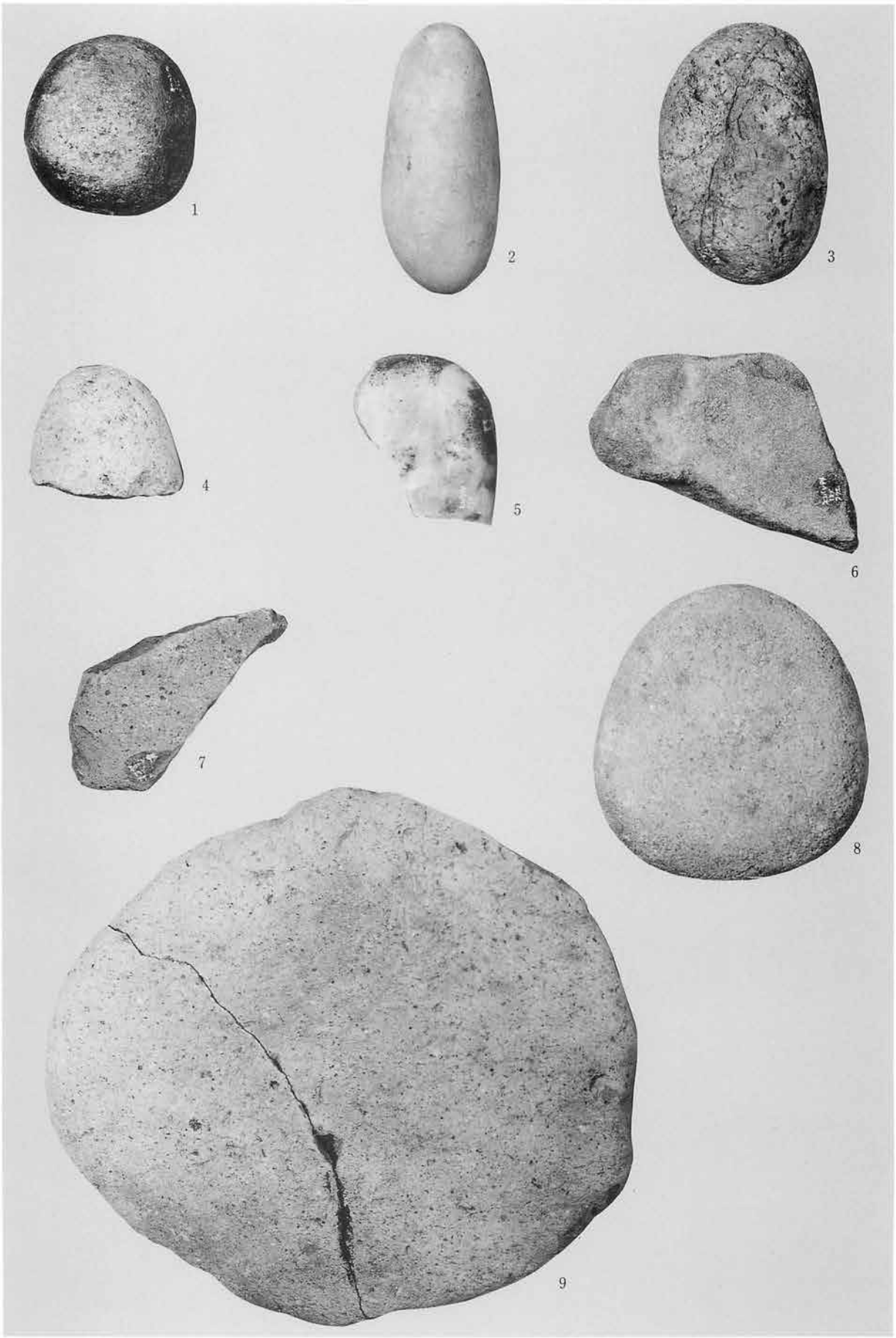


1号溝出土土器（その他）・9号溝出土土器



9・10号溝・包含層出土土器

立ち会い調査（昭和62年）出土土器



出土石器

6

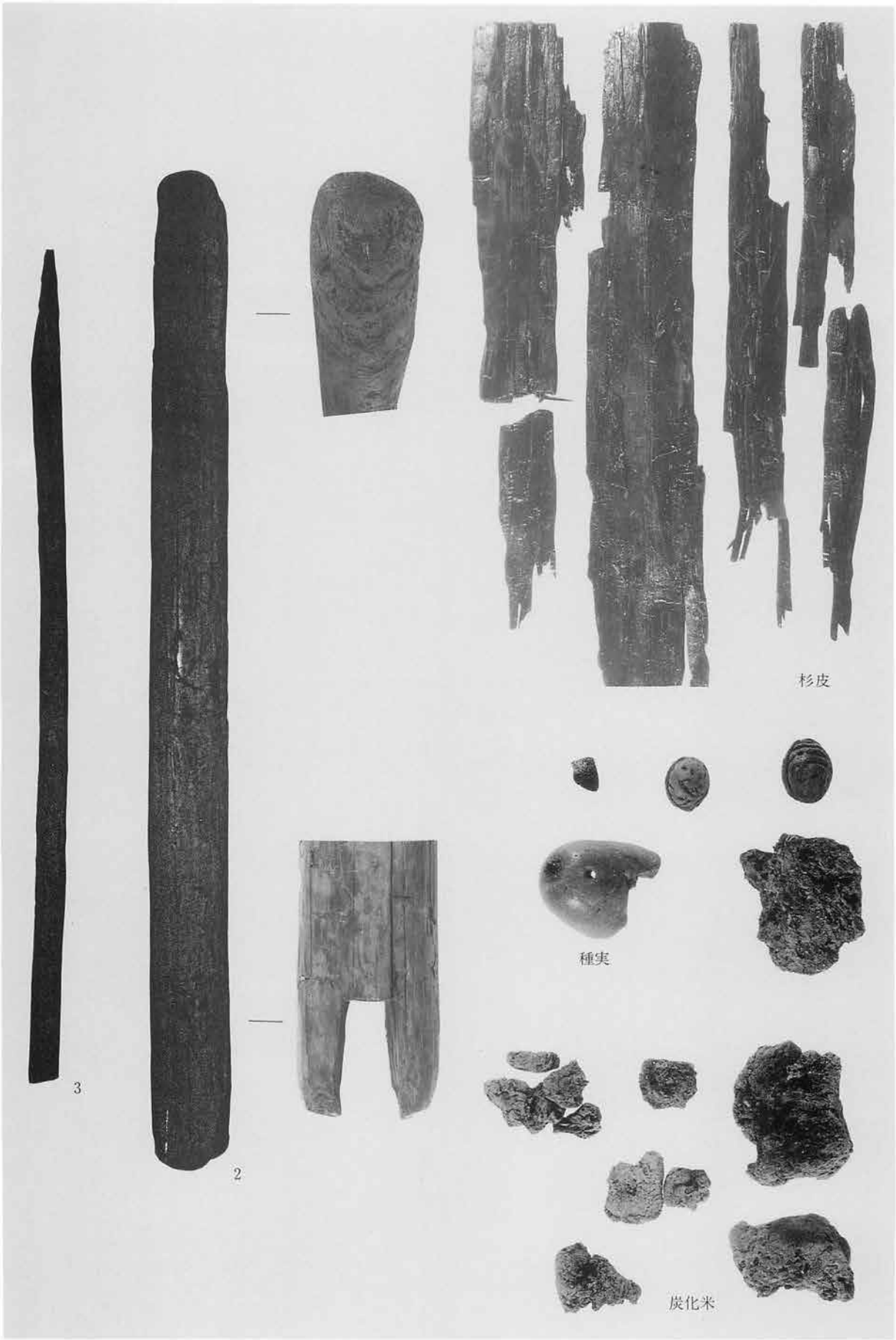
7

11

12

13

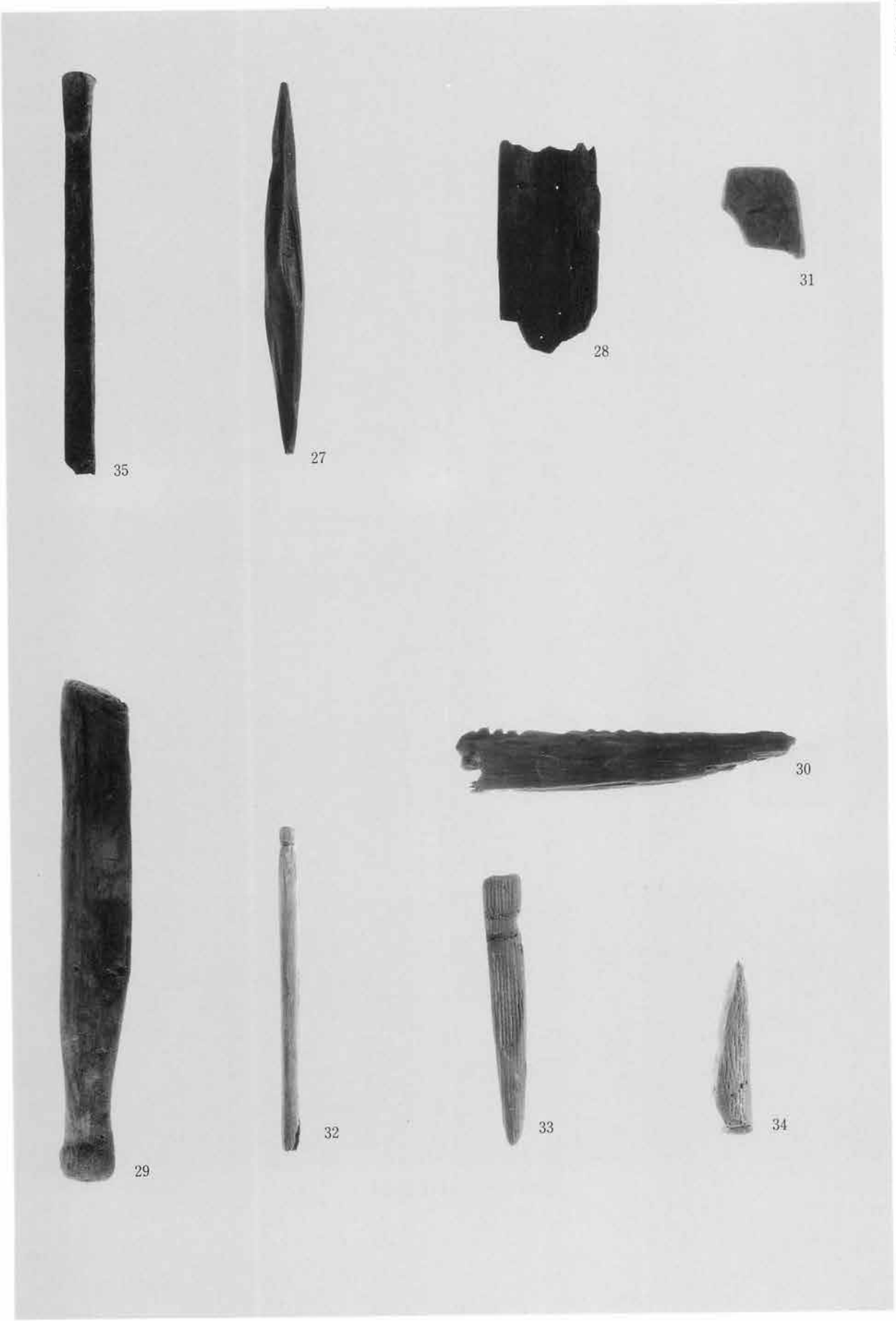
柱穴礎板



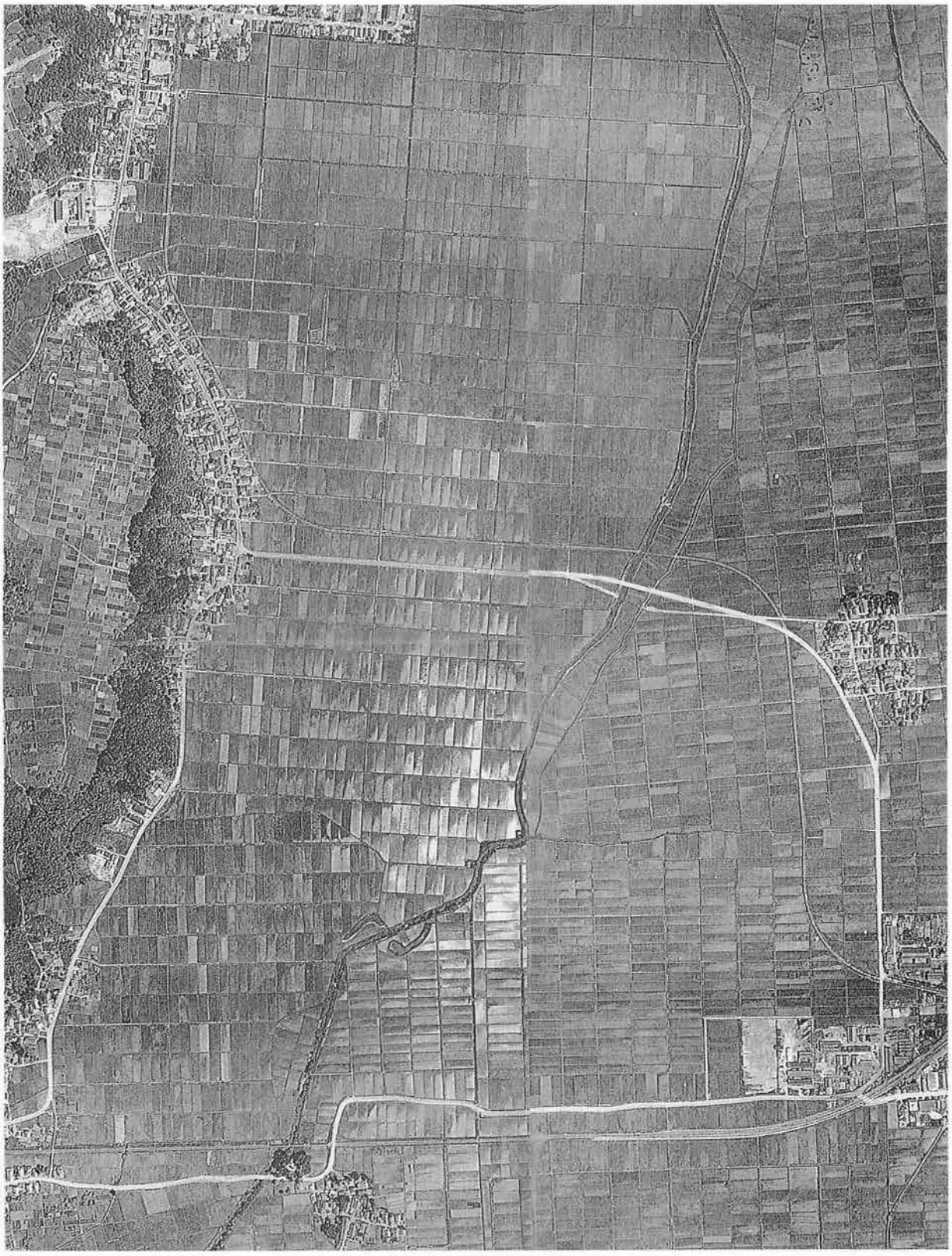
出土木製品他

出土木製品

出土木製品



出土木製品



昭和36年頃の猫橋遺跡周辺

猫　橋　遺　跡

水田営農活性化排水対策特別事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書

発　行　日　　平成9年3月31日
編集・発行　　石川県立埋蔵文化財センター
石川県金沢市米泉4丁目133番地
〒921　電話（0762）43－7692
印　　刷　　（株）橋本確文堂